

MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

Conquest Side Book



HISTORY OF CENTURY

— 宇宙世紀年表 —

U.C.0078

01-03 一年戦争勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対し独立を宣言。官製兵器と民間にサイド1、2、4を供給。N級兵器の専断的投入。コロニー落としにより大規模な民衆運動が起る(1-3-1 10までの期間は一週間の戦争と称す)

01-15 ルウム結成。連邦宇宙艦隊北。公国軍は戦時司令のレビルを補佐

01-31 南條条約締結

02-07 公国軍 地球強化作戦開始

03-01 公国軍、第一次地下作戦展開

03-11 公国軍、第二次地下作戦展開

03-13 公国軍、連邦軍のキャリフォルニアベースを制圧

03-18 公国軍 第三次地下作戦展開

04-01 連邦軍、「V作戦」及び「ヒンソク計画」を発動。MSパイロットの養成開始

05 公国軍、宇宙要塞ア・バオア・クー、ノロモン グラナダを結ぶ本土防衛ラインを完成。フナガン軍機製造

07 連邦軍、エネルギーCAP技術確立によるビーム兵器の小型化に成功。ホワイベース建設。ガンダム1号機ロールアウト。RX-78の完成をもって、RX-78計画実行。先行量産型生産開始。軍要拠点を中心として試験的に配属。例年MS支援のための各種兵器の開発開始

08 連邦軍、サイド7においてガンダムの最終テスト開始。オーガスタ基地においてNT-1開発開始

08-18 公国軍の特務部隊がサイド7の1バンチを襲撃。ホワイベース占拠

10 連邦軍の各工廠でMSの量産開始。公国軍、村防の新たな新兵器と次々と実験配備。フナガン機機。サイコ3Dコミュニケーションシステムの試作型を開発

10-04 地球軍司令官ガルマ・ザビ大佐戦死

10-08 ギレン・ザビ、各地軍軍の再編を指揮

11-07 連邦軍、オーガスタ作戦を策定

11-30 公国軍、連邦軍に本軍ジャブロー攻撃開始。公国軍地上戦力の瓦解が始まる

12-09 公国軍の特務部隊、北極圏を襲撃

12-24 ソロモン島地帯襲撃。公国軍敗退。宇宙要塞軍司令ズル・ザビ中将戦死

12-29 連邦軍、第一特作隊発動

12-30 公国軍、ソーラ・レイ作戦開始。デギン公王死。連邦軍、レビル艦隊を喪失

12-31 ア・バオア・クー降参。エギーユ・デラーズ、配下の艦隊と共に戦艦を襲撃

U.C.0080

01-01 一年戦争終結。同盟において連邦連邦政府とジオン共和国の間に停戦協定締結。アムランにおける資源地帯の、グラナダに於いて正式調印が行われた。エギーユ・デラーズ、アムラン行きを沿う公国軍残兵を討伐。降参を再編成

03 デラーズ・フリード、南緯圏に移動。軍機基地「3の翼」設置開始

03-28 公国軍機、小規模軍機アムランに到着

10-20 連邦軍再建計画の一環として「ガンダム開発計画」が秘密室に閉鎖

U.C.0083

01 デラーズ・フリード、「ガンダム開発計画」再開

07-03 「3の翼」作戦計画立案

08 アクシス、新企画「ガンダリウム・ガンマ」の研究に成功

10-13 アルビオン トリントン基地に到着。核弾頭とGP02Aが保管される

11-10 4年ぶりに実行された連邦軍機部隊をデラーズ・フリードが襲撃。深底以下、参謀本部の23か機行不協以上の襲撃。同時に、従来の2と星のコロニーシグナ、そのうち1が月に落下を開始。連邦軍の残存軍機、コソベリを撃退する

11-11 デラーズ・フリード、アクシス先遣隊よりMAノイズ・ノールを襲撃。コロニーは地球圏下軌道へコースを変更。アルビオン、GP03と共にフアンローレスより発進

11-12 GP03、デラーズ・フリードと交戦。地球圏下軌道に入ったコロニーにソーラ・システムBを照射するも阻止できず

11-13 コロニーは北米大陸に落下

12 03 ジャミトフ・ハイマン提督によりティターンズ結成。旧公国軍機機隊再編成

U.C.0084

07-10 コロニー落下の真相とガンダム開発計画、共に正式公開より調査。関係者への軍機再調査

U.C.0085

07-21 30バンチ事件。ティターンズがサイド1の30バンチに軍機を投入し住民を虐殺。これにより、反地球連邦政府軍機機隊が発覚。エッゴ(A E U G)が結成される

U.C.0087

03-02 エッゴ、グリーン・ノア1ティターンズの試作MS3機を襲撃

05-11 エッゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を襲撃。時防衛機により基地は破壊。カラバと合流

08-08 ティターンズ、ルナツー宙域にグリプス2や紅ア・バオア・クーを移動。ゼダンの門完成

08-10 ティターンズ、アムラン作戦開始。フォン・ブラウン派を襲撃

08-17 エッゴの指導者、ブレノクス・フォーラ軍府降参される

10-12 アクシス 地球圏に帰還

10-14 エッゴ、アクシスに要請を送るも交渉は決裂

10-15 ティターンズとアクシスが連合を結成

11-16 エッゴ、ダカールの参謀降参を告。全世界にティターンズの真実を暴露

U.C.0088

01-18 アクシス、グリプス2を襲撃。グリプス2を占拠。アクシスはグラナダを攻め下軌道に

01-25 アクシスとティターンズが合流。ジャミトフ提督降参。以降、シロッコがティターンズを率領

02-02 エッゴ、メーシューローム作戦展開。連邦軍によりグリプス2を奪回。アクシスの軌道変更に成功

02-22 エッゴによるコロニーリバーガー発射によってティターンズ軍機は破壊。コロニーリバーガーも破壊し、エッゴ軍機力の大半を喪失する。シア・アズナブル行方不明



第1章
戦史大全3

第2章
人物史91

第3章
兵器資料館103

コラム001
英雄たちの会話90

コラム002
ギレンの野望外伝101

コラム003
生存率を上げるMS102

戦史大全



MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZABI

1-1000

宇宙世紀0079年1月3日

一年戦争勃発

REALITY

史実では……

一週間戦争

宇宙世紀0079年1月3日。
ジオン公国は地球連邦政府に対して
宣戦を布告。同時にサイド1、
2、4に奇襲攻撃を行い、NBC

兵器によってコロニーの住民を殲滅した。さらにこの作戦の最終目的であるコロニー落としが敢行されたが、地球に向かったコロニーは連邦の総攻撃によってアラビア上空で四散した。しかしコロニーの一部が地表に着落し、その時の被害で多くの人命が失われた。

ルウム戦役

失敗に終わったジャブローへのコロニー落としを再度敢行すべく、ジオン軍はサイド5（ルウム）に向けて進撃を開始した。対する連邦軍も総力戦を決意、ジオン艦隊の3倍もの大艦隊でサイド5へと向かった。こうして両軍はルウム宙域で激突、総力戦を展開した。

当初、圧倒的な兵力とレビル將軍の采配により、連邦艦隊優勢で戦いは進行していった。ジオン艦隊はコロニー落としの準備のため戦力を割いていたので、圧倒的に

不利だったのだ。やがて、ドスル・ザビ中将はコロニー落としを新念し、全戦力を艦隊戦に投入する戦いに切り替える。ミノフスキ粒子撒布下の宙域で戦うザクに対して、連邦の艦艇は有効な攻撃手段を持たず、次々と撃沈されていく。さらにレビル將軍が捕虜になったことで勝敗は決した。

この戦いで連邦艦隊は宇宙戦力の大部分を失うという致命的な打撃を受けた。しかしジオン軍も圧倒的勝利とは言えない。コロニー落としは失敗し、多くの艦艇を失う苦しい勝利であった。

オン公国を名乗り

ジオン公国を名乗り

ジオン公国を名乗り

ジオン公国を名乗り

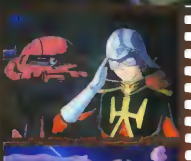
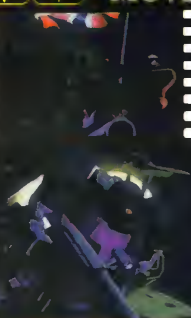
BOTH ARMIES
一年戦争

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



地球の命運はこの



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

1-JW'00N

宇宙世紀0079年1月31日

南極条約

REALITY

史実では……

ジオンに兵なし

宇宙世紀0079年1月28日。

ジオン公国は中立のサイド6を通じて、地球連邦政府に休戦条約締結を打診した。これを受けた連邦政府は、ルウム戦役の大敗で宇宙戦力の大多数を失い弱体化していたこともあって、この提案への受諾を表明した。締結の日は1月31日。永久中立地帯の南極大陸で条約の締結が行われることになった。

ジオン公国の戦争目的は元々この条約の締結にあった。人口や資源で圧倒的に劣るジオン公国は長期戦になれば勝ち目はない。そこで短期決戦で連邦軍を圧倒し、その軍事力を見せつけることでジオンに有利な条約を受け入れさせることが目的だったのである。

また、南極条約を控えたジオンは、ルウムでの華々しい戦果を武



↑ 傷病兵本国帰還用の輸送艦へと乗り込んだ連邦工作員の手により助け出されたレビル将軍。疲労の残るその身体で、連邦政府を鼓舞するために演説を行った

器に全地球規模で演説を行い、これを聞いたジオン国民の士気はこれ以上なく上昇した。

それに対し連邦軍は、士気高揚と名譽挽回を目的にレビル将軍の奪還を決意。特殊工作部隊を編成しサイド3へと侵入させた。しかし、作戦中に工作員との連絡が途絶え、レビル奪還は失敗に終わってかに見えた。

同年1月31日。南極大陸の連邦

軍基地で、ジオン・連邦双方の代表団による休戦条約締結のための会議が行われた。だが、条約上の休戦とは名ばかりの内容で、ジオン公国の独立自治権承認、連邦軍の軍事縮小といった事実上の降伏勧告だった。しかし、連邦政府には徹底抗戦する戦力も残っており、この条約を飲む以外になかったのである。だがこの時、奇跡が起こった。ルウム戦役で捕虜となつたレビル将軍が奇跡の生還を果たしたとの報が舞い込んだのだ。会場は騒然となり、会議は一時中断されることとなった。

レビル将軍は通信可能な回線を使い全地球規模で演説を行った。「私はこの目でジオンの内情をつぶさに見てきた。我が軍以上にジオンも疲れている。先日のコロニー落としとルウムでの戦いは、ジオンにとってもギリギリの勝利でしかなかったのだ。我々も苦しいがジオンも苦しい。彼らに残された兵力はあまりにも少ない！」

これが後に語られる「ジオンに兵なし」の演説である。この演説により連邦軍は息を吹き返し、連邦の代表団は徹底抗戦を決意。条約はその内容を大きく変更されることとなった。

条約締結



↑ シンが戦争開始以前より進めていた計画は、すべて水没と化してしまつた。これを受けたギレンは、地球降下作戦を実行に移すことを決意するのである。

レビルの演説を聞いた連邦首脳陣は徹底抗戦を決意。結局「南極条約」は軍事条約の締結のみに留まる。なお、締結された条約内容は「NBC（ニークリアー）核・バイオ〇生物・ケミカル〇化学）兵器及び大質量兵器（コロニー爆弾など）の使用禁止と、その他の兵器の使用制限（ただし核動力は、制限付きでこれを認める）」「木星エネルギー船団、月面恒久都市、中立区域への攻撃禁止」「捕虜への虐待禁止など、捕虜に対する基本的人権の遵守」であった。ジオン側の思惑は脆くも崩れさり、戦争は長期化の様相を呈していった。



EARTH FEDERATION SPACE FORCE

英雄の帰還

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAM

PRINCIPALITY OF ZEON

大いなる誤算

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAMThe Movies of MOBILE SUIT GUN-
DAM

1-JW.COM

宇宙世紀0079年2月7日

地球侵攻作戦

REALITY

史実では……

降下作戦開始

南極条約が戦時条約に留まったため、ジオン公国の思惑は完全に崩壊してしまった。残された道は唯ひとつ、徹底抗戦のみである。

方針が決まったことでジオンはかねてより進めていた「地球侵攻作戦」をすぐさま実行に移した。コロニー国家であるジオンは固有の資源を持たない。そのため、長期戦に耐えるための資源調達には必要不可欠の問題であったのだ。

宇宙世紀0079年2月7日。

ジオン軍の地球侵攻作戦が開始される。艦底にコムサイ（降下用カプセル）を装着したムサイや多数のH.L.V.が地球の衛星軌道上に集結したが、この時期の連邦軍はルウム戦役で多くの艦艇を失っており、ジオン艦隊を食い止めることはできなかった。さらに、ジオンが衛星軌道上からミノフスキー粒子を散布したため、レーダーが使えなくなった連邦軍は正確なジオン軍の降下地点を掴めなかった。結局連邦は有効な迎撃を行えないまま降下作戦を許すことになる。

ジオン軍は2月中に大規模な降

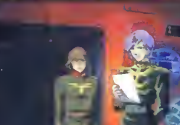
下作戦を3回行い、地上の重要拠点を支配下に置いていった。



1 連邦軍では当初、重力下において巨大なMSを使用することを疑問視していたが、戦車よりも高い機動力と強固な装甲を持っているMSは動く砲台として活躍した。

PRINCIRALITY OF ZEON
地球侵攻作戦

MOVIES





PRINCIRALITY OF ZEON

地球侵攻作戦目的達成

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



PRINCIRALITY OF ZEON

オデッサ占領 シンボル

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



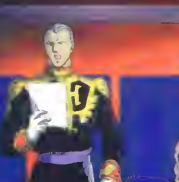
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

1-1000

宇宙世紀0079年4月1日

V 作戦

REALITY

史実では……

連邦軍のMS開発

V作戦とは、連邦軍の戦略を根本から立て直すために提案された、MSと新造戦艦の開発作戦のことである。ルウム戦役で大敗した連邦軍は、敗北の原因であるジオン軍のMSに対抗するため、連邦軍のMSとそれを運用するための新造戦艦の開発を早急に実行しなければならなかった。

そこで、連邦軍の技術者であるテム・レイから提案されたのが、V作戦であった。

連邦軍は、ジオン軍に比べると十年遅れているというMSの技術を半年で取り返すため、予算を度外視した形で作戦を進行させた。戦場で回収したジオン軍のMSザクの解析から始まったこの作戦は、発動からわずか3ヶ月で、ジャブローにおいてホワイトベースが完

成。同時期に進められていたRXシリーズのMSの開発は、8月にサイド7の重力地帯で最終慣熟テストが行われるまでこぎ着けることができた。

この時点でV作戦における開発はすべて終了し、ホワイトベースは、MSの最終慣熟テストの行われているサイド7へ出航。ここでRXシリーズの回収を行えば、作戦は終了するはずであった。



ジオン軍のMSザクに対抗する手段として、連邦軍でもMSの本格開発が提案された。

IF ゲームでは……

ジオン編

史実では、ジオン軍は諜報部の情報により連邦軍のV作戦を察知し、シャア・アズナブルをサイド7へ調査に向かわせることで物語は始まる。

ゲームにおいても、サイド7の調査計画が提案されるわけだが、このプランを発動させなければ歴史は史実と違った方向へ動き出す。サイド7におけるガンダムとの戦闘に参加しないため、デニムとジンが生き残り、シャアも一般の兵士同様に、様々な作戦に参加させることが可能になる。さらに、ガルマの死さえも回避することができるのだ。

この結果、歴史上初のMS同士の戦闘は、さらに先延ばしになり、史実とはまったく違った歴史を歩むことになる。

一方、WBの艦長に就任したバオロム、シャアの率いる部隊によるWBへの攻撃がなくなるため史実のように死亡することなく、一年戦争を戦い抜くことになる。

連邦編

史実では、連邦軍を勝利へと導くV作戦。しかし、ゲームはV作戦を発動しなくても物語を進めることは可能である。

しかし、MSの開発ができない連邦軍は、一年戦争をより厳しい状況で戦わなければならないことになる。連邦軍の持つ兵器で、ジオンのMSを倒すのはかなり難しいのだ。

また、V作戦が発動されなければ、サイド7において民間人を登用したWB隊は結成されず、深刻なパイロット不足に悩まされることになる。

V作戦を実行せずに20ターンが経過すると、戦況の不利を打開すべく開発部から「MS・MAの研究」が自動的に提案される。この提案を実行しなければ、以後連邦にMSが誕生することはない。

一方、パイロットに関しては、35ターン目に一般人から臨時徴兵が行われることで、WBの乗組員が通常のパイロットとして戦線に参加することになる。

この流れから、連邦軍にとってV作戦がどれほど重要な作戦であるかが判るはずだ。



EARTH FEDERATION SPACE FORCE V作戦終了

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

のになるでしよ



EARTH FEDERATION SPACE FORCE V作戦実行

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

る唯一の手段、V作戦。

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

のになるでしよ

1-JW0001

宇宙世紀0079年4月1日、

ビンソン計画

REALITY

史実では……

宇宙艦隊の復活作戦

V作戦の実行と同じ日に、連邦軍では、もうひとつの兵器開発計画が発動された。ルウム戦役の大敗によって大量に失われた、連邦軍の宇宙艦隊を復活させるビンソン計画である。

この計画は、対MS戦やミノフスキー粒子下での戦闘を考慮した、艦艇の改造と補充を目的としたものである。

リーダーに頼らない、手動による兵器の操作や光学目標に対して反応する主砲の装備、そしてMSを搭載可能にする特殊な格納庫の装備などが、連邦軍艦隊の主力艦であるマゼランとサラミスに施された。

MSが出現する前までの古い戦法を踏襲した、大艦巨砲主義を色濃く押し出したこの計画は、連邦

軍の高官たちの中では強く後押しされていたのだ。

一方、ジオンのMSに対抗すべく提案された、MS開発計画であるV作戦は、古い固定観念を持った連邦軍の高官たちに強く反対される結果となった。しかし、皮肉なことに、一年戦争を勝利に導いたのは、軋轢が強かったV作戦によって誕生した連邦軍のMSだったのだ。



↑連邦高官から提案されるビンソン計画。しかし、優先度としてはV作戦のほうが上だ

IF ゲームでは……

↓ 連邦編

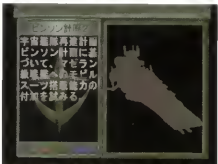
一年戦争において、戦局を左右するMS開発計画であるV作戦に比べて、艦船ユニットの強化を主眼としたビンソン計画はさして重要なプランではない。

このビンソン計画が実行されることによって変わることは、連邦軍の主要艦船ユニットであるマゼランとサラミスの能力が多少上がる程度で、MSや小型戦闘機の搭載が可能になる艦船を生産することが可能になるため、多少戦場での運用が楽になるが、戦局に大きな影響はない。

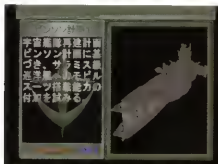
第2部に向けて、さらなる艦船ユニットの前段階となるので、プランを実行しておいて損はないだろう。ビンソン計画を実行せずとも、一年戦争の歴史は変わらないが、宇宙空間での戦闘を少しでも有利に進めるために、初期段階で実行するのをすすめる。

一年戦争の後半では、マゼランやサラミスの増産が必要になってくるので、その時にはMSの搭載可能な強化型を投入するのが望ましい。そういった、意味からも資

金的に余裕のある序盤から、史実に通りに作戦を実行するのが無難だろう。



↑ビンソン計画によって生産が可能になるマゼランK 長距離射撃能力が高い戦艦である



↑同じく、ビンソン計画で生まれ変わったサラミスK MSの搭載が可能だが、戦闘能力は低い

サイド7 遭遇戦

REALITY

史実では……

MS同士の間

MSの運用テストの結果が良好だったため、連邦軍はMSを回収するためにベガス級強襲揚陸艦WBをジャブローより発進させた。しかしこのWBは、ジオンのムサイ級巡洋艦に捕獲されてしまう。連邦軍にとってさらに不運なことは、ムサイ級強襲揚陸艦を指揮していたのがルウム戦役で名を馳せたシャア・アズナブル少佐だったことである。シャアはWBの航路から目的地がサイド7であることを見抜き、MS一個小隊をサイド7へと向かわせた。作戦に参加した3機のザクのうち1機はコロニー外壁に残り、他の2機は内部に侵入して偵察活動を行った。その際に連邦軍が発見したMS群を発見したザクはそのまま攻撃に移行。その奇襲によって駐留軍は壊滅状

態に陥った。だがその時、突如として連邦の新型MSガンダムが起動し、破壊活動を行っていた2機のザクを撃破する。驚くべき事にこの時ガンダムに搭乗していたのは、アムロ・レイという15歳の少年だった。アムロはそのままガンダムの仮パイロットとしてMS部品の回収作業を行ったあと、ホワイトベースと共にルナツーへ向け就航していった。



↑初のMS同士の戦闘となるアムロのガンダムとシャアのザクII。アムロは初めての戦いでザクII 2機を撃破している。アムロとガンダムの伝説はここから始まる

IF ゲームでは……

ジオン編

史実でのサイド7遭遇戦は、ゲリラ掃討作戦の帰還中にシャアが連邦の新造戦艦を発見、追跡することで物語が始まる。しかしゲームでは、サイド7に潜入した諜報部員からコロニー内に連邦軍施設を発見したという情報が入り、ここでシャアに調査を命じるか否かが一連の流れが始まる。調査を命じないと、幾度となくドズルに説得され、結局シャアを派遣することになる。調査を命じられたシャアは部下と共にサイド7宙域の調査に向かうが、その後は史実と同じように調査に向かったザク2機とパイロットのジン・デニムがガンダムに敗れて戦死してしまう。そのあとシャアは追跡を続けるため補給隊の派遣を待つことになる。この時補給隊を派遣すると史実どおりガンダムが戦死してしまう。また、ガンダム補給隊を派遣しなかった場合、シャアは部下たちを本国へ帰還させ、ひとりで木馬に挑み破れてしまう。その後、シャアは消息不明となってしまうが、8ターン後に無事発見される。

連邦編

V作戦終了後から1ターン後に起こるRXシリーズ回収計画（この計画は5ターンで消滅してしまふ）。この計画はV作戦で得たデータをジャブローに持ちかえるというものである。その際はWBを攻撃させ、試作機とデータを回収させる。計画を実行すると、艦長をバオロとしてサイド7へと向かわせることになる。その後、ルナツーのワッケインより緊急通信が入り、サイド7遭遇戦の話が聴き、WBの乗組員の処遇を決めることになる。自力でジャブローへ向かわせるように指示すれば史実どおり物語は進んでいくが、ここでWB隊を解散させると、ガンダムやWBなどのユニット、そしてアムロやブライトなどのキャラクターを戦力として使用することができない（この際バオロ艦長はどちらを選んでも死亡してしまうキャラクターなので注意）。また、V作戦で得られたデータがルナツーに届くと、V作戦の研究結果を得たことにより開発技術などが上昇する。さらに、ガンダムとWBの開発プランが獲得できる。



EARTH FEDERATION SPACE FORCE

サイド7遭遇戦 (地球版)

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



サイド7に戦うガンダム



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

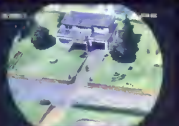


PRINCIPALITY OF ZEON

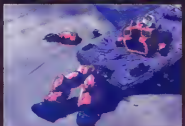
サイド7遭遇戦 (ジオン版)

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



「J」W.O.O.N

宇宙世紀0079年9月23日

木馬追撃戦

REALITY
史実では……

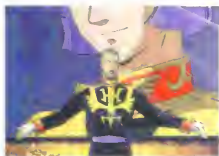
ガルマ・ザビ戦死

ルナツーより出航したWBは自力でジャブローまで向かうことになり、地球大気圏上層にまで降下を開始していた。その時WBを追跡していたシヤアは、大気圏突入直前の防御が手薄な瞬間を狙って攻撃を開始する。しかし、ガンダムは活躍によってシヤアのMS隊は撃破され、ガンダムは単独での大気圏突入を行い成功する。だが、この攻撃によってWBは予定降下地点を大きく外れ、ジオン地上軍の勢力圏内へと降下してしまう。このことを確認したシヤアは北米ジオン軍をとりしきるガルマ・ザビ大佐と連絡を取り、迎撃部隊の出撃を要請した。WBはこの迎撃部隊と交戦し、その猛攻を見事耐え抜いて敵を排除することに成功している。このあと、WBは連邦

軍の輸送部隊と接触して物資の補給を行い、10月4日にはジオン最終阻止ラインまで接近していた。その報を受けたガルマは自ら攻撃部隊を率いて現場へと向かい、雨天野球場に逃げ込んだWBに対して絨毯爆撃を敢行した。この時ガンダムを発見したガルマはすぐさま追撃に移るが、そこで待ち伏せしていたWBとMSによる一斉砲火を受ける。この集中砲火を背後から受けたガルマ隊は全滅に近い被害を受け、指揮官のガルマもガウ攻撃空母で特攻をかけて散っていった。「ガルマ・ザビ戦死」の報せはその日のうちにジオン本国へと伝えられた。直ちにザビ家一党に召集がかかり、ガルマの葬儀について議論がなされた結果、ギレンの提案でガルマの葬儀は国葬として盛大に行われることが決定した。こうしてガルマの死は戦意昂揚が目的のプロパガンダとして利用されることになってしまった。

IF
ゲームでは……

ジオン編



↑テキン公王はガルマの葬儀に密葬を希望したが、葬儀は国葬として執り行われた。そして、あらゆる通信回路を用い、全宇宙的規模で国葬と大演説が放映された。

木馬の北米降下は、シヤアに補給を送ったが否かで流れが異なる。送っていない場合、北米に迷いこんだ木馬をシヤアの仇討ちとばかりにガルマが攻撃を仕掛けるが敗北してしまう（ただし戦死することはない）。送っていた場合は、史実どおりにはガルマは木馬の攻撃に失敗して戦死し、「ガルマ・ザビの国葬」が提案されることになる。その後、シヤアを処罰するかを問われるが、処罰するとシヤアは謹慎となり、処罰しなければ戦力として使えるようになる。

連邦編



↑カルマの国葬は宇宙世紀0079年10月6日に行われ、その様子は連邦軍の秘密回線にまで流れた。ギレンはガルマの死を利用して、ジオン軍の戦意向上を図ったのだ。

ルナツーでWBを解散させずにジャブローに向かうことにした場合には以下の出来事が起こる。WBは大気圏突入時にシヤアの攻撃を受けて北米に降下してしまう。そこでマチルダはWBに補給を行うことを進言してくる。ここで補給部隊を送らないと、WBは北米のジオン地上軍に敗北してしまう。その際、乗組員たちは救出されて戦力として使用できるが、WBやMSは破壊されてしまう。補給を送った場合は、北米のジオン地上軍に勝利し、ガルマ・ザビを戦死させることができ、その後ガルマの国葬が中継映像で放映される。

PRINCIRALITY OF ZEON
ガルマの国葬



MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



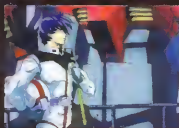
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



否、始まりである



1-10000

宇宙世紀0079年10月6日

ランバ・ラルとの死闘

REALITY

史実では……

青い巨星

ジオンはガルマの仇を討つべく、青い巨星ランバ・ラルをWBに差し向けてくる。ランバ・ラル隊は、マ・クベ大佐が治める鉱山基地から補給を受ける予定だったが、ヨロップで連邦軍が大規模な反撃作戦を企てているとの情報があり、満足な補給が得られなかった。ランバ・ラル隊はそんな厳しい状況下でWBと戦うことになる。

一方、WBはランバ・ラルと戦いながらも新たな指令を受け取っていた。その内容とは連邦軍の「オデッサ作戦」への参加要請であった。その後、WBはアムロの脱走などのアクシデントもあったが、MS戦闘や白兵戦などの戦い方を見せるランバ・ラル隊に苦戦しながらも戦い続け、辛うじてこれを撃破することに成功した。

IFゲームでは……

ジオン編

史実どおりにはガルマが死亡してしまっている場合、シヤアを処罰したあと、ガルマの仇討ちのため青い巨星ランバ・ラルを派遣するようにとドズルから進言を受ける。だが、ガルマが生き残っている場合は、ガルマ自らが木馬を攻撃する許可を貰うためギレンのもとへと赴くことになる。しかし、ドズルに促されて、こちらもランバ・ラルの派遣をドズルから進言されることとなり、双方ともにランバ・ラルを派遣するかどうかの選択になる。派遣しなかった場合、その後諜報部によって連邦のV作戦の報告が入り、V作戦の全貌を知ることになる。ガルマの生存、死亡に関わらず、ランバ・ラル隊を派遣した場合は、地球に降下したランバ・ラルが太平洋で木馬を発見し、敵MSと交戦したとの報告が入る。その後、ドムの開発に成功していなかった場合、ランバ・ラル隊は全滅することになる。しかし、ドムの開発に成功している場合には、ランバ・ラルから戦力の補給を求め連絡が入る。この時、ドズルはドムを送ろうとするが、キシリアによって待たがけられる。このキシリアの要請に従うと、史実と同様にランバ・ラルとその部下たちが戦死し、ランバ・ラル隊は全滅する。だが、ここでキシリアの要請を却下し、ランバ・ラル隊にドムを送ると、後に連邦の白いMSを撃破したとの報告が入る。また、同時に木馬と他のMSの奪取に成功したとの報告を受けるが、木馬の乗組員は捕虜にできない。このためV作戦の秘密は、後に諜報部によって全貌が明かされることになってしまう。



MS-09 ドム

連邦編

ガルマ・ザビの国葬の報告が入った直後、青い巨星ランバ・ラル率いる独立部隊の攻撃を受け、それに伴い物資が底を尽きてしまったと、WBから連絡が入る。この時期になるとレビルは、WBを一部隊だと考えるようになる。そこでマチルダは再び補給隊を送るのと進言してくる。ここでマチルダの補給隊を送らないと物資の乏しいWBはランバ・ラル隊に対抗できず敗北してしまふ。乗組員は救出に成功でき、これ以降も戦力として使用できるが、WBとMSは破壊されてしまうことになる。マチルダ率いる補給隊を送った場合、史実と同じようにランバ・ラルとその部下たちを戦死に追いやることもできる。しかし、その後の報告で、WBはランバ・ラル隊の残党と戦い撃破するも、ジオンのハモンへと特攻をかけたリュウが戦死したことを知らされる。また、WBからマチルダ隊が持ち帰ったガンダムの戦闘データがジムに移植すれば、ジムの性能向上を目的としたジム強化計画が立案される。この計画を実行に移すと、ジムタイプMSの性能が格段に向上する。



EARTH FEDERATION SPACE FORCE
ホワイトベース大冒険

MOVIES

特にガンダムのパイロット

異世界

The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



PRINCIRALITY OF ZEON
ホワイトベース大冒険

MOVIES

The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



WHITE BASE



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM



The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM

The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM

The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM

The Movie of MOBILE SUIT GUN-
DAM

がガンダムです。

『機動戦士ガンダム』

宇宙世紀0079年11月7日

オデッサの戦い

REALITY
史実では……

通説による地球圏最大の作戦

宇宙空間を拠点とするため、資源の少ないジオン軍に鉱物資源を提供し続ける、鉱山基地オデッサ。劣勢の戦いを強いられてきた連邦軍は、地球圏奪還に向けた起死回生の足掛かりとして、オデッサの陥落に乗り出す。

この戦いには、陽動部隊としてWB隊が作戦に参加し、ジオン側のMS部隊の大半は、WB隊攻略に割かれたために、残ったジオン側の勢力も連邦軍の圧倒的な兵力によって劣勢に立たされた。

この局面を打開すべく、オデッサの実権を握っていたマ・クベ大佐は水爆ミサイルの発射を強行。しかし、南京条約を無視したこの暴挙もWB隊の活躍によって阻止され、ジオン軍は最後の鉱物資源を宇宙に打ち上げ、オデッサから

の撤退を余儀なくされる。

連邦軍がジオンの重要拠点を陥落させたことで、地球上のミリタリーバランスは一気に連邦側に傾くことになった。そして、この戦いをターニングポイントとして、連邦軍はジオン軍掃討へ向け、宇宙への進軍を開始することになる。



↑オデッサでの戦いは、マ・クベとの駆け引きが歴史の重要な変化に関係している。

IF
ゲームでは……

ジオン編

連邦軍によるオデッサへの進撃に対し、マ・クベ大佐を任官させるかという選択を迫られる。

史実どおりマ・クベを任官させると、連邦軍との戦いで水爆ミサイルを発射し、重要な鉱物資源に大きな影響を与えてしまう。

ジオン軍にとってオデッサの戦いでの史実通りの選択は、デメリットのほうが大きい。史実と違った選択をし、歴史を大きく変えることが、ジオン軍を勝利へと導くのだ。



↑ガンダムの働きによって、水爆の危機は回避できる連邦軍にとってWB隊は頼れる部隊なのだ。

連邦編

連邦軍にとって、WB隊のオデッサ作戦への参加は、重要な意味を持っている。WB隊がオデッサ作戦に参加した場合、マ・クベによる水爆ミサイルの発射が、連邦軍のオデッサへの進軍の大きな障害となるのだ。

諜報能力が高ければ、エルラン中将のスパイ行為が事前に発覚し、ミサイル発射を阻止することができる。しかし、諜報能力が低ければ水爆ミサイルは連邦軍の部隊に直撃し、オデッサのエリア内に行進していた部隊の3割を失うことになる。

さらに、黒い三連星がオデッサに出現し、部隊が減った連邦軍はさらに厳しい戦いを強いられることになる。

WB隊を参加させなければ、マチルダが戦死するという歴史は、うまれぬものの、エルランの寝返りや黒い三連星の存命など、さまざまな部分で史実とは違った歴史が刻まれることになる。

今に迎える、この戦いを決する戦いが始まる、としていた。

EARTH FEDERATION SPACE FORCE オデッサ作戦



EARTH FEDERATION SPACE FORCE オデッサ占領 劇場版



「1990-0」

宇宙世紀0079年11月21日

ベルファスト上陸作戦

REALITY
史実では……

復活のシャア

キシリア直隸となったシャアは、大型潜水母艦マッドアングラーを旗艦とする特殊潜水艦部隊に配属され、戦線へと復帰した。

一方、オデッサの戦いで傷ついたWBは応急修理のため北アイルランド・ベルファスト基地に寄港していた。擔任草々その情報を掴んだシャアは、WBへの攻撃と諜報の二本柱の作戦を同時進行する。実戦配備された水陸両用MSを投入した海からの上陸作戦と、今後の戦局の趨勢を左右すると考えられるWBの内部情報をスパイに調査させる諜報作戦である。

ゴッグ・スゴックによるWB攻撃作戦はガンダムを大いに苦戦させたものの、WB隊の連携によりからくも逃げられ、作戦に参加した潜水艦ユーコンとすべてのMS、

パイロットのラサ、カラハ、マーシラを失う結果となった。

一方、民間人スパイ107号ことミハル・ラトキエは、クルーのカイ・シデンと接触、WBに乗りこむことに成功する。大胆にも自ら変装してWBに乗りこみ、彼女からWBの目的地は連邦軍本部ジャブローとの情報を得たブーンは、グラブコを駆りスゴックを率いて追撃戦を開始した。責任を感じたミハルはカイと共にガンベリーで迎撃に出るが……。結果、追撃に出た部隊は全滅し、ブーンは戦死。シャアは引き続きWBを追った。



MSM-03 ゴッグ

IF
ゲームでは……

ジオン編

潜水艦隊設立

大陸の間に広がる海。制海権を握ることは地球侵攻には不可欠である。しかし、海水を満たしたリソートコロニーでのテストは進んでいたものの、海のないジオンでは本格的な海洋兵器の技術は長らく未知の領域であった。

その状況を一気に打破したのがカリフォルニアの制圧である。ジオン軍は海洋基地に残されていた潜水艦を無傷で拿捕することに成功。データを入手した開発部は、潜水艦ユーコンの開発着手が可能となり、ジオン軍は部隊の輸送、海洋地域の制圧・攪乱などの戦略に大きな力を得ることが出来るようになる。開発終了直後、早速キ

シリアから潜水艦隊設立が提案され、設立が認可されるや否や、続けてその行動拠点となるハワイ諸島の攻略が生産が可能になるのを余程待ちかねていたようだ。ともあれ、ジオン軍潜水艦隊はこうして発足し、制海権確保に乗り出す。キシリアの手駒として……。



潜水艦ユーコン

マッドアングラー隊設立

その後キシリアは、水中から諜報・破壊工作活動を行う特殊潜水部隊「マッドアングラー隊」の設立を提案してくる。

古来より戦争における諜報は時に戦局を大きく左右する程に重要であり、それは宇宙世紀においても変わる事はなかった。特にキシリアの指揮下の部隊はそうした「からめ手」の作戦が得意なようである。

設立を認可すると、水中戦を得意とするブーンをサポートに加え、大型潜水母艦マッドアングラーを旗艦とした部隊の設立を開始する。さて、この部隊の設立に当たり、キシリアが隊長にと推薦してきたのはかつてドズルの部下であった舊のシャアだった。オデッサの戦いで最強の手駒であった猛者「黒い三連星」を失ったキシリアは、

シヤアをドスルから引き抜くなど、自分の手駒として作戦行動が行なえる新たな戦力の早急な確保を考えていた。そして、WB隊によって手駒を次々に失いつつある局面では特に、前線に投入できる優秀な人材はますます貴重となる。だが、キシリアの作戦のために戦力を割くことを決めたばかりに、将来に遺憾が残る結果となるというのも程度問題である。難しいところだ。

それに、地球圏支配を成し遂げることとは、ジャブローを陥とすこととちろん同義である。だがジャブローの守りは余りに堅牢であり、進入ルート確保すらままならない。少しでも早く勝利を手にするのを第一に考えるのであれば、結果に繋る可能性のある方法があるならば手段は選んでいられないのも一面の事実である。



大型潜水母艦マッドアングラー

ヘルファスト攻撃

設立早々、マッドアングラー隊は結果を出す。現地の民間人スパイ007号より、連邦のヘルファスト基地に大型戦艦が入港したとの情報を入手、ヘルファスト周辺の調査を開始するとの報告がシヤアより入る。次いで、くだんの大型戦艦がWB隊である事を確認したとの報告が入る。ジオン軍の猛者を次々と倒してきたWBがどの戦線に向かうかによって今後の戦局は大きく変化することになるとの判断から、ヘルファストに攻撃を行う一方、情報の第一報を掴んだスパイ007号をWBに潜入させ、行き先を見極めるとの報告が入る。この段階で、ヘルファスト基地が地球上で連邦に残された数少ない拠点であるにも関わらず、ヨーロッパ、大西洋周辺およびその地域の戦線を悩ませてきた存在であった場合、この機に乗じた攻略作戦が可能となる。この地を攻略すれば、もはや地上にはジャブロー以外に憂いは存在しない。ただし、連邦軍も黙っている筈もない。地球での覇権を失いかけた連邦軍が、思わぬところで反抗作戦を練っている。諜報部がその情報を逃さないように気をつけられたい。



フラナガン・プーン

マッドアングラー隊馬追撃

一方、ヘルファストのWBを探っていたシヤアからは、潜入したスパイ007号からの情報でその行き先がジャブローであると突き止めたとの報告が入る。シヤアは追撃の許可を求め、キシリアも判断を求めてくるが、これも考え処である。確かに追撃を認可すればWBとの戦闘でブーンを犠牲にすることと引き換えに、ジャブローへの侵入経路を突き止めることもできるだろう。だが、攻略に必要な戦力が整わなければ堅牢を誇るジャブローの防衛網は簡単には突き崩せない。かといって、ジャブローへの進入経路を発見し、攻略作戦が実行できるだけでも千載一遇のチャンスである事は間違い無い。なおかつこの判断の結果いかに将来に遺憾を残す可能性があるとなればなおさらである……。

連邦艦

オデッサでの戦いで傷ついたWBはヘルファスト基地に寄港する。ずっと敵地を巡らされ、やっと味方の基地で落ちつくことの出来た彼等に対し、その処遇をどうすべきか考える時が来たようだ。隊を解散させるべきか、このままジャブローに向かわせるべきか。多大なる功績を上げてきた彼等だけに、今後の戦局に与える影響も大きい。

だが今後の戦果を期待してWB隊をジャブローに向かわせた場合、その代償は即座に現れる。密航したスパイの情報でジオン潜水艦部隊の追撃を受けたWBは……。



1 ヘルファストでWB隊を解散させると元クルーのカイ・シテンはジオンの女スパイ107号ことミハルと共に脱走し、行方不明となる。連邦は貴重な戦力を失うが小さな幸せは守られたのである

ムービー

宇宙世紀0079年11月30日

ジャブロー上陸作戦

REALITY

史実では……

哀・戦士

南米の生い茂ったジャングルに隠され、自然の岩盤に守られた地下に建造されていた連邦軍総本部ジャブロー。ジオン軍は施設的位置すら特定できずにおり、連日に渡る空爆も「定期便」と称される程の効果しかなかった。

しかし、WB追撃を続けていたシアアのマッドアングラー隊は、反応の消えた地点を宇宙船用ドックと見定め、遂にジャブロー基地の位置を突き止める事に成功する。

カリフォルニアベースの航空機とMS部隊が総動員され、ガウ攻撃空母に搭載されたドップ編隊とMS空挺部隊が空から、水陸両用MS部隊が河のルートをから総攻撃を仕掛け、ジオン公国軍の地球上での最後の総力戦となった「ジャブロー攻略作戦」の決戦の火蓋

は切って落とされた。しかし、ジオン軍が投入できた戦力はジャブローを陥落させるには数が少なすぎ、ほとんどが基地に取りつけぬまま対空放火の露と消え、無事降下した部隊も圧倒的物量の前に撃破されていた。シアアの特務部隊はMS生産が始まっていた基地内の工場に潜入し、爆弾を仕掛けることに成功したもの、思わぬ妨害により失敗、ウッディ大尉の捨て身の攻撃によってWBも守られた。この作戦失敗による戦力消耗はジオン軍には大きな痛手となり、カリフォルニアは陥ちた。

の捨て身の攻撃によってWBも守られた。この作戦失敗による戦力消耗はジオン軍には大きな痛手となり、カリフォルニアは陥ちた。



MSM-10 ソック

IF ゲームでは……

ジオン編

追撃要請を認可されたシアアのマッドアングラー隊は引き続きWBを追跡。反応の消えた地点より宇宙船用ドックの位置を割りだし、ジャブロー連邦軍本部への攻撃を要請してくる。ここで攻略を実行すれば、マッドアングラー隊は索敵能力に優れたMSソックが金属反応を探知してジャブローの突入口を発見、そのまま赤い彗星専用スゴックを駆るシアアの率いるアッガイとともに突入部隊に参戦する運びとなるのだ。

但し、相手は連邦軍総本部であり、なおかつ内部には強敵WB隊も控えている。この時点で連邦が強力なビーム兵器を装備したMSを実戦配備していることは十分考えられるので、突入には敵戦力数の確認と相應の覚悟が不可欠であろう。しかしジャブローが隙を見せる間にはあまりに少なく、一気に戦争の雄雄を決するためには躊躇しているひまなどはない。この機を逃せば、再びジャブローを攻めるには長い時間と長い戦いをこなさねばならないのだから……。

連邦編

ヘルファストからジャブローへ向けて出発したWB隊は、シアア率いるマッドアングラー隊の追跡を受け、到着と同時にジャブロー内部への敵部隊の進入を許してしまうこととなる。しかし防衛網をかくぐつて侵入できる戦力は少なく、守りさえ確かならばそう苦戦することはない。但し、前線の戦艦に気を取られ、ジャブローの防衛がおろそかになっている場合はこの限りではない。WB隊の助けがあるとはいえ、本拠地に攻めこまれてしまった連邦は存続の危機を迎えてしまう。WBへの追跡部隊を察知した段階で、あらかじめジャブローに防衛部隊を常駐させておくなどの注意が必要だ。

この状況を抱いたのはジオンのWB隊への過大評価が原因とも言える。ここでWB隊を解散させるよりも、ジオン隊の目を引きつけるおとり専門の陽動部隊「第13独立戦隊」として運用しようとする連邦政府の愚惑もありつつ、からくもウッディの犠牲と引き換えに守られたWB隊はスレッガーを迎え、戦力を補充。新たな任務を与えられ宇宙へと向かうこととなる。

機動戦士ガンダム

大戦

目的の地カシャ

10

機動戦士ガンダム

大戦

目的の地カシャ

10



PRINCIPALITY OF ZEON
ジャブロー上

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



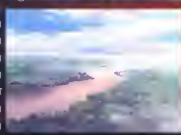
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

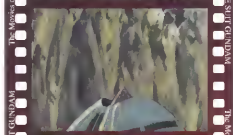


機動戦士ガンダム



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



機動戦士ガンダム

『機動戦士ガンダム』

宇宙世紀0079年12月24日

ソロモン攻略戦

REALITY

史実では……

最後の戦いに向けた宇宙での前哨戦

ジオン軍の最重要拠点であるサイド3への進行ルートを守る、ジオンの宇宙要塞ソロモン。

連邦軍のジオン本国への進撃を目的とした星一号作戦は、進行ルートに立ちふさがるソロモンの陥落から幕を開けた。

堅牢な防御能力を持つソロモンに対し、連邦軍は大量に配備した宇宙艦隊と量産化に成功したMS部隊で対抗する。さらに、ソロモンの厚い岩盤と進入ゲートを破壊するために、新兵器のソーラ・システムを照射。ジオンの艦隊の3割以上を消滅させ、連邦軍を勝利へと導いた。

劣勢を予期したソロモンの司令官であり、ザビ家の次男のドズルは、本国に対して援軍を要請。しかし、送られてきたのは新型

CONQUEST SIDE BOOK

歴史大全



開始するときではないでしょうか？
宇宙要塞ソロモン攻略作戦
「星一号」を提案します！

↑オデッサの制圧とソーラ・システムの完成によって、宇宙進行の足掛かりとなる星一号作戦が提案される

のMAのみであった。この劣勢を挽回すべく、ドズル自身も試作巨大MAビッグ・ザムに乗り込み応戦。しかし、たった1機のMAでは連邦軍に傾いた戦況に大きな影響を与えることはできなかつた。ビッグ・ザムはWB隊の活躍により撃沈。ソロモンは完全に沈黙した。この戦いで連邦軍は、ジオン本国に向かうルートを確保することに成功したのだった。

IFゲームでは……

ジオン編

ソロモン攻略戦が発生しても、ジオン側には大きな歴史の塗り替えはない。しいて挙げるならば、ドズルが戦死しないという点くらいである。

連邦軍による星一号作戦も大規模なものではなく、ソロモンに隣接するサイド1の宙域にMS部隊が10前後出現する程度。

諜報能力が高ければ、作戦が実行される数ターン前に連邦軍の侵攻を知ることができるため、簡単に対処が可能だ。

史実では、ソーラ・システム照射によるジオン側の部隊の減少やWB隊による侵攻によってソロモンは陥落してしまうわけだが、戦況が一変してしまうような状況になることはない。

ジオン側でプレイしている場合、連邦軍によって星一号作戦が実行されるのは、後半に入ってから。すでに歴史がIFの方向に進み、ジオン軍の勝利がほぼ確定している状況での小イベントと考えていいだろう。

連邦編

この戦いにおいても、WB隊の存在は重要な意味を持っている。星一号作戦にWB隊の参加を要請しなければ、今後の終戦に向けた歴史に多少のズレが生じてくる。WB隊が作戦に参加しなければ、この戦いで死亡するドズルとスレッガーが共に生き延びるという歴史が誕生するのだ。

史実では、スレッガーの捨て身の行動で、ドズルの搭乗するビッグ・ザムを撃破するのだが、WB隊がソロモンに現れなければドズルとスレッガーが戦うこともなく、双方が死亡することなくソロモンでの戦いが終了する。

以後の歴史でもスレッガーは、連邦軍のパイロットとして戦い、第2部に入るとエウゴに参加。史実では出会うことのなかったエウゴのメンバーと共に戦うことになる。

一方、ドズルも以後の戦いに度々登場し、量産化されたビッグ・ザムを取り一年戦争が終了するまで連邦軍を苦しめることになる。

難敵不敵の要塞を破る。な。限。の。勝。つ。て。な。る。

EARTH FEDERATION SPACE FORCE

星一号作戦

MOVIES



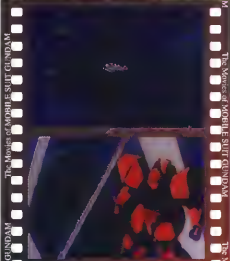
The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

EARTH FEDERATION SPACE FORCE

ソーラ・システム作戦

MOVIES



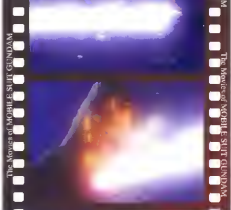
The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

第13独立戦隊任命

REALITY
史実では……

WB隊 連邦軍に正式配属

数々の苦難を乗り越え、WB隊は、ついに連邦軍の本部であるジャブローに辿り着く。

連邦軍の内部では、それまでの戦いの結果、予想以上の戦果を挙げ、ジオン軍の陽動にも役立つWB隊の存続を決定する。

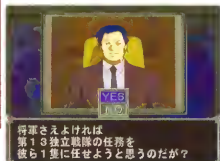
もともと民間人であったアムロを始めとするパイロットたちには、ここようやく階級が与えられ、正式に軍人として配属が決まった。また、ランバ・ラル隊との戦闘で戦死したリユウ・ホセイの代わり、補充要員としてパイロットのスレッガー・ロウがWBへと配属された。

WB隊は、宇宙における連邦軍の一大戦略「星一号作戦」への参加のため、クルーの編成は現行のまま、ディアンム艦隊所属の第13

独立戦隊として、正式に連邦軍の指揮下に入ったのであった。

第13独立戦隊としてのWB隊の主な役割は、重要作戦に関する陽動。つまり、重要作戦において、臨の役目を果たす特別な部隊となつたのだ。

ジャブローを出航したWB隊は、2隻のサラミスを護衛に付け、星一号作戦の行われるソロモンへと向かった。



↑第13独立戦隊の任命。だが、背後には軍部の様々な思惑が交錯し、WB隊をより過酷な戦いへと向かわせる

IF ゲームでは……

↓ 連邦編

ジャブローに着いたWB隊を第13独立戦隊に任命しないと、後々の歴史に多少の変化が生じる。

WB隊は、ジャブローにおいて解散となり、乗組員たちは、そのまま連邦軍のパイロットとしてバラバラに作戦に参加することになる。もちろん、補充要員であったスレッガーも、そのまま一般パイロットとして戦闘に参加するので、死亡することもない。

また、後にWB隊との戦闘で犠牲になるラアラやシャリア・ブルなどを始めとするジオンの兵たちもア・バオア・クーへ向かうWB隊と戦闘することがなくなる。このため、ジオン側にも多くのパイロットが死亡判定にならずに、一年戦争を最後まで戦うことになる。さらに、これらのパイロットの生存は、第2部にも引き継がれることになるのだ。

WB隊を解散させることは、連邦軍にとって脅威となりうる、ジオン側のパイロットが存命するということ。

WB隊が存続の有無によって、

一年戦争の歴史は大きく変化することになる。



↑WB隊を解散させれば、アムロやセイラなどのパイロットを自由に他の作戦へと組み込むことができる



↑WB隊に配属されるスレッガーから彼の運命は大きく変化する。WBへ乗り込んだ時

1-JUDOU

宇宙世紀0079年12月14日

サイド6の戦い

REALITY
史実では……

コロニー内の激闘

ジオン軍は北極にある連邦基地を奇襲。第13独立部隊用に開発中の新型MS、NT-1の奪取または破壊を試みるが、同機は危うい所でサイド6リポコロニーの秘密実験場へと搬送された。ジオン軍グラナダ基地のキラング中佐は、先の作戦に当たったシグタイナー大尉以下、特殊工作班サイクロプス隊に再度NT-1の破壊、ルビコン計画を命令。同隊はリポに潜入し、12月20日、新型MS、ケンプファーを主力に敵陣を強襲するが、NT-1の応戦に敗れる。だが同隊の実働は四で、本来の計画は核でコロニーごとNT-1を破壊する事であった。結局、核攻撃は阻止され、NT-1は意外にも、ただ一機で奇襲を掛けMS 06 FZと相打ちになって大破した。

IF
ゲームでは……

ジオン編

連邦軍がNT専用MSを開発しているとの情報が、届けられる。シグタイナー隊長、特殊工作班サイクロプス隊を編成しサイド6に潜入させ、同モビルスーツの奪取作戦、ルビコン計画を実働させる。これを承認すると、シグタイナー、ミハイル・カミンスキー、ガブリエル・ラムレス、ガルシアなどの古参兵に加えて新兵バーナード・ワイズマンが同隊に配属される。やがて目標のMS（NT-1）が既に稼働可能な状態まで仕上がっていると判明。ここで具体的な作戦目的を機体の奪取そのものから、それについての情報入手に切り替えるかを検討する事に。この流れ次第で、指示を受けたサイクロプス隊が情報入手に奔走。彼らが早い日数でNT

1についての極秘情報獲得に成功すれば、同隊全員の無事帰還は叶い、NT対応MSの技術がジオン軍の開発部に届けられ、今後の戦局に新たな展開を見出す事となる。だが、この諜報作戦が順調に進行しない場合は計画は失敗、サイクロプス隊も全員戦死という結果を迎える。



RX-78-NT1 ガンダムアレックス

連邦編

サイド6にあるNT研究所。そこに所属する、新型MSのシューフィッシャー、クリスチーナ・マッケンジーをそこから解任し、実戦兵士とするか討議が行なわれるが、クリスをそのまま施設に残しておくと、やがて彼女の努力もあってNT対応の新型MS、NT-1の開発が進行する。だがその後、この研究を戦略上の脅威だと認めたジオン軍の工作部隊サイクロプ

入隊が施設に来襲。情報を求める敵との攻防が開始される。場合によっては、ここでNT-1が奪われるという非常事態が発生、これまで研鑽されてきた学術データの大部がジオン軍にもたらされる事になってしまうが、それでもNTについての研究データは無事。件の研究は以降も継続される。また、敵の強行作戦、ルビコン計画を何とかクリスが阻止した場合には、ジオンの精鋭サイクロプス隊を全滅にまで追い込む事が可能。なお当然ながら、ジオン軍が重要視したという現実からこの計画の意義性が連邦の上層部にも再確認され、開発計画は続行されることに。



↑連邦軍が開発した、ニュータイプ専用ガンダムNT-1 クリスが三ヶ月かけて養育した人工知能“アレックス”を搭載しているため、その愛称でも呼ばれる

FINAL

宇宙世紀0079年12月30日

ア・バオア・クー攻防戦

REALITY
史実では……

脱出

ギレン総帥はジオン本国を守る最終防衛線、宇宙要塞ア・バオア・クーにて最終決戦の陣頭指揮を執る。レビル將軍と連邦軍の主力艦

隊を、独断で和平交渉に向かった公王デキンとともに切り札ソーラ・レイによって葬ったギレンは、その真相を知ったキシリアによって暗殺される。指揮系統の乱れたア・バオア・クーは、残された戦力を結集した連邦軍により陥落。脱出を図ったキシリアも戦死した。

IF
ゲームでは……

連邦編

ジオン軍宇宙要塞ア・バオア・クー。伝説の幻獣の名を冠するこの拠点が陥落できればジオン軍に残るのは月のグラナダと本国サイド3のみ。それだけにジオン軍もこの最終防衛ラインを国力を挙げて死守しようとしている。完全なる勝利への大きな足がかりとなるこの戦いに勝つためには、獲得したソロモンの生産力にものを言わせ、戦力を整えることはもちろん、

WB隊の作戦への参加要請を含め、万全の準備を持ってこの一戦に挑みたい。物量作戦で一気に押し切りたいのだが、ギレンには一発逆転の決戦兵器ソーラ・レイがあることを忘れてはならない。その存在を察知できなければ全ての努力は水泡に帰し、察知できてもある程度の戦力の喪失は避けられない。戦略を誤れば貴重な突入部隊をみすみす大量に失ってしまう。障害は多く、敵も強力で、苦しい戦いを強いられることは避けられないかも知れないが、ここは踏ん張りどころ。各自の奮闘に期待する。

EARTH FEDERATION SPACE FORCE
ア・バオア・クー攻防戦



ジオン編

ジオン軍が地上の要を取り除くべくペルファスト基地攻略を開始した矢先、反抗の機会を狙っていたレビル率いる宇宙艦隊がどこからともなく集結。ガルマを失い弱気になったデギン公王は独断で和平交渉に赴く。このような事態が発生しても、開発さえ間に合えば、ソーラ・レイがこの状況を逆転する切り札となる。だが、その照準をどこに向けるかにより、今後のジオンに与える影響は計り知れない。

EARTH FEDERATION SPACE FORCE ア・バオア・クー占領

MOVIES



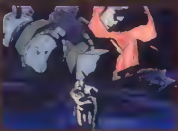
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

BOTH ARMIES ソーラ・レイ

MOVIES



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

FINAL FANTASY

宇宙世紀0079年

ルナツー 攻略作戦

REALITY

史実では……

連邦宇宙軍の拠点

ルナツーは月軌道に選ばれた小惑星ユノーをくり抜いて作られた資源採掘基地であり、ガンダムの装甲材ルナ・チタニウムもここで精製されたものである。地球を挟んで月の反対側に位置するルナツーには連邦軍の最前線基地が置かれ、連邦宇宙軍の拠点となっていた。月の裏側のジオン本国からは最も離れた位置に存在したルナツーは比較的機密保持に向いており、「V作戦」の研究も周辺空域の建設中コロニー・サイド7とこの秘密工場で行われていた。史実では、一年戦争当時この拠点が脅威にさらされたのはWBを追撃して潜入したシャアに爆弾を仕掛けられたのが唯一であり、宇宙世紀0093年の、シャアの反乱まで連邦宇宙軍基地として存続した。

IFゲームでは……

ジオン編

ジオン軍の地球圏制覇への道は大詰めを迎え、連邦軍の拠点はもはや宇宙のルナツーと総本部ジャブローを残すのみとなった。だが連邦軍はこの期に及んでも、残されたこの地を最大限に活用、拠点の周辺地域を中心に各地で少しでも隙あらば頑固に抵抗をし続ける。ジオン軍はこの拠点をどう沈黙させるか考えあぐねていた。

総帥ギレンが親衛隊のデラースと部下のガトーの訪問を受けたのはそんな時であった。ルナツーの攻略を提案するふたり。ルナツーの戦略価値に思いを馳せ、ギレンは瞬時、その提案を一笑に伏しかけた。確かにルナツーの連邦の宇宙戦力は厄介な存在だが、地球上へのルートさえ絶つてしまえば、孤立したルナツーはさほど脅威では

ない。

一刻も早く総本部ジャブローを陥とす事こそが今は先決であり、余計な力は割けないからである。

だが次に二人の口から出たルナツー攻略の真の意味と、その後の作戦の展望の内容は驚くべきものであった。デラースは拠点ルナツーそのものというよりも、その地域とサイド7の確保こそがこの作戦の目的だと語る。ギレンは瞬時にしてその意味を悟った。ジャブローへ再度のコロニー落としを行う布石として、障害を除く事こそがこの作戦の真の目的である。半分しか建設の終わっていないサイド7のコロニーであれば、コントロールははるかに容易であろう。

瞬時にその意図を読んだのは、ギレンの天才たる由縁もあるが、既にその作戦を一つの選択肢として検討していたと考えることもできる。



アナベル・ガトー

きる。確かにそれが実現できれば堅牢なジャブローも攻略できるだろう。だがギレンは今まであえてそれをしなかった。

次いでガトーの口を衝いて出た提案も驚くべきものだった。作戦の布石であるルナツー攻略を確実にするために、封印されていた核兵器使用許可を求めて来たのだ。「コロニー落とし」と核兵器の使用である。無論、これらは南極条約に抵触する大罪である。間に合わせの戦時協定だったとはいえ、条約を破棄することは国家として最低限のルールを侵す行為である事には変わりはない。故にギレンは即答を避けた。しかし、ルナツーを陥とさなければ勝利はない。ジオン軍は攻略作戦実行と同時に、ガトー率いる核武装ザク部隊を再生産。宇宙での憂いを完全に一掃すべく、ルナツー侵攻を開始する。



MS-06C 初型ザク(模試機)

機動戦士ガンダム 第14巻

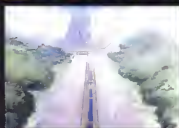
PRINCIRALITY OF ZEON

ルナツー攻略作戦の提議



MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

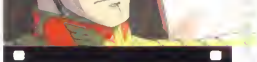


The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



「J」M.O.I.N

宇宙世紀0079年

第2次ブリティッシュ作戦

IFゲームでは……

ジオン編

デラース発案によるジャブロー攻略作戦の大いなる布石であったルナツー制圧作戦は終了。意気あがるジオン軍は、当初の予定通り次の段階の作戦へと進む。そう、一週間戦争の「ブリティッシュ作戦」の再現である。自然の岩盤に守られ、核の直撃にも耐えるという堅牢な連邦軍本部ジャブローといえど、大質量のコロニー落下の衝撃には耐え切れない。先の一週間戦争では、地球に甚大な被害を与えることはできたものの、その大きさを故に落下するコロニーの軌道を目的の地点へ誘導することには失敗。完全に成功したとは言いがたかった。再度ジオン軍がコロニー落としに挑んだルウムでの戦いでは連邦の抵抗により、軌道までの宙域確保すらおぼつかず、艦

CONQUEST SIDE BOOK

第2次ブリティッシュ作戦

隊戦にもつれ込んでしまった。南極条約で禁止されたものの、一週間戦争でもルウムでも失敗に終わったこの作戦を今度は成功させる事は、ジオン軍にとって雪辱の意味があり、悲願でもあったのである。デラースの案ではシリンドー部が半分以上が完成していない建設中のサイド7コロニーならば、技術的に難しかった軌道制御も確実なものとなるという。かくして核バルスエンジンを取り付けられたコロニーは、艦隊とMS部隊に護衛されて制圧したサイド7宙域より地球に向けて発進。今、ジオン国民の万感の思いを乗せてコロニーが征く。遂にギレン総帥の号令のもと「第2次ブリティッシュ作戦」は発動した。ルナツーを陥とし、作戦の障害となる宇宙での抵抗の芽をあらかじめ完全に摘み取った今となっては、コロニー落下を阻止できる力はもはや連邦軍には残ってはいなかった。コロ

ニーは遂に大気圏を突破、予定通り連邦軍本部ジャブローのある地点に到着し、未曾有の損害を与えることに成功する。その衝撃は衛星軌道上で待機中のデラースの艦からも目視できる程であった。ジオン軍は地球圏完全制圧のための大きな足がかりを得たのである。しかし、コロニー落としを禁じた南極条約を事実上破棄したこの行為は国家単位での重度の犯罪行為とも言い、結果としてジオン公国は中立勢力の不興を買うこととなるのは避けられない。事前の外交上の根回しも必要であろう。

連邦編

最終防衛線であった宇宙要塞ア・バオア・グーを失ったジオン軍には、もはや残された拠点は月のグラナダと本国サイド3のみになっていた。長く苦しいこの戦いは最後の詰めを残すのみとなり、遂に連邦軍の勝利は目前となった。ジオン本国のギレン総帥から通信が入ったのはそんな時である。これ以上の戦争継続は双方にとって無益であると。このまま戦いが続くのならジオン側にも考えがあるとの不気味な発言もあったが、

なんとギレンが停戦を申し出てきたのだ。圧倒的不利な状況を鑑み、最低でもジオン公国が存続出来る道を模索した未だの苦渋の選択であることは想像に難くない。レビル将軍はここにおいて決断を迫られる。ジオン公国を完全に制圧するために徹底抗戦の道を選んだ後に、レビル将軍は停戦交渉を持ちかけた際のギレンの不気味な言葉の真の意味を知り、彼の意思を踏みにじった代償を払うこととなる。追い詰められたギレンは南極条約を破棄、再びジャブローにコロニーを落とす暴挙に出たのだ。幸い大気圏突入時に崩壊を始めたコロニーは直撃を免れたが、ジャブローの被害は甚大なものとなった。



↑それでも連邦軍はコロニー落としを阻止すべく宇宙艦隊の残存勢力を集結させて必死の抵抗を試みたもののジオン軍護衛艦隊とMS部隊に次々に掃討されていった

PRINCIRALITY OF ZEON

第2次ブリティッシュ戦争

MOVIES

思かなる地球市民に對し再び悲愴の戦慄を振るう時が来た

Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

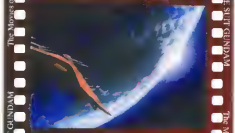


ルナツーを失った連邦に 落ちるコロニーを止めよう

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



1999年11月30日

宇宙世紀0079年11月30日

ジャブロー上陸作戦

IFゲームでは……

ジオン編

「第2次ブリティッシュ作戦」の実行により、サイド7コロニーは連邦軍総本部ジャブローに落下。被害状況の早急な調査が行われた。その報告によれば、長い間ジオン軍が攻めあぐねていたジャブローの堅牢な防空防衛施設は跡形も無く破壊され、基地内部に蓄えられていた部隊の戦力も半減、内部施設への被害も甚大なものとなった。南極条約を破り、中立勢力の不興を買ってしまふ外交上の大きなリスクを冒してまでもジオン軍が強行した「第2次ブリティッシュ作戦」は、ジャブローの連邦総本部としての機能すら奪うことに成功したのである。地球や宇宙の一部地域を占領し、抵抗を続けていた連邦軍の残存部隊がいようと、もはや彼等には増援は望めない。



↑連邦軍の宇宙での残存兵力を掃討したジオン軍は、地球上空の制空権をも完全に掌握。地上からも宇宙からも自由にジャブローへと攻め入ることが可能になった。

それらの掃討も時間の問題である。もはや地球にも宇宙にも憂いとなるものは存在しない。ジオン公国軍は北米カリフォルニアベイスで増産された部隊を始め、展開していた地上部隊をジャブロー周辺に輸送し、突入のための戦力を早急に整える。ジャブロー内部の部隊は、数こそ半減したとはいえ、防御力も攻撃力も機動力も強力なガンダム系のMSを初めとす

る兵器と、それを操る連邦軍屈指の歴戦の精鋭パイロットが待ち構えている。V作戦MSは一度破壊してもコアファイターが残る事は既に調査済みだが、フルアーマーガンダムは更なる装甲を着こんでいる。なおかつ調査してみるとジャブローの地形は縦横に流れる河に分断されており、渡河能力を持たない部隊の侵攻を阻んでいる。そうした状況を考慮した兵力や輸送手段、部隊への人事配属を完全なものへと整えなければ、せっかくの侵攻作戦も苦戦を強いられることは間違いない。戦いが長引きたらずに消耗戦を続ける結果となってしまうえば、地球圏完全制圧は成し得ない。ここへきての攻略作戦の失敗もありえなくはないのである。ともあれ、ジャブロー攻略の準備が万端となったと判断したギレン総帥は、地球圏制覇のた



FA-78 フルアーマーガンダム

めの長きに渡る戦いに終止符を打ち、連邦政府に対する建国以来の精年の屈辱を晴らすべく、ジャブロー攻略作戦の大号令を下す。土気上がるジオン公国軍は続々とジャブロー突入を開始、後に「一年戦争」と呼ばれる事となるジオン独立戦争最後の大作戦が始まる。だが、この戦いが終わっても、真に全てが終わるわけではない。ある意味ではこの戦いは次なる戦乱の時代の幕開けへと繋がる序曲に過ぎないのだ。この戦いが結した後のジオン公国の状況は、そのままその後の歴史にも引き継がれることとなり、新たな歴史におけるその後のジオン公国の運命をも左右することとなるのである。



↑コロニー落下の衝撃は余りにも大きかった。地上を覆っていたシャングルは倒壊されていた防空防衛施設ごと焼失。後には巨大なクレーターが残るのみであった。

第1巻

より、ヤマトの

の、戦艦



PRINCIPALITY OF ZEON
ジャブロー降参作戦

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



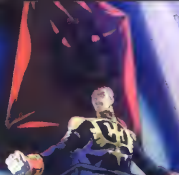
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

1-JW00100

宇宙世紀0080年1月1日

一年戦争終結

REALITY
史実では……

ア・バオア・クーの戦いで、ジオン軍は大敗し、その結果ジオンと連邦の間で終戦協定が結ばれることになる。

ア・バオア・クーでの戦闘の直前に、終戦協定を結ぼうとしたレビル将軍とデギン公王が戦死したため、多大な犠牲を出すことになるこの戦いは、回避することができなかった。

ア・バオア・クーの戦いにおいてジオン軍の中核であったザビ家の一族が滅亡し、指揮系統を失ったジオン軍は敗北した。

ジオン軍には、まだ本国サイド3とグラナダに戦力が残されていたのだが、連邦軍との力の差は歴然としていた。そのため、ジオン本国での本土決戦を回避するため、ジオン公国首相のダルシアが終戦

協定に合意し、一年戦争は終結したのである。

地球連邦軍から一方的に押しつけられた終戦協定により、ジオンは連邦の軍門にくだる。そして、スペースコロニーを含む地球圏は、再び地球連邦軍の統治下に納まることになった。



！テキン公王から提示された終戦協定では、一年戦争を終らせることなく、戦いは本土決戦へと向かう

IF ゲームでは……

ジオン編

史実では、ア・バオア・クーの戦いに大敗し、連邦軍の軍門に下つてしまふジオン軍だが、ゲームでは、一年戦争で連邦軍に勝利するという史実とはまったく違った歴史を作ることができる。

ジオン軍は、連邦軍の重要拠点であるルナツー、そしてジャブローを陥落させ、ギレン存命のまま一年戦争を終結させることが可能なのだ。

こうして、一年戦争で戦死するはずの多くのジオン兵を生き残らせ、スペースノイドの自治権を確立した新たな支配者が誕生するのである。

第2部では、シャアの指揮するネオ・ジオンやキシリアが指揮する正統ジオンなど、史実には登場しない、もしくは史実よりも早い段階で登場する新勢力と新たなる戦いを繰り広げていくという歴史を作ることができるのだ。

連邦編

史実では、レビル将軍はア・バオア・クーでの戦いの直前に戦死してしまふ。

しかし、ゲームでは、終戦協定を阻止するために放たれるソーラレイの存在を早い段階で察知することで、レビル将軍が生き残り、ア・バオア・クーの戦い以降も連邦軍を指揮するという歴史が誕生する。

レビル将軍が指揮する地球連邦軍は、ア・バオア・クー陥落後、グラナダを制圧。その後、ジオン本国であるサイド3での本土決戦を制することで、一年戦争の完全なる勝利を手中にすることも可能なのだ。

その後、第2部では、ジオンの残党が決起するデラース・フリートの反乱やティターンズ、エウゴ、アクシズの3つ巴の戦いに発展するグリプス戦役なども史実に近い形で発生。

それらの次世代の戦闘に対して、存命したレビル将軍が指揮する連邦軍が参加するという、史実とはまったく違った歴史が刻まれていくことになる。

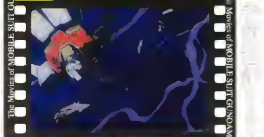
のちに年戦

興隆

の

PRINCIPALITY OF ZEON

一時の平和から新たな混戦



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

の思いとは裏腹に、

道

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

「1」W.O.N.O

宇宙世紀0080年1月1日

連邦一年戦争後

IFゲームでは……

一年戦争の勝利

レビル將軍は、史実ではジオン軍の照射したソーラ・レイによって、勝利を目前にして命を散らしてしまふ。しかし、レビル將軍の

死を回避し、史実とは違った歴史を歩むことも可能である。

第2部に進められる終戦の条件は4つ。サイド3を占領する完全勝利、終戦協定の受託、またはターンオーバー時に制圧しているエリア数に応じた判定勝利、判定敗北である。

完全勝利

サイド3を占領することで、連邦軍には完全勝利が訪れる。勝利条件としては、最も望ましいもので、第2部突入時にも有利な条件でスタートすることができる。

さらに、短いターンなどで完全勝利をすることで、開発が不可能な新型MSなどを手に入れることができる。

判定勝利

終戦協定の受託時、もしくはターンオーバー時に、ジオン軍より

も多くエリアを制圧していた場合の勝利。ジオン軍は滅亡していないため、第2部ではギレンの指揮するジオン軍との戦いが再び始まり、戦況は多少有利となる。

判定敗北

終戦協定の受託時、もしくはターンオーバー時に、ジオン軍より制圧エリアの数が少なかった場合の敗北。

ジオン軍以外にも、地球連邦の内部組織であったティターンズが反旗を翻し、厳しい状況で第2部に臨まなければならない。

EARTH FEDERATION SPACE FORCE
ジオンの亡霊 (完全勝利OP)



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

CONQUEST SIDE BOOK

戦史大全

EARTH FEDERATION SPACE FORCE

ジオン再び… (半信半疑)



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



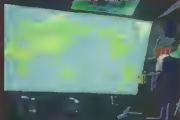
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



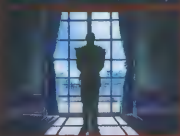
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

EARTH FEDERATION SPACE FORCE

新たなる敵 (半信半疑)



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



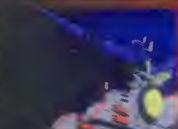
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

ムーヴン

宇宙世紀0080年

ジオン一年戦争後

REALLY
史実では……

共和国休戦調停

ザビ一家を失ったジオンは、ダルシア首相のもとジオン共和国として連邦政府と終戦協定を結び、後に言う「一年戦争」は終結した。

IF
ゲームでは……

ジオン完全勝利

地球圏制圧を成し遂げたジオン公国であったが、ギレンはあえて抵抗勢力を放置。地球至上主義者の勢力から「ティターンズ」が、

旧ジオン派の勢力から「ネオジオン」が勃興する。反抗の芽がある程度育ってから根絶やしにし、完全な支配を目指そうとするギレンの策略は効を奏するか？

ジオン判定勝利

からくも一年戦争で勝利を納めたジオン公国は、連邦政府に対しサイド3の自治権を認めさせることに成功した。スペースノイドの長年の悲願はひとまず達成されたものの、地球連邦軍には未だ勢力が残されており、それを快く思わないアースノイドが再軍備を整え

つつあることは明白であった。ギレンは地球圏を完全に支配下に納めるために新たな戦いを開始する。

ジオン敗北

ジオン公国の敗北はアースノイドの増長を産んだ。連邦軍内部からは地球至上主義を唱える「ティターンズ」とその反抗組織の「エウゴ」という勢力が生まれ、三つ巴の抗争劇に発展する。この連邦の内部分裂は復活を期するジオン公国にとって逆襲のための大きなチャンスであった。ギレンはこの混乱に乗り新たな戦いに挑む。

新たな惨劇の幕は

PRINCIRALITY OF ZEON
完全なる支配 (完全勝利IF)





PRINCIRALITY OF ZEON

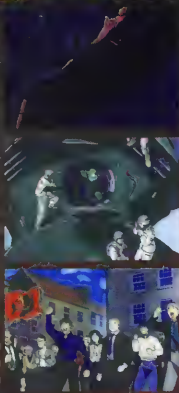
混迷の宇宙 (半定本) OP

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

IT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

同にとつてはまた



PRINCIRALITY OF ZEON

野望再び... (半定本) OP

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

続・優性人類生存説

IFゲームでは……

ジオン編

偉大な思想家でもあったジオン共和国建国の父ジオン・ズム・ダイクンが病死とされる最期を遂げた後、彼の片腕だったデギン・ザビは公王制を敷き「ジオン公国」が誕生した。それはジオン公国がザビ家による軍事独裁国家へと移行したことを意味していた。ザビ家はジオン公国の実権を握るため、旧ジオン・ズム・ダイクン派の勢力を一掃する一方で、デギンの長兄ギレン・ザビはそのダイクンの思想に共鳴して集まったサイド3のジオン国民の人心掌握に務めた。宇宙で生まれ育ったスペースノイドは選ばれた民であり、優良人類たるジオン国民こそが地球圏を、人類を管理すべきである。ギレンの唱えたこの思想、いわゆる「ジオニズム」はダイクンの唱えた

「ニュータイプによる人の革新」という思想を歪ませた「ギレニズム」とも言うべきものではあったが、虚けられてきたジオン公国国民を

熱狂させ、ギレンは国民の絶大な支持と多くの信奉者を集めた。若き日のギレンがその理論を確立させたのが大戦前の宇宙世紀0071年に学会で発表した「優性人類生存説」である。この説の発表はダイクンの思想を真に理解していた旧ジオン派の反発を招いたものの、国威掲揚には大きな影響を持ち、独立戦争への機運に大きな影響を与えた。国力の乏しいコロニー国家であるジオンが強大な連邦政府に戦争を挑む。冷静に考えれば無謀としが思えない行為が実行に移せたのはジオンにミノフスキ技術や新兵器MSがあったからだけではなく、国民に戦争の目的となる確固たる思想があったからである。「優性人類生存説」の統編発表はその再現を狙ったものだった。

旧ジオン派蜂起

戦争の長期化によって厭戦気分が蔓延し、国民の戦意も萎えつつあった時期でのギレンの「続・優性人類生存説」の発表は、再び国意を発揚させ、兵士たちの士気を高めるのに絶大な効果を挙げた。反面、それは潜伏していた旧ジオン派勢力のザビ家への新たな反発の種を生むことにも繋がった。統編の発表はこんな事態まで再現させることとなったのである。

それは、敵意を連邦に向けてのことによってなんと一枚岩の体制を維持していたザビ家の、ジオン公国独裁の体制そのものを揺るがしかねない由々しき事態であった。いたすらに旧ジオン派を刺激することは得策ではないようにも考えられる。かといって旧ジオン派が一斉蜂起すれば国内の混乱は避けられない。ギレンは国威発揚の代



ジオン・ズム・ダイクン

↑サイトをひとつの国家とする「ジオニズム」や「ニュータイプ論」を唱えたジオン・ズム・ダイクン。彼の思想がその後の宇宙世紀の歴史に与えた影響は計り知れない

償に、ジオン公国の存続そのものを揺るがしかねない選択を迫られることとなったのである。

ダイクンには二人の子供がいたが、ダイクンの側近ジン・バラルにかくまれて地球に逃れ、旧ジオン派との抗争のどさくさで一年戦争当時は行方不明となっていた。だがダイクンの息子キャスバルは、父を殺したザビ家への復讐の牙を意外なところで研いでいたのである。蜂起した旧ジオン派への早急なる粛清は、その場はジオン公国の安泰を招いたが、当然それを知ったキャスバルの反発を招き、後にジオン公国にとって大きな障害となつて立ち塞がるネオジオンの勃興の一因となる反抗の芽を育てる一端ともなったのである。



シャア・アズナブル

L-11111111

宇宙世紀0079年6月

フラナガン 機関設立

REALITY
史実では……
サイコミュ

IF
ゲームでは……
ザ・ガンダム

開戦以後、一部のMS操縦者の突出した戦績に注目したジオン軍上層部は、彼らが事前に敵行動の軌跡を予測・解析し、対応にまで至る能力を持っているのではと仮説づけた。件の兵士は、ジオンの祖、ジオン・ズム・タイコンが提唱した来たるべき宇宙人類の呼称に倣い「ニュータイプ」と命名された。同軍中でも特にキシリア中将は、軍事上の実用性も含めてニュータイプの可能性を強く検案、研究組織フラナガン機関を設立する。結果、同組織はNTと目された戦士による、思考波での機械制御などを主体とした遠隔兵器システム「サイコミュ」の実用に至る。そして大戦末期には有象無象の「NT」戦士が戦場へ駆り出されていた。



シャリア・ブル

大戦半ばは、ギレン総帥の傍らにキシリア中将が健在で、同軍の軍事科学がそれ相応の成果を挙げている場合、独自の思惑を込めたキシリアが、ギレンに対し内治的な提案を申し出る。それはかねてより、その特殊な資質を認められていた「NT」と呼ばれる兵士の研究組織「フラナガン機関」の創設である。

そこで開発の期待されるシステムが、電波通信を困難とするミノ

フスキー粒子の濃い空間にあって人間の間で思考波で遠隔操作が可能であり、また双方向通信手段としても有益な「サイコ・コミュニケーションシステム」、通称サイコミュだ。やがてこの開発が推進され、その試験結果が軍事実用の可能性に結びついた時、キシリアはギレンから、ジオン軍内へのNT戦士配備を公認される。やがて人事的にも物質的にも、フラナガン機関を母体とする形で、ジオン内にはNT部隊の立場が確立していく。

その時、同機関には木星から帰還した戦士シャリア・ブルや、女性士官クスコ・アル、そして元難民出身の少女ララ・スンなど、多様な個性を誇るNT戦士が続々と集結する。それはジオンの戦力であると同時に、キシリア自身の私兵の色彩も帯びていく。



ララ・スン



クスコ・アル

ジオンがNT研究所「フラナガン機関」を創設したという間諜情報は、連邦の脅威となった。先のMS開発で遅れを取りルウム戦役の敗北を招いただけに、技術的後進の事実がもたらす逆境には誰もが過剰になっていた。そこで諜報部がジオン軍から採取した人工NT「強化人間」の計画が連邦の幹部会議で審議される。これが認可されると、連邦内に特設されたNT研究所・別称「ムラサメ機関」にて強化人間の試験体が誕生。薬物投与や精神療法その他で人間の思考波を高めた戦士第一号「プロトゼロ」は、ジオンのフラナガン機関創設という現実が敵対陣営に影響を与えて生み出させた、悲しい時代の寵児と言えらるかも知れない。

連邦編

1-JW.0NT

宇宙世紀0080年

EXAM研究

REALITY
史実では……

呪われた技術

NTの高い戦闘能力をコンピュータに移殖し、NTと同等の戦闘力が発揮できるMSのコンピュータOS「EXAM」。クルスト・モイゼス博士の自らの理論に基づくこの研究はフラナガン機関の中でも異端視されていた。マリオン・ウェルチを実験中の事故で失う事と引き換えに、EXAMは完成。だが完成したシステムは戦場でNTを感知したり、大量の犠牲者が出た場合などに暴走状態を起こすという欠陥があった。試作機の高い塗装は彼の趣味で、それは後に連邦に亡命した際にも続いた。亡命後も連邦軍のアルフ・カムラ等と研究を重ねたが、博士はシステム奪還を図ったジオン軍により死亡し、EXAMの技術は永遠に失われた。

IF
ゲームでは……

ジオン編

設立が認められたフラナガン機関では早速NTの軍事利用を目的とした研究が行われていた。人材の確保と養成、能力を最大限に生かせる兵器の開発は同時に迅速に行われ、NTとその専用MS・MAの戦線投入は急ピッチで行われた。その研究が軌道に乗り始めた頃、ギレン総帥はフラナガン機関のクルスト博士から、MSにNTに限りなく近い動きを実現させる



マリオン・ウェルチ



ニムバス・シュターゼン

「EXAM」なるシステムの開発研究のための予算投入陳情を受けた。

格闘戦に優れたMS「イフリート」の開発も終わっていたとはいえず、MS単機あたりの更なる戦力アップは願ったりのことと判断した総帥がそれを認可したことからEXAMシステムの本格的な研究は始まった。実は、システム開発の基礎となったクルスト博士独特のNT論とは、「NTとはオールドタイプに取って代わるために戦闘能力を異常に肥大化させた危険な人種である」とするあまりに極端なものであった。それ故、彼の研究はフラナガン機関内でも異端視され、研究のための設備の面でも冷遇されており、博士は総帥に直々に陳情に現れたのである。彼は、表向きはNTと同等のシステム開発を志向しながらその実NTを根絶やしに出来るシステム開発

を目論んでいたのだ。だがそんな事はギレン総帥の知るどころではなく、また知る必要もない事であった。開発者の思考がどうあれ、戦争遂行のために重要なことは強力な戦力が手に入るか否か、その一点のみだったからである。

研究予算が下りた博士は、今度は実験用のNTの派遣を陳情してきた。NTと同等の能力を持つ技術の研究には、本物のNTが不可欠であるとするとする博士の言い分は判らないでもない。だが強力な戦闘力を秘めた貴重なNTを一人でも多く、少しでも早く戦線に投入していくことも戦略的に非常に重要であるというのも明白である。EXAMの開発が、即戦力となるニュータイプか、ギレンは決断を迫られる。



MS-08TX イフリート改



MS-08TX イフリート改

研究施設に派遣されたことで、EXAM研究開発は中断することなく続行が可能となった。派遣されたNTの少女、マリオン・ウェルチとクルスト博士は、研究者とその対象というよりは、はた目ではまるで親子のように接していたという。

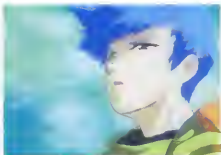
程なくしてクルスト博士より、EXAM完成の報告が入る。MSにNTと同等の動きをさせるという夢のシステムが遂に完成したのである。だが、博士の報告の中には研究の過程における顛末や、派遣したマリオンに関する言葉はなかった。結局、マリオンが彼の実験施設より帰還したという報告が入ることはなく、EXAMシステムは完成は、今後大きな戦果を上げる可能性のあった貴重なNTの存在と引き換えになったことは否めなかった。



↑マリオンが実験に派遣されていなければ、戦場にNT同士との心の交流がまたひとつ生まれただかも知れない。しかしそれもまた新たな悲劇を生んだかも知れない。

しかし呪われたEXAMの代償はこれだけに留まらなかった。

EXAMシステムは完成し、次の段階として、そのまさに人間離れした性能に耐えうる機体の開発が求められた。並のジオン製MSではシステムに機体性能が追いつかず、ものの数分でオーバーヒートを起こして活動限界に陥ってしまうからである。そのためEXAM搭載MSの機体改造のベースには、既に開発済であった機動性の比較的高いMS、MS-08TXイフリートが選ばれた。博士の趣味でボディは蒼く、テストパイロットを担当したニムバス・シュターゼンの趣味で両肩が赤く塗られた史上初のEXAM搭載MS、イ



↑呪われた技術：EXAMシステム開発の犠牲となった悲劇のニュータイプマリオン・ウェルチ。EXAM暴走はシステムに敗りこまれた彼女の形骸かも知れない。

フリート改の開発がようやく終了した頃、事件は起こった。

あることがクルスト博士はEXAMの技術とともに連邦に亡命したのである。愛するマリオンがNTだったこと、そして彼女を実験で失ったことが彼にとつては違つた特別な意味を持っていたのか、それともEXAMシステムの性能を100%活かしかねないジオン製MSの限界に苛立ちを覚え、連邦製MSでならEXAMの機能をフルに実現できるとも考えたのかはわからない。ともあれ、EXAMの技術は敵の手に落ち、ニムバスは博士の追跡を員申請してきた。連邦・ジオンの区別なく多くの人間を巻きこむこととなった因縁

の技術・EXAM。提唱者のクルスト博士の孤独と同じく誰にも理解されぬまま歴史の闇に消えた。博士は「EXAM」という名に「EXAMINATION」即ち、生き残るのは現人類かNTかを「試す者」という皮肉を込めていたという。一方、ニムバスは「裁く者の意味を見出しているらしく、ギレン総帥に博士の追撃を認可された際に「EXAMの名にかけて奴を裁いてみせます!」と宣言したという挿話が残されている。



↑亡命したフルスト博士は即座にEXAM搭載MSを開発した。だがEXAM自体はフラクホックスであり開発力者にも理論を理解できたものはいなかったという。

「1000000」

宇宙世紀0079年11月

ブルー開発計画

REALITY

史実では……

最強のMSシステム

一年戦争が始まってから約11ヶ月が経過しようとしている頃、ジオン軍から一人の科学者が連邦軍に亡命してきた。

科学者の名は、クルスト・モーゼス。博士は、ジオン軍において一般の兵士でもNT能力と同等の力で戦うことが可能なコンピュータシステムEXAMを開発していた。しかし、ジオン軍での研究に限界を感じた博士は連邦軍に亡命し、EXAMを搭載した連邦軍のMSの開発に着手する。それが、ブルー開発計画である。

開発計画によって、陸戦型のブルー1号機と宇宙戦用の2号機が完成する。しかし、ジオンでEXAM搭載MSのテストパイロットであったニムバスにより、ブルー2号機は奪われてしまう。

CONQUEST SIDE BOOK



！陸戦ノムと陸戦ガンダムをベースに製造されたブルーシリーズ。その強い一般兵士には驚き

連邦軍のEXAM搭載MSのテストパイロットであるユウ・カジマは、予備パーツとして製造された3号機でニムバスを追う。

ニムバスとユウの戦闘により、2機のブルーは大破。ニムバスは死亡し、ユウは行方不明になってしまふ。

IFゲームでは……

ジオン編

ジオン側では、EXAMシステムを開発したクルスト・モーゼス博士の連邦軍へ亡命が発覚してから数ターン後に連邦軍のブルー開発計画を察知することになる。

この計画を察知すると、ブルー開発計画が提案され、ニムバスがその任務を命じられる。

史実どおりに作戦を実行すると、ニムバスによってブルー2号機の強奪は成功する。しかし、ブルー2号機を追跡してきたユウとの戦闘の末、ニムバスは戦死してしまふのだ。

しかし、イベントの展開で深追いをしなければ、ニムバスがブルー2号機の強奪に成功した時点で、ニムバスをこの任務を解くことが可能。その結果、ニムバスを戦死させずに済むのだ。

もちろん、史実通りにブルー2号機の強奪に成功すれば、ジオン側でもブルーの生産が可能になり、戦力的な増強を計ることができる。

連邦編

史実では、ブルー開発計画を実行すると、テストパイロットとして、ユウ・カジマ、サマナ・フィリス、フィリップ・ヒューズの3人が選ばれる。

その後、ニムバスによるガンダム強奪のイベントが発生。そして史実通りガンダム同士の戦闘の末、ユウが行方不明になってしまう。

このブルー開発計画に絡むイベントを進めると、ブルーは3号機まで生産が可能になるが、ユウがその後戦線に復帰しなくなってしまう。

逆に、強奪されたブルー2号機を追跡しなければ、ブルー開発計画は史実よりも短い段階で終了することになり、ユウが行方不明になることもない。

しかし、奪われた地上戦闘用のブルー2号機を開発することができなくなってしまう、さらにジオン側のユニットとしてブルー2号機が戦場に出現。強敵であるニムバスも存命し、連邦軍にとっては脅威となるのだ。パイロットの減少を取るか、敵兵力の減少を取るかの選択に迫られるイベントである。

1-JULY 0079

宇宙世紀0079年10月6日

アプサラス 開発計画

REALITY

史実では……

要塞強襲用MA

MS開発に先鞭を付けたジオン軍において、MSⅡ人型という常識の枠に捕われない柔軟な設計思想から考案された更なる機動兵器が、いわゆるモビルアーマー（MA）である。原型となる陸戦兵器アッザム等を経て幾つかの試作体を実製作され、その一部が前線にも登用された。多くのものは海中・宇宙等の局地戦を想定した設計だったが、中には宇宙空間と大気圏内双方での自在な稼働を可能とするものも創案された。

その一つが、ジオンでも有名な技術士官ギニアス・サハリン少将が開発した要塞強襲用MA「アプサラス」だ。同機は件の利点を活かして大気圏外の衛星軌道から連邦軍本部のあるジャブロー上空へと接近、高所から大熱量のビーム

を地上に照射し敵陣を壊滅させるという極めて大胆な戦略の基に設計された。この計画には、ザクの改修機などに搭乗、必要な宇宙戦データを集めたテストパイロットでギニアス少将の実妹アイナ他、周囲のスタッフも多大に貢献した。こうして実機は大気圏での試験戦闘を繰り返すが、やがて連邦のMSと接触、その際に大破してしまう。後には試験機のノウハウやデータを継承した完成機アプサラスⅢが完成したが、大戦末期の混乱のさ中、その戦績を刻む確たる記録は存在していない。



ギニアス・サハリン



アプサラス

IF ゲームでは……

ジオン編

アプサラス開発計画

全ジオン公国内でもとりわけ白哲の天才として名高きギニアス・サハリン技術士官が、南米ジャブローに在する連邦軍本部の攻略のため、要塞攻略用MAアプサラスの開発を提唱する。この意見書にあつては、特に武器がなく機体の高機動性のみを追求したアプサラス（試験機）。主兵器となるメガ粒子砲を搭載した実戦用MAアプサラスⅡ。そしてそのアプサラスⅡを更に強化兵装した究極兵器アプサラスⅢという、3段階に区分けされた開発プランがジオン上層部に向けて上申されている。試験機による研鑽を重ねて、最終的には絶大な成果が期待される。

アプサラス開発実行

極秘の存在であるアプサラス試験機の開発実験を許諾する事によって、後にそのデータを継承されるアプサラスⅡの開発が見込まれる。高機動性を前提に強大な兵装を備えた同機はこの段階で初めて実戦に登用され、現実には連邦軍を震え上がらせる頭上の脅威となる。やがてそのアプサラスⅡがあげた戦術データから、最終的な目的たるアプサラスⅢが生み出されるに至るが、その目標に辿り着くためには本計画を事実上ひとりで把握しているギニアス技術将校が、この戦術プランの完遂に至るまで専科の環境で取り組む事が必須だ。もちろん前線への出陣などは考慮外であり、僱傭人種ジオン公国が誇る若き天才ギニアスの叡智の具現とは、すなわちアプサラスⅢの完成という形で発露されるのだ。



アプサラスⅡ

アブサラステスト報告

いよいよギニアスがアブサラス（試験機）の開発を実践したという報告が上層部へと入る。だが現段階では、当初の期待値ほどには機体性能が得られない。同将校はアブサラス計画を支援する必須スタッフとして、テストパイロットとしての能力面でも随一の信頼を託している美妹アイナと、サハリン家に深い縁故のある歴戦の士官ノリス・バックカードの自軍配属を申請。ここで彼らの協力なくしては精密な新兵器の完成が困難との判断がジオン上層部に認められた際には、ようやく実戦兵器アブサラスIIは起動に至る。だがこの人事が、否決された場合は、遺憾ながら計画は中絶。

こうした紆余曲折を経てついに飛行に少なかったアブサラスIIは、連邦相手に少なからぬ戦果を達成す



アイナ・サハリン

るが、ここで不測の事態が発生。連邦の局地戦用MSと接触し、大破してしまう。パイロットのアイナはのちに辛くも生還するが、制約の多いアブサラス計画の続行を疑問視する声も、再びジオン上層部内に噴出する。またアイナ個人にも、ジオン公国戦士としての忠義を欠いているのではとの中傷が飛び（一説によると美兄から）、計画の妥当性が検査される。それでも強襲用兵器の価値が認められ、計画の最終形態アブサラスIIIが完成のときを迎えた場合、同機体は運命的にも先の連邦側小隊との交戦に至ってしまう。この戦いの果てに、ギニアス、ノリスの両雄はアブサラスによるジャブロー攻略という悲願を果たせずに戦死。またアイナ操縦士も、大破したアブサラスIIの傍らで行方不明になってしまふ。



アブサラスIII

連邦編

アブサラス調査

ジオン側の、巨大な飛行タイプの新型MAが出没。この調査のために、現状で種々の条件が過したコジマ大隊のMS第2中隊に所属する、第08小隊の登用が審議される。同小隊の構成メンバーとして選出され、任務に当たるのは、同隊隊長シロー・アマダ以下の、カレン・ジョシュアやテリィ・サンダー・Jr など6名。討議を重ねた結果、やはりジオン側強襲用兵器の危険性を鑑みて、彼らを調査に派遣するのが一つの選択。この結果、シローが敵のMAと交戦することに。その結果、彼は行方不明になり、やがて状況証拠から当のシローが、ジオン側兵士と間接的な接触をしているのではとの不審が生じてしまふ。



シロー・アマダ



RX-78(G) ガンダムEZ-8

アブサラス追跡

生還したシローの連邦に対する忠誠を疑うなら、ここで第08小隊による敵MAの探索まで中止させるのが、上層部としては自然な判断だ。だが敢えて信頼を託すなら、彼が行方不明になった際の有事データから新型MS、ガンダムEZ-8が考案される。

その後、シローの行為を不問にした連邦の前に、例の新型MAがまたも出没。強襲用兵器として実働するMA相手に第08小隊を出動させるなら、敵の本来の目的と判明したジャブローへの攻撃は免れる。だがその戦いの果てに、シローが敵操縦士と共に再び行方不明になったという報告が入る。しかし同小隊を出撃させない場合、敵MAは強大な部隊を組んでジャブローに襲撃、甚大な被害を与えることになる。

F-JW.DONALD

宇宙世紀0079年11月23日

アスタロス 開発計画

REALITY

史実では……

コロニーが落ちた地

ジオンが仕掛けた「ブリティッシュ作戦」攻防の果て、オーストラリアには破損したコロニーの一部が落下、甚大な被害が出た。同地は現在、ジオンの資源採掘場となり、連邦軍との膠着状態にある。そこでは連邦側M・P・レイヤー中尉率いる独立遊撃隊「ホワイト・ディンゴ」と、ジオンの猛者「荒野の迅雷」ことヴィッシュ・ドナヒュー中尉を長とするMS部隊が、因縁的な交戦を繰り返している。やがて戦争の大局はオデッサ戦を経て、連邦有利のバランスに傾くが、このオーストラリアにキシリア直属の特殊部隊が現れる。彼らは「アスタロス」という、地球の生態系をも狂わせる生物環境兵器を携えていた。しかもオデッサで核が使用された事実に関連、

連邦もまたトリントン基地に核兵器を秘蔵。同特殊部隊はこの現実を利用しようと企む！

軍人としてまた地球圏に臨む人間として、各自の立場から適切な現場判断を強いられるレイヤーとヴィッシュ。さらに特殊部隊は宇田への脱出と広範囲なアスタロス散布を狙い、連邦の所有するH・L・V奪取をも計画した。混乱の果て、ジオン側の巨大な制圧機動兵器ライノサラスまでが砂塵の中に起動。アスタロスの脅威を彼方に、レイヤーとヴィッシュは最後の対決の刻を迎える……。



ヴィッシュ・ドナヒュー

IF ゲームでは……

IF ジオン編

○アスタロス開発計画

ルウム戦役後、南極でジオンと連邦の間に調印された条約、通称「南極条約」は、核や生物・化学兵器の使用禁止を一部の条項とした。だがアスタロスは実質的には生物兵器だが、同条約の圏外にあった。なぜならそれは兵器開発ではなく、スペースコロニーにおいて農作物の生産性を向上させるバイオ研究の副産物として、偶然に誕生した植物寄生体だからだ。

エコロジー的な理念から言えば、アスタロスの活用は荒廃した地球圏の再緑化にも大いに貢献する筈だが、もともとは寄生植物である。

その特質上、無差別に森林地帯にバラ撒けば、母体たる樹々の養分を奪い枯らし、最終的には死滅したアスタロスのみが地表を覆うという現実があった。極めて危険なバイオ生命体だが、本来の研究意図が兵器開発ではないという事由から南極条約にも抵触しない、非常に露骨なウエポンでもある。

このアスタロス開発が、ジオン上層部の審議を受けるのだ。

○アスタロス回収命令

アスタロスは地球上にある生物学研究所で開発・培養される。危険な物件の扱いには、信頼に至る技量の者が必須とされ、「荒野の迅雷」ことヴィッシュ・ドナヒューの名が推挙される。

彼を適任とした場合は、アスタロス回収と同時に、近辺で地上軍が開発した拠点防衛用MA、ライノサラスの撤収も任務とされてその二つの作業が同時に推進される。

だが一方で、アスタロス回収にヴィッシュ程の歴戦兵を使う必然が薄い……という判断が、上層会議で支持を得る場合もある。この際にヴィッシュの任務は、本来の彼の職務たるMS乗りに見合ったライノサラスの搬送だけである。

なおアスタロスを回収する際は、連邦の強豪小隊「ホワイト・ディンゴ」との遭遇も懸念事項だ。



ライノサラス



HLV

「アスタロス散布」
 難敵ホワイト・ディンゴと戦うなどの危険を冒し、「荒野の迅雷」ヴィッシュが少量ながら見事にジオン側へと回収したアスタロス。その扱いだが、実際に使用して地球環境を損壊、今後の連邦資源を枯渇されることも可能だ。戦略的な意義は絶大だろう。

だが南極条約の圏外にあるとはいえ、実質的には生物兵器であり使用を忌避すべきとの人道的な声も良識派の中から上がってくる。またアスタロスの散布は、いずれジオン勝利の晩には国土となる地球自然に甚大な被害を与えてしまうという側面も見逃せない。

連邦にダメージを与える一方、最低でも中立勢力からの反感を買い、ジオンの国体としての立場が悪くなる現実も鑑み、使用には最後まで思慮が重んじられる。

IF ゲームでは…… ↓ 連邦編



レオン・リーフェイ

超兵器調査命令

戦局も山場を迎える最中、内外から高い能力評価を受けている連邦諜報部が、ジオンの不穏な動きを探り出す。どうも敵は、新しい超兵器を開発中らしい。

年は若い。諜報部きつての切れ者と呼ばれるレオン・リーフェイを調査に派遣するかどうか、上層部での討議が進められる。

これでその妥当性が認められた際には、彼の前線での同伴役として精鋭部隊「ホワイト・ディンゴ」のM・P・レイヤー隊長と、マクシミリアン・バーガーが抜擢され、調査対象現場で徘徊しているとの情報もあるMS部隊との対応に当たる事になる。

ホワイト・ディンゴ隊

ホワイト・ディンゴを随伴したレオン。彼の任務が進むと、やがてジオンの逸物「荒野の迅雷」ことヴィッシュ・ドナヒューが出現する。この事実が、超兵器存在の確信を高め、調査はそのまま続行されることになる。

早い日数でホワイト・ディンゴ隊の調査が実を結び、件の兵器の正体が「アスタロス」なるバイオ植物と判明。しかしレオンや隊メンバーの諜報力に不備があると超兵器実在の確信は揺るがないものの、その実体までは判明しない。

いすれにしてもその目指す「超兵器（アスタロス）」がHLVに搭載され、宇宙へ向かうという現実を確認される。ホワイト・ディンゴは、超兵器の運用、または敵軍への搬送を防ぐため、同HLVの撃墜を命じられる。



マスター・ピース・レイヤー



マクシミリアン・バーガー

HLV破壊作戦

超兵器（アスタロス）を積んだHLVを宇宙へ行かせないため奮闘するホワイト・ディンゴ。だがその前に、宿敵となった「荒野の迅雷」が立ち上がる。

上層部から命じられた主目的は、あくまでHLVの破壊。

見事にHLVを撃破した場合は、ジオンが自論んだ詭弁的な生物兵器計画は全て塵芥に帰すが、失敗した場合は、同機は宇宙圏へ到達、敵軍の目指す成果へと、さらに接近してしまう。

結果は両極端ではあるが、HLVを破壊してもそうでなくとも、レオンを含むホワイトディンゴ隊はここで解散、それぞれ次の配属先に向かうことになる。

これに成功してもしなくても、激戦の果てに「荒野の迅雷」はその生死が分からなくなってしまう。

1-JW-0000

宇宙世紀0079年

ジャブロー攻略用MS

REALITY
史実では……

水陸両用MSの必然性

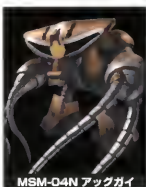
ベルファストやジャブローなど、連邦勢力の拠点が水辺にあることも関与しているのであろう。水中用MSの開発においても、ジオンは連邦を大きくリードしていた。

元来、水中用MSはメガ粒子砲の兵装も念頭に設計。つまりビーム兵器の課題である機動時の冷却効果を、潤沢な自然資源の海水で賄うことを前提視していたのだ。

本項で扱った4種の機体は、完



MSM-04G ジュアッグ



MSM-04N アッグガイ

成を見ながらいすれも一年戦争時の実戦投入が未詳とされており、地中用のアッグは別として、他の水中型3機が戦史に記録を留めていない理由は、ヒートロッドやブーメランカッターなど特異な武器こそ用いられているものの、メガ粒子砲を積載した機種が無いからだろう。当初の理念を置き去りにした現状が、本MS群を開発史の裏側へ追いやったという仮説も可能だ。が、希少性ゆえ後年には珍重され、ジュアッグとソゴッグは、サイド3のタイガーバウム地区で展示されたという。

IF
ゲームでは……

ジオン編

ステルス性の高いアッグガイをベースに、対ジャブロー戦を計画した新型MS群の開発にジオンは着手する。

もともとアッグガイは、MSシリーズといわゆるザクの反応炉に若干の改装を施した程度の内部機関を搭載したMSだったゆえ、総計8千台以上（これは一年戦争終了時までの概算による）の生産数を誇るMS 05/06タイプからの置換はきわめて容易だった筈である。MS工場の現場でも作業の軽減に貢献したと思われる。アッグガイの特徴を分散したともいえる新型MSには、火力、白兵能力、隠匿性といった要素が別々に検討、導入された。



MSM-08 ソゴッグ



EMS-05 アッグ

開発陣の脳裏では、これら4機を一個小隊として以下のような作戦行動を予測したと思われる。まず地中用の装備を備えたアッグによる斥候を行った上、ソゴッグおよびアッグガイとの連携により敵兵力（むろんその主戦力がMSであることを想定している）を掃討。敵の沈黙に伴い、情報収集を完了させた後、ジュアッグの火力で一面を焼いて痕跡の隠滅工作を計る、といったプランニングである。

元より用途が限定された非汎用型の水中、地中型MSだけに、別地への配備転換は考えられなかったものと推察。ジャブローにおける決戦を旨として、あとはギレン総師からの出撃命令を待たばかりであった。かくして「ジャブロー潜入作戦」は秒読みに入る。

ムーヴメント

宇宙世紀0079年

ペズン計画

REALITY
史実では……

新機軸のMS群

大戦末期、劣勢のジオン軍は巻き返しを計るべく、領土圏にある小惑星ペズンを生産拠点として、新規MS計画を発動。

この「MS-X」こと「ペズン計画」で多種の新MSが開発される一方、MS自体が扱う兵装にも着目。つまり生身の歩兵が重機関砲を携行、あるいは砲台に立つことなく、MSにも大型兵器を付与する新案が含まれていたのだ。



MS-10 ベズン・ドワッジ



MS-11 アクト・ザク

IF
ゲームでは……

ジオン編

両陣営を摩擦させてゆく戦線の長期化であったが、一面においては必ずしも無駄に終始しているわけではなかった。戦いが長引くということは、MSの生産性が重要視されることにも繋がり、少なくとも兵器開発スタッフや軍需産業側にとって、得られるデータの蓄積量は莫大なものだったからである。むしろ、前線で命の応酬を行っている兵士たちから見れば、開発

側の主張など戯言この上ないものの、技術レベルの向上が兵士の生産率にもあながち無縁でないことを考えた場合、決して一蹴してよい事項でもないだろう。

こうした現状を踏まえ、MS開発に腐心を重ねたジオン公国の大戦末期における戦況を垣間見た際、技術水準が相当な高みに上り詰めていることを気付かされる。

一見では泥沼に思えたジオン側の状況だったが、実は各地で点状にしている局地戦までも想定した、新MS群を生み出せるほどに至っていたのであった。

この局地戦用MS開発計画は通称「ペズン」のコードネームで覚えられ、ここで掲載したMSらが設計可能となる。

特に興味深いのがアクト・ザクで、MS-Xシリーズ中では唯一ザクの名を冠した機体だ。本機は



MS-12 キガン



MS-17 ガルバルディア



MS-13 ガッシャ

運動性能などが傑出しており、一説によればこれはマグネットコーティングの賜物という。本来は連邦側の特許であった舊の同技術が、僅かの期間で自軍に応用できたことも、ジオン技術陣の高度な開発力を物語る逸話だ。

なお末筆になるが、史実事項の補遺として、支援機のスキウレや連邦軍のヘビーガンダムおよびバストライナーなども「MS-X」系列の範疇であることもここで付記させていたたく。

1-JW-0000

宇宙世紀0079年8月

統合整備計画

REALITY

史実では……

ジオン軍のメカニズム

一年戦争末期、続々と新型MSを戦線に投入したジオン公国軍は量産型MSの全面改修に着手した。発展途上の技術を反映し、MS毎に操縦法が異なっていた状況は、パイロット養成の面から非常に不都合を生じさせていたのである。この計画によりMS操縦システムの統一が図られ、機種転換が容易になった。反面、戦況は既に学徒動員を行うまでに悪化していた。



MS-06FZ ザクⅡ改



MS-06R II リックドムⅡ

IFゲームでは……

IFジオン編

ザクの誕生以降、ジオン軍は、開発が終了次第、即量産を開始するというやり方で、強力な新型MSを続々と実戦に投入していった。開戦以降、宇宙から地上、水中や砂漠へと展開していく戦場に対応しつつ、工業力に勝る連邦軍の最新兵器に対抗するという要求に合わせた結果、新型の実戦配備や主力機の世代交代は驚くべきハイスピードで行われたのである。



MSM-03C ハイゴッグ

しかし反面、地上戦用の機体と宇宙戦用の機体を別個に開発・生産しなければならなかったり、得意とする状況以外では途端に弱点をさらけ出し、戦場で立ち往生してしまう機体が出来てしまうなど、局地戦に特化させすぎたジオンのMSは汎用性に欠け、限られた戦力を最大限に利用して勝利を収めるべき戦争遂行には支障をきたす面が発生することは否めなかった。さらに戦争が長引くに連れ、従来のジオン軍の汎用量産型MSは、生産性こそ高かったものの、装甲・火力・機動力の面で強力なビーム兵器を主装備とする連邦軍の投入する新型MS群との性能差をつげられつつもあった。

そんな中、開発部から「統合整備計画」が提案される。これは、MSの操縦系統の規格統一化を図ることで、前線の兵士の負担を軽減し、操縦性を向上させることによりMSの運用をより一層効率よく行つたものである。



MSM-07E スコッケ



MS-14JG ゲルググJ

次期主力MSの制式採用

REALITY
史実では……

遅すぎた傑作機

一年戦争末期、ジオン公国軍の次期量産MS選定は難航を極めた。ジオン軍初のビームライフルを装備し高い砲撃戦力を持つゲルグと、ビームサーベルを装備し白兵戦に優れたガンが協議にかけられ、最終的にゲルグが制式採用された。量産化は迅速に行われたが時既に遅く、熟練パイロットの不足によりこの高性能機も戦局を覆すには至らなかった。



MS-14 量産型ゲルグ



YMS-15 プロトタイプガン

IF
ゲームでは……

ジオン編

連邦軍の量産MSがビーム兵器を主装備としていたのに対し、ジオン軍はビーム兵器とそれを運用するための高出力ジェネレータの小型化の技術開発に手を取った。そもそも機動兵器にビーム砲を搭載する目的で開発されたMAがああサイズになったのは技術的な限界という理由もあったのである。

その後もジオン軍の開発部は研究を重ね、遂にMSの手持ちサイ



MS-15 ガン量産型

ズのビーム兵器の開発に成功、それを主装備とする2種のMSのプロトタイプを開発することに成功した。ビームサーベルとミサイルを内蔵したシールドを装備し、高い白兵戦能力を誇るガンと、ビームライフルを装備し、高い火力と機動力を誇るゲルグである。ガンは格闘戦力でゲルグに勝り、ゲルグは火力でガンに勝る。どちらの機体を今後の主力MSに選ぶかは総帥の判断に委ねられ、採用されたどちらか一方の機体の量産機が、今後の主力機として戦線に投入されることとなる。選ばれなかった機体は高価なプロトタイプの増産こそ可能になるものの、生産性を高めた量産機の開発は不可能となる。

なおかつ、かつての主力機ザクⅡの如く、ジオンの誇るエースパイロット専用にかスタムメイドさ



MS-15K ガンキャノン

れた強力な専用機、ジェネレータ出力を機動性に回すことで空間戦能力を強化した高機動型、長射程のキャノン砲を背負い、火力を高めた砲戦型といった今後のバリエーション機種開発も、当然主力機をベースに展開されることとなる。ビームサーベルかビームライフルか。砲撃戦か格闘戦か。得意な戦法がこれらに特化された主力MS機種をゲルグとガンのどちらに選定するか。それによって、当然今後のMS戦で重要視される戦法が決定し、戦術におけるMSの運用法にまで影響を与えることとなるので、今後の戦略を考える上でも選択には慎重な判断が求められる。

UJOMU

宇宙世紀0079年

強化人間開発計画

IFゲームでは……

連邦編

ジャミトフは連邦軍がNT研究に関してジオン軍に比べ大幅に遅れを取っている事を受け、人為的にNTを作り出す技術の研究機関「ムラサメ研究所」の設置を具申する。「強化人間開発計画」の犠牲者プロト・ゼロの悲劇はここから始まった。人間の能力を超えた戦力を引き出すために精神に改造を加えられたゼロは、ジャミトフのティターンズの戦力となるが、彼は



ゼロ・ムラサメ

ムラサメ研究所を壊滅させて脱走、奪取したデータとともに連邦軍へ投降する。ゼロは、サイコガンダムの資料と引き換えに自分の治療法の研究を依頼した。レビルは危険人物である彼を受け入れるかの選択を迫られる。しかし結局は強化人間の治療法のデータは存在せず、悲劇の強化人間は自分の運命をもて遊んだものへの復讐を決意した。



強化人間001(レイラ)

ジオン編

ティターンズのムラサメ研究所をたったひとりで壊滅させた強化人間ゼロが、ギレンに接見を申し出た。彼が自分の治療法と研究資料として持ちこんだムラサメ研究所のデータは、人為的にニュータイプを作る研究資料であった。彼を受け入れ、同時に持ち込まれたサイコガンダムの資料と共にこれが利用できればジオンでも強力な戦闘力を持つ強化人間を作る事が可能となる。ゼロを受け入れることによって、ジオンでの「強化人間開発計画」は発足可能となった。研究データを元に早速開発された第一号NT 001は目覚ましい戦闘力を挙げることに成功したものの、副作用でその精神が不安定なものとなり、実戦投入が可能かどうかは不明であった。研究が進め



強化人間002

ばこの副作用も解消する方法は見つかったかもしれないが、自らの意向を踏みにじられたゼロも黙ってはいなかった。実験中止を求めたゼロにギレンは選択を迫られる。強大な戦闘力を持つゼロの不興を買う事は危険だが、せっかく手に入れた強化人間開発技術を手放すことも得策ではない。その選択いかんによってジオン軍が強大な力を持つ強化人間を敵にするか味方につけるかが決まってしまうのである。しかし戦うだけの存在に作り替えられたゼロにとっては、どちらにしても今後戦いを強いられる運命を背負わされる事には違いなかった。

結局、戦うだけの存在として生まれた強化人間たちが、人間性を踏みにじられ人生をもて遊ばれる悲劇はどこへ行っても逃れることはできない運命なのだろうか？



強化人間003

フリーダム

宇宙世紀0079年12月31日

ホワイトベース隊の引退

REALITY

史実では……

危険分子と見なされ解任

第13独立戦隊としてア・バオア・クーでの戦闘に参加したWB隊は、クルーに戦死者を出すことはなかったものの、WBは撃沈し事実上の解散を迎える。

一年戦争を生き延びたWB隊のクルーたちは、連邦軍によって保護されるが、後ろ盾であったレビル將軍の戦死によって以後の扱いは冷遇されることになる。

NTの存在を否定する連邦高官たちによって、一年戦争での活躍の恩賞が与えられなかったどころか、ほとんどのクルーは左遷同様の扱いを受けることになる。

NTであるアムロは、危険人物として、常時監視が付いた軟禁状態に置かれ、他のクルーたちも軍からの退役や左遷などによってバラバラになってしまうのであった。

CONQUEST SIDE BOOK

機動大戦



↑WBの大破を知らせるレビルの秘書 その後、WB隊は事実上の引退を迎えるのだ

IF ゲームでは……

↓連邦編

WB隊がア・バオア・クーの戦いで解散に追い込まれてしまうのは史実と同じ様である。

しかし、その後、サイド3における本土決戦へ向けた戦いへの道を選ぶと、解散したWB隊の乗組員たちを引き続き連邦軍に配属することが可能になる。

レビル將軍が、ソーラ・レイによって戦死しなければ行われたかもしれない本土決戦で、WB隊のメンバーはさらなる活躍を見せてくれるのだ。

だが、第2部に入ると、史実同様WB隊のメンバーは、連邦軍から離れて独自の行動をとることになる。後ろ盾であったレビル將軍が存命していても、WB隊の面々が連邦軍に残ることはない。第2部では、WB隊のほとんどのキャラクターがエウーゴへと参加する。軍役を退いたはずのカイもエウーゴでパイロットを務めることになる。

エウーゴの指導者であるブレックス・フォーラーとの会見で、エウーゴとの協力体制に合意すれば、



↑史実と通りの機体にキャラクターを乗せることができ さらなる活躍を期待することができる



↑ア・バオア・クーで解散したWBのメンバーが連邦軍に参加、高いレベルに成長している。

WB隊のメンバーは、再び地球連邦軍のパイロットとして配属が可能になり、新しい歴史が幕を開けることになる。

1-JW'00NT

宇宙世紀0079年

テストパイロットの採用

REALITY

史実では……

若きパイロットが新たな戦場へ向かう

史実では、連邦軍がテストパイロットを特別プランとして採用したケースは存在しない。しかし、一部のテストパイロットが、特殊な経緯で戦闘に参加したという事実がいくつか存在する。

0079年12月、連邦軍はNT対応MSとして、RX-78ガンダムNT-1アレックスを開発。

その開発チームの一員であり、テストパイロットも兼ねていたのがクリスチーナ・マッケンジーであった。彼女は、アレックスのテスト運用中に、アレックスの実戦投入を阻止すべくジオンから送られたMサイクロプス隊との交戦を体験し、これを返している。

その他にも0083年10月、オーストラリアでMSのテストパイロットを務めていたコウ・ウラキ



↑連邦軍の深刻なパイロット不足を補うために、連邦軍内部からテストパイロットの採用が提案される

とチャック・キースのケースもある。このふたりのパイロットは、偶然にもジオン残党によるガンダム試作2号機の強奪に遭遇。この緊急事態を阻止すべく戦闘に参加する。この強奪劇を阻止することはできなかったものの、彼らの働きは軍に認められ、ガンダム2号機の追跡の軍務を与えられ、テストパイロットから正式に軍へ配属されることになった。

IFゲームでは……

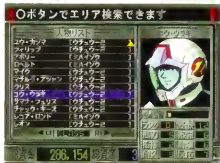
運邦編

W8隊引退後の地球連邦軍は、深刻なパイロット不足に悩まされる。そこで、テストパイロットとして配属されている若い兵士を、正式なパイロットとして採用するプランが提示される。

このプランを実行すると、正規パイロットとして連邦軍に採用されるのが、クリス、コウ、チャックの3名。特にクリスとコウは、史実においてもガンダムの操縦を行い、高い戦果を挙げているので活躍が期待できる。

第2部に入り、レビル將軍の存命によって、すでに歴史が大きく変わっているが、コウとチャックは史実同様、デラース・フリートが行ったガンダム強奪作戦に関わるエイバー・シナプス指揮の元、ガンダム試作2号機の追跡の任務を与えられることになる。

コウとチャックのふたりを任務に就かせなければ、ガンダム試作2号機は簡単にジオンの手に渡り、驚異的な兵器として連邦に牙をむけることになる。そして、星の肩作戦に絡むイベントも史実とは微



1 コウは、戦闘経験はないもののMS操縦能力の高さを見込まれ、正規パイロットとなる



1 一年戦争時にサイクロプス隊との交戦経験があるクリスは、そのまま正規パイロットに採用される。

妙に形を変えていくのだ。

デラーズ・フリート出現

REALITY

史実では……

志を継ぐ者

ア・バオア・クー陥落後に連邦政府とジオン共和国との間で結ばれた休戦協約は、事実上のジオンの降伏宣言であった。傀儡政権によって結ばれたこの条約の結果をよしとしなかったジオン公国軍の残存勢力は、ある者は小惑星帯の鉱山都市アクシズに落ち延び、またある者は地球圏に留まりながら戦力を蓄え、連邦への反抗の機会を窺っていた。ギレンの思想に傾倒し、その意志を継こうとするアナベル・ガトーを初めとする者達は、ギレンの直属の部下だったエギーユ・デラーズの指示のもと、後者の道を選んだ。彼等の艦隊は暗礁地域に繫留基地「次の圏」を設営して潜伏。ジオンの再興を夢見て、彼等は沈黙を守り機を熟すまでひたすら待ち続けた。そして

3年の時が過ぎた。反抗の準備を整え、連邦側が一年戦争の記憶を忘れたのを見計らったデラーズは、その油断に乗り、遂に戦力の召集を掛けた。彼の元へ集結した精鋭達の軍勢はギレンの遺志を継ぎジオン再興を成し遂げるべく決起した。連邦軍トリントン基地の核弾頭を奪取した彼等「デラーズ・フリート」は、地球圏全域に宣戦布告放送を行う。この勢力の出現と彼等の「星の屑作戦」は、再び新たな動乱を巻き起こし、地球圏には再び多くの血が流されることとなるのであった。



エギーユ・デラーズ

IFゲームでは……

↓連邦編

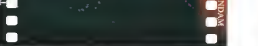
地球連邦軍はサイド3を制圧し、遂にギレン総帥率いるジオン公国を撃滅することに成功した。独立戦争から端を発し、長きに渡ったジオン公国軍と連邦軍との苦しい戦いは、連邦軍の勝利という形でようやく終結したのである。しかし、戦いは真の終わりを迎えた訳ではなく、この勝利は連邦軍につかの間の安慮しかもたらさなかった。絶大な求心力を持ち、多くの信者者を持っていたギレンの掲げた優良種たるスペースノイドにより人類を正しい道へと導こうとする思想は、スペースノイドの自立という理想だけが一人歩きを始めることとなった。その結果、ジオン公国が壊滅した後も、虐げられたスペースノイドの間にはギレンの思想が絶えるどころかますます根強く残っていた。ジオン公国の壊滅によつて、戦いの火種は消えたわけではなく、むしろ新たに撒かれてしまったのである。ジオン公国で総帥ギレンの片腕として働き、彼の思想を心底信奉していた勇将、エギーユ・デラー

ズと、「ソロモンの悪夢」の異名を持った精鋭の部下アナベル・ガトー。彼等はスペースノイドの理想国家樹立を果たすというギレンの遺志を継ぎ、ジオンの再興を果たすべく、思想を同じくする公国残党の同志の戦力を招集して「デラーズ・フリート」を結成した。暗礁地域に居を構え、「次の圏」なる本拠地を建設したデラーズは、全地球圏に向け宣戦布告演説を放送。暗礁地域の周辺と地上のアフリカ大陸に部隊を展開させ、ギレン総帥の成し得なかった野望、地球圏完全制覇の悲願達成に向け侵攻作戦を開始した。ジオン公国軍を倒したレビル將軍だったが、連邦軍は再びその思想的分身とも言えるデラーズ・フリートとも戦わなくてはならなくなったのだ。ここに新たな戦乱の時代の幕は明けることとなった。



アナベル・ガトー (デラーズ版)

EARTH FEDERATION SPACE FORCE
デラズ・フリード



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

再興を果たさねば、世

下は永遠に光がもたら

allied

「J」WORLD

宇宙世紀0081年10月20日

ガンダム 開発計画

REALITY
史実では……

盗手続として新しいガンダムを開発

一年戦争の戦後処理がほぼ終了した0081年、連邦軍再建計画と同時期に次期主力MSの極秘開発が進められていた。それが、「ガンダム開発計画」である。

この計画は、連邦と終戦時に損取したジオン軍のMS開発技術を用いた。



↑コーウェン中尉から提案されるガンダム開発計画。連邦のMSの歴史を変える重要なプランだ。

統合し、現時点で最強のMSを作るのが目的であった。

計画が実行されると同時に、使用目的が違いう2機のガンダムの開発に着手。

ガンダム試作1号機は、既存のMSの基本性能の向上と戦闘能力のアップを目的としたMSとして開発。ガンダム試作2号機は、核兵器運用を前提とした重MSとして開発された。

しかし、この極秘計画がデラース・フリートに漏れたことで、ガンダム試作2号機が奪われてしまう。核弾頭を装備した危険なガンダム試作2号機を追うため、ガンダム試作1号機も実戦に投入される。

この強奪事件が、後々にデラース・フリートの反乱から始まるコロニー落としへとつながる。そして、この動乱の事後処理によって、新型ガンダムも歴史の闇に消えて行くのであった。

IF ゲームでは……

ジオン編

連邦軍のガンダム開発計画を察知したジオン軍は、試作2号機の強奪計画を行うかどうかという選択に迫られる。

強奪計画を実行しないという歴史を選ぶこともできるが、試作2号機の戦力は頼もしく、星の肩作戦の実行には欠かせない存在。

このプランを発動させると、ガトーがガンダム強奪の任務を遂行し、ガンダム試作2号機を強奪し、連邦軍に大きなダメージを与えることが可能な星の肩作戦を実行することができる。



！試作2号機を手に入れることにより、ジオンは新たな作戦を実行することができるのだ。

連邦編

連邦軍側では、史実と同じ目的でガンダム開発計画が提案されることになる。

史実とは違った歴史を選択し、この計画を実行しなければ、ガンダム試作2号機の強奪は発生しない。さらに、後に起こる星の肩作戦による莫大なダメージも受けなくて済む。

しかし、ガンダム開発計画に伴う、新型ガンダムの生産ができなくなるなど、戦力的に厳しいのは事実。3種類のガンダムを開発することで、高戦果が期待できるのは間違いないのだ。そして、戦力的な厳しさだけでなく、後々のMS開発にも影響を及ぼしてしまう。

史実では、デラース・フリートの反乱の事後処理の結果、歴史の闇に消されたガンダムのバリエーションであったが、この計画の実行によって培われた技術は連綿と残り、さらに次世代のMSの開発に受け継がれることになるのだ。

ちなみに、ゲームでは試作型ガンダムは抹消されず、第2部の主力MSとして活躍させることも可能である。

GUNDAM VARIATION

ガンダムバリエーション

ここでは、ガンダム開発計画のイベントで誕生する新型ガンダムのバリエーションを、開発順に沿って紹介していく。各機体の開発時期なども併記してあるので、特に連邦版のプレイヤーは、戦略を考えるうえでの参考にしてもらいたい。

RX-78 GP02 サイサリス

(製作2号機)



戦術核兵器使用を前提として開発された特殊なガンダム。各部には、核攻撃時に耐えるための装備が施されている。プロトタイプガンダムの開発が終了していれば、ゼフィランサスと同時に開発が提案される。

RX-78 GP01 ゼフィランサス

(製作1号機)



時期主力MSとして開発された実験機。より人間に近い運動性能を発揮するように設計されている。一年戦争で、プロトタイプガンダムの開発が終了していれば、開発を開始することができる。

RX-78 GP03S ステイメン

(製作3号機)



デンドロビウムのコアとなる機体として、宇宙戦闘用に開発された機体。宇宙での機動力を高めたテールバンダーの装備が画期的。ゼフィランサス、サイサリスと同じ条件、同時期に開発が提案される。

RX-78 GP01-FB フルバーニアン

(製作1号機)



重力下仕様であったゼフィランサスを宇宙仕様に換装された機体。ゼフィランサスの開発が終了していれば、開発を始められる。その際、ゼフィランサスとは別個の機体として生産される。

RX-78 GP03D デンドロビウム

(製作3号機)



MSの汎用性とMAの機動性を兼ね備えた機体として開発された。ステイメンの外装に、多用途の武器を収納したアームドベイスが装着されている。ステイメンの開発が終了すると、進化案として開発が提案される。

RX-78 GP04 ガーベラ

(製作4号機)



格闘や白兵戦闘、突撃や強襲戦闘で特化した機体を目指し製作されたガンダム。しかし、開発案から除外され、アナハイム研究所でガーベラ・テトラの機体となる。フルバーニアンが完成すると開発が始められる。

星の屑作戦

REALITY
史実では……

消された星屑の記憶

デラース・フリート軍は3年の
潜伏の時を耐え忍び、遂に「星の
屑」作戦を発動させた。作戦の第
1段階として、アナベル・ガトー
はトリントン基地で戦術核を搭載
したガンダム試作2号機を奪取。
シナプス艦長率いるアルビオン隊
を振り切り、宇宙に出た。ガトー
は作戦の第2段階として連邦宇宙
軍の観艦式を強襲。集結していた
艦隊の3分の2を核攻撃により壊
滅させた。そして「星の屑」作戦
の最終段階にして真の目的、コロ
ニー落とし敢行に向け、デラース
は最後の攻勢に出た。アルビオン
隊のコウのGP 03等の重戦虚
しく、コロニーは阻止限界点を突
破する。しかし……。この戦いの
後、この事件にまつわる全ては公
式記録から抹消された。

IF ゲームでは……

ガンダム開発計画

南極条約に明らかに抵触するに
も関わらず「ガンダム開発計画」

のプランの中には戦術核武装化を
前提としたガンダム試作2号機G
P02サイサリスの開発計画が
含まれていた。これには一年戦争
に勝利した連邦軍の、核兵器の存
在が戦争の抑止力となるという時
代錯誤の発想や、敵対勢力の弱体
化に対し条約は有名無実化したと



ジョン・ユウウェン



グリーン・ワイアット

考えたおごりが反映された結果と
も言えた。この連邦軍の安易な発
想のツケは思わぬ所からやってく
る事となる。何者かに試作2号機
が核兵器ごと奪取されたのである。
追撃隊にシナプス艦長とパニング
のMS部隊の戦力を割くことを止
む無しとする選択をしたところ、
彼等は交戦したその敵の正体を突
き止める事に成功した。なんと敵
は滅ぼしたはずのジオン公国軍の
「ソロモンの悪夢」の異名で恐れら
れたアナベル・ガトーだったとい
うのである。油断していた連邦は

「核弾頭あるところにガトーあり」
という一年戦争の教訓を生かせな
かったのである。そう、ジオン再
興を掲げ新勢力デラース・フリ
ートは強行作戦に出たのだ。次に狙
われたのはグリーン・ワイアット
の発案による連邦宇宙艦隊の観艦
式であった。何事もなければ士気

高揚のためにも大いに役立つこと
になるはずのこの式典は、突如現
れたガトーの試作2号機の核の洗
れを受ける事となる。しかし考え
ようによればこれは連邦軍にとつ
ては幸運であったかも知れない。
観艦式が潰されたことは確かに痛
手だが、この派手な催しが結果的
に敵の目をひきつけるおとりの役
割を果たしていなければ、ガトー
は連邦軍本部ジャブローに一気に
殴り込み、核の餌食にしていたの
だから。ジャブローに直接核攻撃
が仕掛けられれば、いくら施設は
地下にあるとはいえ被害は免れな
いだろう。観艦式が襲われたこと
は、ある意味でジャブローが襲わ
れる代わりに犠牲になってくれた
のである。だがこの凄惨な事件も
デラースの「星の屑作戦」最終段
階への布石に過ぎなかったのだと
する。



コウ・ウラキ

星の肩作戦

核攻撃を果たした試作2号機強奪部隊は、なんと禁断のコロニー落としを仕掛けてきた。しかも、敵部隊の規模やコロニー落下予想地点、到達までの時間はまったく不明であった。連邦軍がデラーズの「星の肩作戦」の全容を知ったときには、事態は既に作戦の最終段階にまで達してしまっていたのである。コロニーの狙いが総本部ジャブローであると判断した連邦軍は落下阻止のため可能な限りあらゆる手段に出る。

シナプス隊の派遣とガンダム試作3号機の投入、デラーズ軍を裏切ったシーマ・ガラハウとの取引、連邦に所属していたジャミトフ指揮によるソーラシステムIIの照射。コロニー落下阻止が間に合わなければジャブローは大きな痛手を被る。果たして作戦は間に合うか？



エイパー・シナプス



サウス・パニング

功を奏するのはどの作戦か……？

シーマが報酬として要求した額は国が一二つ傾くような値であり、ソーラシステム照射が成功すればジャブローは救われるが、ジャミトフはその功を楯にその権限を強めようとするだろう。かといってジャブローの戦力が壊滅してしまえば元も子もない。レビル将軍は目の前の脅威だけではなく、先の展開を見据えた上での打開策を採ることを迫られるのである。

だが、連邦軍にレビル将軍がいた事はこの事態において唯一かつ最大の幸運であったかも知れない。史実において個人はもろろんその後の地球圏の未来まで関った者すべてを不幸へと巻き込んだ「星の肩作戦」の悲劇は、彼の采配によって大きく変えられるのである。星の肩の記憶は消されることがなく涙の色で輝くことを許されたのだ。



ジオン編

一年戦争後も生き残り、ジオン公国を率いたギレン総帥。敬愛する彼に捧ぐべく、腹心のデラーズは「星の肩作戦」を提案する。

かつてジオン軍を苦しめたMSガンダムの後継機の情報をつかんだデラーズ。かねてより友好関係にあった敵軍需産業より送られたその技術を活用して作られたというガーベラ・テトラの高性能さから見ても、その新型が秘めた力が脅威になることは確実であった。彼の精鋭の部下ガトーの部隊が奪取に成功したその試作2号機には、なんと南極条約違反の核武装が施されていた。それを使う機会は意外に早くやってきた。かねてより能力を上げていた諜報部が、連邦軍がジオン軍の威を殺ぐための大規模な軍事式典を企画しているこ



シーマ・ガラハウ



AGX-04 ガーベラ・テトラ

とを察知したのである。デラーズはこれを核で強襲して陽動とし暗礁空域のコロニーをジャブローへ落とす。「星の肩作戦」の実行を具申する。作戦実行の承認がなされ、ガトーの部隊は観艦式強襲、デラーズはコロニー落としの準備に掛かった。ここに、ジオン公国軍の「星の肩作戦」の幕は明けた。だが「ならず者部隊」と称されたシーマもこの作戦に起用されたことがこの作戦の成功を左右することになった。諜報部の情報によれば、シーマは連邦軍と通じている可能性があるというのである。「星の肩作戦」は奇襲である。作戦が事前に察知されれば全ては水泡に帰し、失敗に終わる。だが可能性はあくまで可能性に過ぎない。図らずも、シーマだった一人への処遇がこの大掛かりな「星の肩作戦」の成否を握ることとなった……。

ムーブメント

宇宙世紀0083年12月3日

ティターンズ発足

REALITY

史実では……

ジオン軍の残党せん滅組織の設立

デラース・フリートの出現により手痛いダメージを受けた地球連邦軍は、ジオン軍の残党を排除するための組織としてティターンズの発足を認める。

創始者であるジャミトフ・ハイマンは、地球連邦軍の組織としての枠に囚われない指揮系統を持つことで次第に大きな発言力を身につけていった。

そしてティターンズは、地球上主義を全面に押し出し、スペースノイドの弾圧を始めた。そして、0085年7月31日に発生した「30パンチ事件」によって、ティターンズは地球連邦軍内部で絶対的な権力を手に入れる。

当日、サイド1の30パンチコロニーでは、反地球連邦政府を提唱する市民グループによる抗議集会

CONQUEST SIDE BOOK

歴史大書



↑ティターンズは、デラースを始めとするノアの残党を倒すべく組織されるのだ。

が行われていた。この集会の影響で、コロニー内では小規模なデモや暴動が勃発。これらの鎮圧の要請を請けたティターンズは、コロニー内に毒ガスを注入し、数百万人の市民を虐殺したのであった。高敗した地球連邦軍は、この暴挙に対しての追求をすることができず、結果的にティターンズのさらなる台頭を許すことになってしまった。

IFゲームでは……

ジオン編

ジオン軍でプレイしている場合、第1部の勝利条件によってティターンズの出現条件が多少変化する。

ジオン軍が地球連邦軍に完全勝利をしていれば、ネオジオンを滅亡させた直後に、ティターンズが地球連邦軍から独立した組織として登場。

史実では、地球連邦軍が行ったガンダム開発計画をティターンズが実行し、サイサリスをティターンズから奪取するという史実には存在しない展開が待っている。

ジオン軍が一年戦争で勝利するというところで、グリプス戦争における勢力図は史実では考えられない形に塗り替えられるのだ。

また、判定勝利で第2部に突入すると、ティターンズは連邦軍の内部組織として登場。完全勝利時と比べるとより史実に近い形で歴史が進むことになる。

どちらにせよ、ティターンズは、ジオン軍を殲滅する組織として登場し、手強い勢力としてジオン軍の前に立ちちはだかることになるのだ。

連邦編

ジオン軍の残党によるデラース紛争に決着が付くと、ジャミトフ・ハイマンによって、地球連邦軍の内部組織としてティターンズが発足。

その後、ティターンズは、ジャミトフ指揮の元、独自の軍事行動をとり始める。そして、その暴挙に対して、反地球連邦組織エウ・ゴも結成の名乗りをあげ、地球連邦軍はエウ・ゴとティターンズのどちらかと手を組むことになる。

ティターンズの暴挙を良し、ティターンズと手を組むことが可能となり、ティターンズと連邦の連合軍として、アクシズやエウ・ゴと戦うことになる。

ティターンズを連邦軍に吸収した形で歴史を進めれば、ティターンズが独自に開発したMSを実戦に投入することが可能。もちろん、ティターンズのパイロットを連邦軍のパイロット同様、各部隊に配属することもできるようになる。史実とはまったく違ったグリプス戦争を味わうことができるのだ。

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

BOTH ARMIES
ティターンズ結成 (タイターンズ)

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

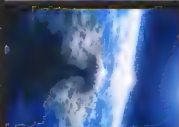
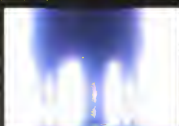
機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム



機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

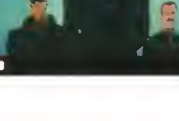
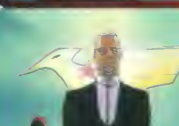
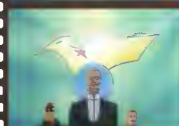
機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム

機動戦士ガンダム



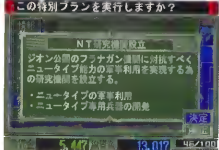
NT研究所の設立

REALITY
史実では……

連邦軍によるNTの研究開始

一年戦争において、MSによる戦闘時に通常の人間を遙かに越える操縦能力を持ったパイロットたちが存在した。彼らは、NTと呼ばれ、戦場において、多大な戦果を挙げている。

一年戦争の最中、NTの存在に



↑ジオン軍において、ニュータイプ研究を進めるフラナガン機関設立の報告を受け、連邦軍でも早期にNT研究所の設立が提案されることになる

ついて軽視していた連邦軍であったが、戦争末期にはそんな特殊能力を持った人間が実在することが判明した。

戦後になり、本格的なNT研究がスタートした。いくつかの研究チームにより、NTは、鋭い直感力と戦場における洞察力、そして機動兵器に対する高い順応性があることが判明。この報告によって、連邦軍では正式なNT研究所を設立し、長期的に支援する方針を固めた。

しかし、ジオン軍から撰取した機材や資料によって始められた研究は、決して順調に進めることはできなかった。早期に、NTと機動兵器のインターフェイスであるサイコミュの再現に成功したものの、NT適合者の不足により研究は別の方向に向かって行くことになる。

IFゲームでは……

ジオン編

ジオン軍のNT研究機関フラナガンの設立によって、ジオン軍は連邦軍に先んじて、NTを戦場に投入することが可能になる。しかし、フラナガン機関の設立の影響によって連邦軍でもNT研究所が設立。すぐに戦場には影響がでないものの、一年戦争の後半には、人工的に作り出されたNTである、強化人間のプロトタイプが戦場に姿を現すことになる。



↑NT研究所の設立の結果、ニュータイプの反応に耐えうるMSとしてガンダムNT-1が開発される。設定では、WB隊のアムロのために作られた機体だ。

連邦編

諜報レベルを上げておくことで、ジオン軍を進められているNTの研究を早い段階で察知することができる。

諜報部からもたらされた情報によって、ジオン軍のフラナガン機関設立を知ることになる。そして連邦軍にその情報が入った直後、史実よりも早い段階で、ニュータイプ研究機関の設立が提案されるのだ。

このプランを実行することで、一年戦争末期には、NT対応のMSガンダムNT-1の開発や強化人間計画の発動が可能になる。この結果、一年戦争の最中というかなり早期の段階で、NT研究の成果が現れるわけだが、戦果として期待できるレベルではない。

この計画は、第2部に向けての準備と考えて実行すべきだろう。

NT研究機関の設立を実行しなれば、連邦軍に強化人間が誕生することはないが、第2部の戦闘に影響がでるのは確実。

NTの研究は、連邦軍のパイロット不足を補うための重要なプランでもあるのだ。

FOTO

宇宙世紀0088年1月25日

ティターンズ出現(シロツコ)

REALITY

史実では……

ティターンズに新たな指導者現る

0087年10月2日。ジオン軍残党であるアクシズが地球圏に帰還する。

その頃、ティターンズとエウゴの戦いは激化しており、両陣営は、第3勢力として戦場に姿を現したアクシズを懐柔すべく、交渉



シロツコは、シャミトフを暗殺しティターンズを掌握する。クリプス戦後に新たな戦いの火種を持ち込んだ。

を開始。クワトロを使者として送ったエウゴだが、アクシズとの交渉は決裂。一方、ティターンズを掌握するシャミトフ本人も、側近であるバブテマス・シロツコを従えアクシズへの交渉へと向かった。しかし、この会見は、新生ティターンズの指導者となるシロツコによって仕組まれた策路により予期せぬ事態へと発展する。

アクシズの指導者ハマーン・カーンとの会見に向かうシャミトフは、同席したシロツコの手によって暗殺され、アクシズとの交渉は決裂。この暗殺をアクシズをハマーンの仕業として公表したシロツコは、シャミトフに変わってティターンズの全権を手中に収めることに成功する。

その後、アクシズが制圧下に置くコロニーレーザーの奪還をめくって3勢力の戦闘は激化し、グリプス戦役は、終幕へ向け動き出すのであった。

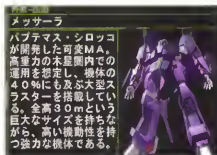
IFゲームでは……

ジオン編

新生ティターンズは、シャミトフが率いるティターンズを倒すことによって戦場に現れる。指導者がシャミトフからシロツコに替わるだけで、パイロットやMSに大きな変化はない。

して挙げれば、シロツコが開発したメッサーラなどのMAやMSが戦場に投入されるため、戦力的に多少強くなったと感じる程度。

この後、アクシズを含めた三つ巴の戦いが、ジオン軍の勝利に向けた戦いとなるのだ。



メッサーラを始めとするTMA（トランスフォーマー）モビルスーツは、変形という特性のため汎用性が高く、少機体数ながら効果的な戦果が期待できる。

連邦編

エウゴを連邦軍に吸収し、戦闘を続け、「ティターンズの出現」から25ターンが経過すると、木星からシロツコが帰還したことが判明する。シロツコの登場によって、ティターンズはシロツコのもとに掌握され、引き続き新生ティターンズとして連邦軍の敵に回ることになる。

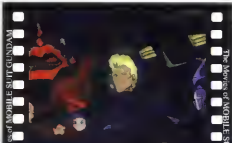
ちなみに、シロツコが帰還してくる前にティターンズを撃破した場合にもシロツコによってティターンズが戦場に復活する。

一方、ティターンズを連邦軍に吸収していた場合は、シロツコの帰還によって、シロツコが設計した新型のMS開発が可能になる。

しかし、エウゴを撃破した時点でシロツコが裏切り、ティターンズのパイロットを率いて新生ティターンズを結成してしまう。

どちらにせよ、シロツコに率いられる新生ティターンズは、連邦軍の敵に回ることになる。

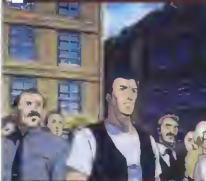
特に、ティターンズを連邦軍に吸収している場合は、パイロットの引き抜きによってつらい戦いを強いられることになるのだ。



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movie of MOBILE SUIT GUNDAM

機動戦士ガンダム 俗人共を地球圏から排除

地球圏

ティターンズの工場にて再生



世界はティターンズ

ティターンズ

地球圏

ティターンズの工場

再生

1995年7月31日

宇宙世紀0085年7月31日

エウーゴ出現

REALITY

史実では……

反地球連邦組織の結成

ティターンズが行った非人道的な行為、「30パンチ事件」をきっかけに、それまで小規模な活動を行ってきた反地球連邦を掲げる人々が活発な行動を始めた。

購収した連邦軍を露正しようとする者、ジオンの再興を望む者、



ティターンズは増長し
ジャミトフは自らの野望のために
地球圏を我がものにしようとしています

↑さまざまな民間組織の発祥によって、エウーゴが設立。ティターンズに対抗していく

情勢の変化を企業利益に変換しようとする者など、様々な意思を持った人々が結束しエウーゴに正式な組織化が始まった。

エウーゴ結成の中心人物ブルックス・フォーラは、政財化につながる強力なコネクションを使い、ティターンズに対抗しうる人物を連邦軍内外から募った。

クワトロ・バジナによるガンダリウムY合金の提供によるアナハイム・エレクトロニクスとの協力体制の確立、独自開発のMSの開発などにより、ティターンズに対抗しうる組織として体制を強化。

こうしてエウーゴは、連邦の体制の崩壊、ティターンズの台頭の阻止を目的として、本格的な行動を始めるのであった。

そして、0087年3月2日、ティターンズが独自に開発していた試作MSをエウーゴが奪取したことによる、ティターンズとの対立は決定的なものとなった。

IFゲームでは……

ジオン編

ティターンズの出現とほぼ同じ時期に、新たな敵勢力としてエウーゴが出現する。

エウーゴは、スペースノイド弾圧を目的とするティターンズに対抗する組織として結成されるのだが、連邦軍から分裂した組織としてジオン軍の敵に回る。

しかし、同じ目的を持つ勢力として、一時的な協力体制を組むことが可能。協力することで、MS開発技術を手に入れることができるのだ。



レビル将軍 連邦軍に
「ガンダリウムY」を提供します
この金属を装甲材として

↑クワトロによってガンダリウム合金が連邦軍にもたらされる。これで、次期主力MS開発可能になる

連邦編

エウーゴは、デラズ紛争直後、ティターンズの結成と同時期に戦場に現れる。

しかし、ティターンズの台頭の阻止を目的とするエウーゴから、協力体制を望む通信が入る。これに応じることで、エウーゴを連邦軍の内部組織に取り込み、ティターンズと敵対するという歴史を歩むことになる。

エウーゴと協力体制をとることで、WB隊として一年戦争で活躍したパイロットたちが戦場に復帰。ティターンズの分裂によるパイロット不足によって苦戦を強いられていた連邦軍の戦力の回復に貢献してくれるのだ。

また、後にエウーゴに参加するパイロットたちも連邦軍に参入してくるので、アクシズとティターンズを敵に回した形で発展するグリプス戦争で、大きな戦果が期待できる。

エウーゴと協力することで、ティターンズを連邦軍に吸収してグリプス戦争に突入するよりも、より史実に近い形で、歴史が進行することになる。

しかがこの美しい地球を

守る

地球の平和を

守る

地球

ゴとなって戦う理山なので



THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM



BOTH ARMIES
エゥーゴ結成



THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

人類は地球を築き立てた。そして、

1-JWOTN

宇宙世紀0087年3月7日

ティターンズ潜入作戦

REALITY

史実では……

エウゴによるガンダム機作戦

サイド7に作られたスペースコロニーグリプスを偵察していたクワトロ・バジーナは、ティターンズが開発したガンダムMk-IIのテスト運用に遭遇する。

グリプスがティターンズの本拠地であることを確認したクワトロは、リック・ディアスでコロニーに進入。ティターンズのパイロット、ジェリド・メサが操縦するガンダムMk-IIの墜落というアクシデントを利用してガンダム機の強奪を決定。

この時、ティターンズに尋問されていたカミーユ・ビダンの協力によって、エウゴはガンダムMk-IIの強奪に成功する。

その後、ティターンズは、カミーユの母を人質にとってガンダムMk-IIの引き渡しを要求。この



↑クワトロによって提案される潜入作戦。この作戦によって、新たなガンダムが手に入るのだ

IF ゲームでは……

連邦編

連邦軍がエウゴを吸収すると、クワトロからティターンズ進入計画が提案される。

元エウゴのメンバーによって、ティターンズ潜入作戦が実行され、ガンダムMk-IIの奪取に成功する。この作戦の成功によって、カミーユ、エマ、そしてカミーユと行動を共にしていたファ・ユイリイが連邦軍のパイロットとして配属が可能になる。

さらに、クワトロがもたらしたガンダリウム合金とティターンズの技術で完成したガンダムMk-IIが手に入ったことで新型MSの開発の準備が整う。

もちろん、クワトロから提案される作戦を拒否することも可能。しかし、この計画を実行しなければ、以後のMS開発に大きな影響がでるのは確実である。

一方、ティターンズを吸収した場合は、エウゴによりガンダムMk-IIが強奪され、さらにティターンズに所属していたエマがエウゴに寝返ってしまうという、エウゴとはまったく逆のイベン



↑ガンダムMk-IIの入手と同時にカミーユが連邦軍に登場。NT能力が高く、戦果が期待できる



↑ティターンズから強奪したガンダムMk-II以後、連邦軍のMSとして運用が可能だ。

トが発生することになる。

ムービー・オブ・ザ・フューチャー

宇宙世紀0087年3月

Z計画

REALITY

史実では……

次世代の可変MS誕生

エウーゴにとって、ティターンズとの戦いにおける重要な問題は、歴然とした戦力の差であった。ガンダリウム合金を使用したリック・ディアスの完成後、エウーゴは次世代の高性能MSの開発計画を発動する。そのプロジェクトが「Z（ゼータ）計画」であった。

Z計画で開発が進められたMSは、従来のMSを超える汎用性と機動性を持つものが要求された。そして、0087年3月、グリプスから奪取に成功したガンダムMK-IIに採用されていたムーバブル・フレームの技術を用い、カミーユ・ビダンが提案した可変MSのプロトタイプをもとに次世代の可変MSが誕生した。

それが、Zガンダムである。Zガンダムは、MSモードからウェ

ープライダーモードにトランスフォームすることで、宇宙空間から大気圏内までの連続運用が可能な機体であり、抜群の汎用性能、さらには破格の運動性能と戦闘能力までも持ちあわせていたのだ。

Zガンダムの開発に成功したことによって、エウーゴはティターンズと対等に戦う戦力を手に入れたのであった。



従来のモビルスーツを
遙かに凌ぐ機体の開発が可能です
「Z計画」を提案します

↑エウーゴの機体によって、地球連邦軍のみでは開発が不可能であった可変MSを生産することができた

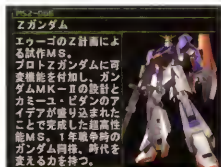
IFゲームでは……

IF 連邦編

エウーゴを吸収した連邦軍は、クワトロによってもたらされたガンダリウム合金とティターンズから奪取したガンダムMK-IIによって、Z計画を発動することが可能になる。

Z計画を発動することによって、エウーゴ独自のMSであるリック・ディアスに続くMSの開発に着手することになる。Z計画を発動することで開発可能になるMSは2種類。可変MSのプロトタイプとなった百式と次世代の可変MS Zガンダム。Zガンダムの開発が成功することで、連邦軍の戦力はかなり増強されるはずである。

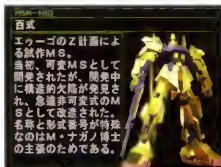
もちろん、Z計画を発動しなくとも戦闘を続けることは可能だが、世代交代によりどんどん進化していく敵勢力のMSに対して、苦戦を強いられるのは事実。そういった意味からも、次世代型の可変MSの開発は急務であり、Z計画は、連邦軍が地球圏を取り戻す歴史には必要不可欠なMS開発プランなのだ。



Zガンダム

エウーゴのZ計画による試作MS。プロトZガンダムに可変機能を付加し、ガンダムMK-IIの設計とカミーユ・ビダンのアイデアが盛り込まれたことで完成した超高性能MS。1年戦争時のガンダム同様、時代を変える力を持つ。

↑Z計画の発動によって完成した汎用性の高い可変MS・Zガンダム。



百式

エウーゴのZ計画による試作MS。当初、可変MSとして開発されたが、開発中に構造上の欠陥が発見され、急遽非可変式のMSとして改造された。名称と形式番号が特殊なのはM・ナガノ博士の主張のためである。

↑Z計画の試作型として生産された百式。史実ではクワトロの専用機として運用された。

1999年

宇宙世紀0079年

ネオ・ジオン出現

REALITY

史実では……

逆襲のシャア

シャア・アズナブルことキャスバル・レム・ダイクンが「ネオジオン」総帥を名乗り、地球圏に運ってきたのは宇宙世紀0093年のことであった。一年戦争終結から13年を経たその時代に至っても、連邦政府はなおも地球圏からスペースノイドを支配し、搾取し続け、地球環境すらも蝕んでいた。そんな「地球の重力を魂を引かれた人々」に対し、ネオジオン総帥シャアは「隕石落とし作戦」で肅清を加える。彼の最後の狙いは、地球をアクシズ落下による核の冬で人の住めない星にしてしまい、地球至上主義の拠り所そのものを消し去ることだった。アムロ・レイ大尉の所属する連邦軍の独立遊撃隊ロンド・ベルは、その狂気の作戦を阻止すべく立ち向かった。

IF

ゲームでは……

ジオン編

ジオン独立戦争とは、地球の専横によって虐げられてきたスペースノイドのための政治を勝ち取るための、理想国家樹立のための聖戦であるとギレン総帥はたびたび説いてきた。しかしそんな美名でいくら飾ろうとも、ジオン公国が独裁国家であることは何ら変わらず、この戦争はザビ家の、更に言えばギレン個人の私利私欲のために起こされたものであり、その理



創作者 キャスバル・ダイクン

想も国家を私物化して都合よく利用するための方便に過ぎない。国を簞簞され自らも暗殺された、ザビ家の私利私欲の最初の犠牲者ジオン共和国独立の父、ダイクンの息子キャスバルはそう指摘し、ギレンのこれ以上の専横を許さず、月のグラナダを本拠に「ネオジオン」を興して立ち上がった。身を隠しシャア・アズナブルとして公国軍に潜入し反抗の機会を狙っていた彼は、真のジオンの後継者として遂に仮面を脱ぎ捨てたのだ。父の説いた、宇宙に進出した人類の革新たるNT。戦時に現れたそんなスペースノイドのささやかな希望をも、その能力を戦争の道具として利用しようとするギレンや連邦に対し、彼は両軍のNTを結集、NTのための国家樹立のためにオールタイプ達に宣戦を布告する。



キャスバル専用 リック・ドム

連邦編

連邦軍屈指のNT部隊として敵味方にその名を轟かせていたWB隊。だがその実、連邦軍内での彼等の扱いは、主力部隊からジオン軍の目を逸らせるための陽動を旨とするおとり部隊であり、新兵器のモルモットであった。軍に便利な道具としてしか扱われずWB隊。名実ともに連邦最強のNTだったアムロと、歴戦のパイロットのハヤトを不幸な行き違いから失った彼等が、人の革新たるNTの理想を語ったシャアのネオジオンへ参画してしまったのも、無理からぬことがも知れない。連邦軍最強のNT部隊は最大の敵となり、NTの象徴のつもりか、ネオジオンはキャスバル専用の赤いガンダムの開発にすら着手する。



キャスバル専用 ガンダム



スノイドの真の自立を

設定するものである



BOTH ARMIES
ネオジオン編
MOVIES

宇宙に仕込む。全ての...に置かれて...。戦は...スバルダイクン！

1999年

宇宙世紀0079年1月3日

正統ジオン出現

IFゲームでは……

連邦編

キシリアからの要請や提案をことごとく却下しつつ、ガルマが死亡している状態で、第一部を「判定勝利」または「判定敗北」で終

えると、キシリアがグラナダにおいて正統ジオンを結成、ジオン公国に対して宣戦を布告する。

彼女がギレンに対して反旗を翻したのは、ギレンのやり方についていけないという理由を掲げているが、元々キシリアはジオン公国の指導者となるべく、マ・クベな

どを使って画策を施していた。デキン公王やガルマの死など、あくまできっかけにすぎず、キシリアの離反はなるべくしてなったものと考えられる。

内なる野望を秘めたキシリアと共にジオン公国を離反するのは、キシリアの懐刀であるマ・クベ、NT部隊を率いる赤い彗星シャア・アズナブル、紅い稲妻ジョニー・ライデン、黒い3連星、サイクロプス隊などである。特にシャアのNT部隊は、キシリアがフナガン機関の設立など、NT研究に熱心だったことが手伝って、ジ

オン公国に所属していたNTをすべて引き連れている。

優秀な人材を抱える正統ジオンは脅威となる存在であることは間違いない、ギレンのジオン公国が苦戦を強いられるのは必至である。

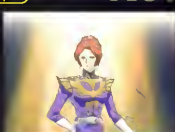


キシリア・ザビ

PRINCIRALITY OF ZEON

ジオン版 正統ジオン編

MOVIES



1999年1月3日

宇宙世紀0079年1月3日

新生ジオン出現

IF
ゲームでは……

ジオン編

ドズルの意見やガルマの申請をことごとく無視しつつ、ガルマが存命している状態で、第1部を「判定勝利」または「判定敗北」で

終えると、第2部でガルマがニユーヤークを本拠地とし、新生ジオンを結成する。さらに、ザビ家の次兄であるドズル・ザビがガルマを支援するため、ドズルが指揮権を持つソロモン要塞も新生ジオンに組み入る形になっている。ガルマ自身はさほど優秀な部下

に恵まれていないが、ドズルが新生ジオンへと参加するため、彼の指揮する宇宙攻撃軍パイロットたちがその中核を成す。NTこそいないが、白狼シン・マツナガ、青い巨星ランバ・ラルとその配下のメンバーたち、さらにはドズル自身が猛将として謳われる將軍であることから、人材においては申し分ないほど充実している。

また人材だけでなく、戦力としてはビッグ・ザムを強化した「ビク・ザム（ザビ家仕様）」を開発している。

長期化する戦争を憂い、ザビ家



ガルマ・ザビ

の人間としてその責任を感じたガルマは、愛するジオン国民のために新生ジオンを設立させた。

新生ジオンはジオン公国だけでなく地球連邦にとっても十分注意しなくてはならない勢力である。



未来のジオンに！

ムーヴメント

宇宙世紀0079年

アクシズ出現

REALITY

史実では……

ジオンの亡霊

一年戦争でジオン公国を支配していたザビ家は滅び、残された縁者もドズルがソロモンの陥落直前に脱出させた妻ゼナと愛娘ミネバをだけであった。旧ジオン公国軍の残存勢力の一派は、戦後小惑星帯の拠点「アクシズ」に落ちのび、ゼナの死後唯一残されたザビ家の血統である弱冠9歳のミネバを女帝に擁立。NTである摂政ハマーン・カーンの指導のもと戦力を整え、復活の機を窺っていた。宇宙世紀0087年、ティターンズとエウーゴの抗争から生じた混乱に乗じ勢力を確立せんとアクシズ軍は地球圏に帰還。これにより戦いは三つ巴の様相を呈することとなる。その後アクシズ軍は「ネオ・ジオン」を名乗り、抗争で弱体化した地球圏征伐に乗り出す。

IFゲームでは……

★ジオン編

小惑星帯アクシズ基地に潜伏し陣を構えていたジオン勢力は、本国のそれよりも遥かに高い技術体系を誇っていた。アクシズは可変MSガザC、ニュータイプ用MSキュベレイ、MAノイエ・ジール、装甲材質ガンダリウムYなどの開発に続々と成功。アクシズからその高度な軍事技術が送られたことは、ジオン公国にとって大きな助けとなっていた。



創設者 ハマーン・カーン

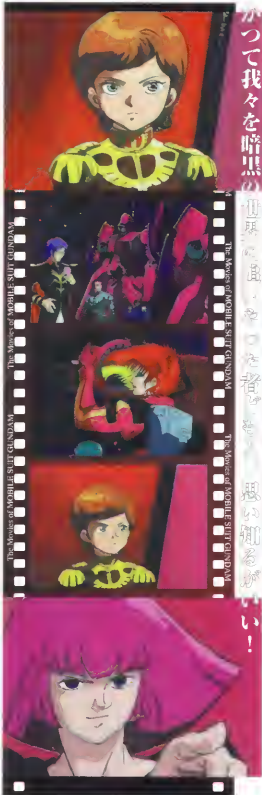


AMX-004 キュベレイ

だが、ふたつの敵勢力を撃滅することに成功したジオン公国軍に対し、アクシズは突然牙を剥いた。父であるマハラジャ・カーンに代わりアクシズを統率したハマーン。彼女はあろうことがドズルの遺児であるミネバをザビ家の正当な後継者として擁し、自ら摂政の座に収まったハマーンのアクシズ軍は、連邦軍とジオン公国に対して宣戦を布告してきた。かつてのジオンの最大の味方は最大の敵へと転じたのである。この反抗はミネバを傀儡として利用したハマーンの独断であることは明白であったが、あれほど頼もしくあった高度な軍事技術体系と、マシユマー、キャラ、ユリイ等の配下の強化人間パイロットを持つアクシズが敵に回ることは、ジオン公国にとっても大きな脅威となってしまうことは、疑いようがなかった。

★連邦編

ジオンの名を継ぐ者は後を絶たないのか？ ジオン公国軍を壊滅させ、次いで現れた残党デラーズフリート軍をも撃破させた連邦軍はここに至りザビ家の名と意志を継ぐ更なる新たな敵を迎えることとなる。宇宙要塞アクシズを本拠とし、ドズルの遺児ミネバを擁した摂政ハマーン率いる軍勢が小惑星帯から地球圏へと進出、スペースノイドによる地球圏制覇と、彼等を小惑星帯に追いやった連邦軍への復讐を掲げ、宣戦を布告してきたのである。アクシズ軍は宇宙のアクシズ基地周辺宙域と地上の東ヨーロッパに部隊を展開し、侵襲作戦を開始してきた。アクシズ軍は数多くの強力な強化人間のエースパイロットを配下とし、首魁のハマーン自らも強力なNTであった。独自の技術体系による可変MSや旧ジオンのものをはるかに超える強力なNT用MS、新素材の装甲材質など的高度な軍事技術を潜伏中に蓄積させており、連邦軍にとって大きな脅威となることは明白だった。



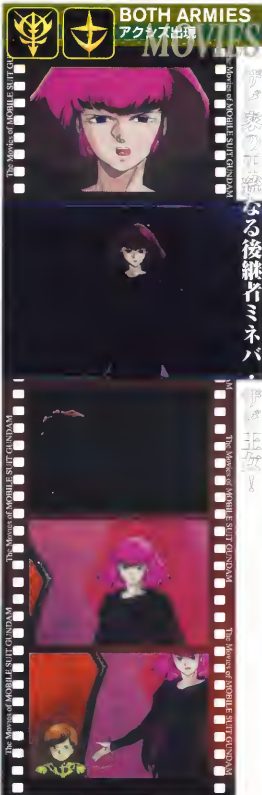
かつて我々を暗黒の
世界に陥れ、愛した者を
思い知るがいい！

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

BOTH ARMIES
アクシズ出現
MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

アムロ・レイの正統なる後継者ミネバ・カーク・ラミアス！

1970年

宇宙世紀0080年2月14日

ジオン勝利

IFゲームでは……

公国の栄光、永遠に

ジオン公国軍は勝利を取めた。本当に長かったこの戦いの歴史に、今完全に終止符が打たれ、血で血を洗う戦乱の歴史はひとまず幕を

下ろす。ジオン公国軍は地球と宇宙のすべての敵対勢力を一掃すること成功し、ギレン総帥は遂に、人類史上誰も成し得なかった地球圏完全制覇を成し遂げたのである。地球圏はギレンの統治のもと、新たな時代を踏み出す。地球市民の強制退去、反対勢力の粛清がすみ

やかに行われ、かねてよりギレンの提唱していた優良人種のみによる地球圏の管理という支配計画は実行に移される。乱世においての非情な独裁者は、治世においての政治手腕を発揮し、戦乱を未然に防ぎ、地球環境の回復をも成し遂げた。地球と人類はジオン公国の支配のもと、結果的に破滅の道から救われたのである。こうして地球圏にはひとまずの平和がもたらされ、今、一つの歴史は幕を閉じる。ジオン公国による地球圏の支配、この結末も歴史の一つの選択肢に過ぎない。人類は新たな平和

への道を掴むため、再び戦乱の歴史を迎えるかも知れないのである。



↑完全制覇を成し遂げた地球圏にジオン公国国旗がはたらく。建国以来の悲願を果たしたジオン公国の栄光の歴史は永遠に語り継がれることだろう。ジーク・ジオン!

PRINCIPALITY OF ZEON
終りなき野望

MOVIES

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

は、戦いに勝利した

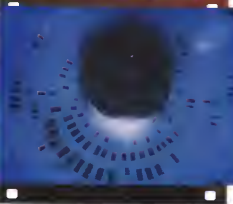
M

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

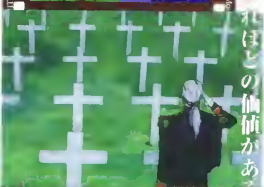
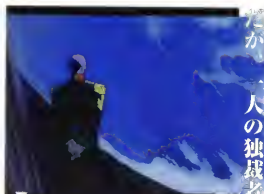
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



人を本当に愛するものは、それは

の心に



だが、人の独裁者によって作られた平和に、それはどの価値があるのか

1-JW070

宇宙世紀0083年10月

連邦勝利

IFゲームでは……

デラースの出現からグリプス戦役まで

第2部では、一年戦争で生き残ったレビル将軍が、地球連邦軍を率いてグリプス戦争の終結まで戦闘を続けることになる。

レビル将軍が生きていることで、歴史には若干の違いがあるものの、0083年のデラース紛争や0087年のティターンズの台頭から始まり、アクシズが戦闘に介入するグリプス戦役、さらにゲームオリジナルの新勢力と戦闘を繰り広げる。

第2部の流れ(完全勝利)

第1部で完全勝利を収めると、連邦軍はデラース・フリートとアクシズを相手に戦闘を再開する。その後、ティターンズとエウーゴの出現、シャアの率いるネオ・ジオンとの戦いなど、史実にはない戦い待っている。「ギレンの野望」を楽しむなら、完全勝利で第2部をスタートすることが望ましい。

第2部の流れ(判定勝利)

第1部で判定勝利を収めると、第2部では、引き続き敗北によって

弱体化したジオン軍との戦闘から始まる。

その後、ティターンズやエウーゴ、アクシズなどが順次出現し、戦局はグリプス戦役に入ります。

第2部の流れ(判定敗北)

第1部で判定敗北をしてしまうと、弱体化した状況で第2部に突入。力を失った地球連邦軍に反旗を翻すティターンズ、勝利によって力を得たジオン軍との三つ巴で戦闘が始まる。その後、エウーゴやアクシズが出現、ほかの勝利条件と同様に戦闘が展開される。

PRINCIPALITY OF ZEON
平和への誓い

MOVIES



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

すべての敵勢力は消滅し、戦闘と陰謀の歴史は幕を閉じる。



M The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

この戦争で人の革新を

アが出現

人類にひとつの



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

この時代も

人はあらゆる環境に順応進化を遂げる。



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

1-JULY 050

宇宙世紀0079年1月31日

レビル將軍演説

REALITY

史実では……
ジオンに兵なし!

官僚的な参謀本部が実権を握る連邦軍の組織内では、レビル將軍の立場もその実そう強いものではなかった。しかし、名采配で連邦

軍に数々の勝利をもたらしたレビルへの現場の將兵からの信頼は絶大なものがあり、あまりにも有名な「ジオンに兵無し」の演説は南極条約の内容を覆しただけでなく、戦争初期の大敗の絶望に打ちひしがれていた兵士たちをどれほど勇気づけたかは計り知れない。

IF
ゲームでは……

連邦編

ミノフスキー粒子の発見により近接戦闘が主となった宇宙世紀の戦争においては、戦闘における兵士個々人の役割はより重要になったといえるだろう。連邦軍が兵器の性能で大差をつけられている序盤はもちろん、高性能な兵器を開発した後半に至っても、それを扱う部隊の士気が戦闘の結果に与える影響は無視できない。連邦軍に全部隊に向けたレビル將軍の士気

鼓舞演説は、地上・宇宙の別なく全部隊の士気を15上げる影響力を持つ。但し、この演説は地球圏規模での同時中継で行われるため、相応の予算が掛かってしまうので使い処には考慮されたい。

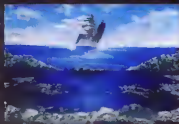


レビル將軍

EARTH FEDERATION SPACE FORCE

レビル演説

MOVIES



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

敵に倒されし兵士

戦う者あり

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

1-JULY 0079

宇宙世紀0079年10月6日

ギレン演説

REALITY

史実では……

ジーク・ジオン！

史実におけるギレンの土気鼓舞演説は、ガルマの葬儀の際とア・バオア・クー決戦直前に行われたものが記録されている。軍事独裁

国家であるジオン公国においては、ギレン総帥の言葉は国民に対して絶対であった。例えば実父デギンに「ヒトラーの尻尾」と揶揄されようが、人心掌握に長けた彼のカリスマ性は「ジーク・ジオン」の言葉に無条件に反応してしまふ者の多さが雄弁に物語っている。

IF
ゲームでは……

ジオン

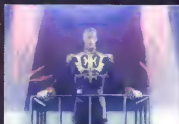
ジオン軍の生み出したMSの戦闘といえば、なんといっても近接格闘戦が命である。土気の高低は格闘戦の回数にもおよび、一度の戦闘での相手に与えられるダメージはかなり変わってくる。国力に乏しいジオン公国がいかに戦いに勝つかの秘訣は、人材とその土気をいかに最大限に利用できるかにもある。独裁者としてギレンの言動を否定する者もいるが、彼の演

説には厭戦気分を晴らし戦意高揚につながる即効性と絶大な効果があったことまでは否定できない。但し、慢性的な資金不足に陥りがちなジオン軍が、演説を行うには連邦軍以上の慎重さが必要である。



ギレン・ザビ

PRINCIRALITY OF ZEON ギレン演説 MOVIES



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



ムービーNO2

ジオン版オープニング

CGオープニング

ジオン版のディスクでゲームを起動すると、CGによるムービーを堪能することができる。

連邦軍本部ジャブローからベガサス級が出航のところを、ジオンの3機のMSが襲撃。3機の内、2機はドムタイプ。残る1機は核弾頭を装備したまま連邦から奪取されたガンダム試作

2号機であることが判明する。連邦は総力をもってこれを防戦するが、次々と撃破されていく。しかし、そこに精鋭部隊ティターンズが作り上げたプロトタイプガンダムMk-IIが出現。Mk-IIはドムを一瞬で撃破して、ガンダム試作2号機の元へと飛びたつ。だが、今まさに核弾頭は発射される寸前であった。

PRINCIRALITY OF ZEON

ジオン急襲

MOVIES



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

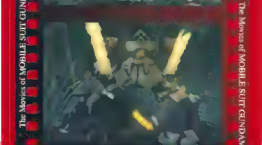
The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



THE MOVIES OF MOBILE SUIT GUNDAM

連邦版オープニング

アニメーションオープニング

連邦版のディスクでは、劇場版「機動戦士ガンダムⅡ 哀・戦士編」の挿入歌である「哀戦士」とともに、サンライズ描き起こしの新作アニメーションが流れる。その内容は、TVアニメなどのオープニングを意識した作りとなっている。

アムロのガンダム、クリスのアレ

ックス、コウのフルバーニアンと、ガンダム系MSが次々と宇宙を駆け、夕日をバックに黒い3連星のドムが戦場を疾駆する。そして、シャア、ジョニー・ライデン、シン・マツナガと、それぞれの変機が同時に現れる。この他にも各種MSやMA、キャクターたちが続々と登場し、最後にティターンズカラーのガンダムMK-IIが出現する。



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM

The Movies of MOBILE SUIT GUNDAM



COLUMN

英雄たちの会話

『ジオンの系譜』において魅力のひとつとも言える、特定のキャラ同士の会話シーン。この会話シーンは味方同士ならば隣接させるかスタックすることで、敵ならば戦闘を行うことによって発生する。本作は二部構成となっているため、同じキャラ同士の会話でも二部になると変化する者がいる。また、一部では同じ陣営に所属していたキャラが、二部では異なる陣営に組していることもある。これによって会話のパターンは前作より格段に増えているのだ。



↑悪い三連星の三人の会話は 一部と二部では異なる内容になっている



アムロ・レイVSアナベル・ガトー

アムロ 「すごいプレッシャーだ！ シャアか？ 違う！ だが 強い！」
アナベル 「連邦の白い悪魔め！ 貴様に敗れ志半ばで敗っていった…幾百の英霊たちのために… 死を以って 償って貰う！」



ジョニー・ライデンVSシン・マツナガ

ライデン 「なあ、あんた白狼だろ？ 噂は聞いてるぜ お互い有名になっちゃって困ったもんだな」
マツナガ 「お互い？ 貴君の事など知らんが…」
ライデン 「冗談はよしてくれ 今どき俺を知らないなんて なあ赤い妻帯といえはわかるだろう？」
シン 「知らんな 赤い髭星の間違いじゃないのか？」
ライデン 「はあ… わかった あらためて自己紹介しよう 俺はジョニー・ライデン！ ちょっとは名の知れたパイロットなんだぜ！」
シン 「シン・マツナガだ よろしく頼む！」



サウス・バニングVSベルナルド・モンシア

バニング 「俺は悲しいぞモンシア！ 俺達が戦場で見てきた事実是一体何だったんだ？」
モンシア 「じ、自分は間違っているとは思いません！ 敵のやり方は許せません！」
バニング 「そうか 残念だ だがここは戦場だ！ 貴様が立ちふさがるといふのなら俺も戦わなければならん！」



アムロ・レイVSクワトロ・バジーナ

アムロ 「何故 地球圏に戻ってきたのです？」
クワトロ 「キミを笑いに来た… そう言えば君の気が済むのだろうか？」
アムロ 「好きでこうなった訳ではない！ あなたにだって解るはずだ！」
クワトロ 「しかし 同情が欲しい訳でもないならばかつてのアムロ・レイであって欲しい それか私に言える最大の言葉だ」

SECRET MESSAGE

隠しメッセージ

バンダイのガンダムゲームの特徴ともなっている2ndトラック。この隠しメッセージの聞き方は、まずゲームディスクを入れずにPSを起動させ、メインメニューでCDプレイヤーを選択。その後、ゲームディスクを入れて②を再生。すると、ガンダムに登場するキャラが警告メッセージを語り始める。



↑この画面でゲームディスクをPSに挿入し、2ndトラックを再生するだけでOK。

人物史



MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

我が星の民よ
立ち上がるのは今だ

スペースノイドの独歩を標榜したサイド3の政府高官だったが、その政権がデギン・ソンド・ザビを長とするザビ家に委ねられたのち、いささか情勢に変化が見られるようになる。

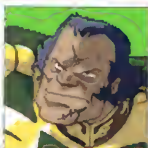
時に宇宙世紀0079、ザビ家はサイド3をそれまでの共和国から公国へと改組。これに付随してサイド3は地球連邦との開戦という強行策を敢行する。しかしこの年におけるザビ家の政略で、実質的な采配を握ったのはデギンにあらず、その嫡男ギレン・ザビだった。

元より選民的体質を帯びた同家であったが、ギレンはその傾向が特に著しく、何よりもそれを強く示したのが著書「優性人類生存説」である。一部のエリート



ギレン・ザビ

ンオン公国総帥。IQ240の天才だが、独裁欲に熱える。後に連邦から技術を接収することで「V作戦」MSなども手の中に。(第1作)



ドスル・ザビ

宇宙攻撃隊の司令でサイド次男。同家一門のなかでは特に人問味が濃い。ギレンとの対決時に吐露される台詞がそれを物語る。(第1作)

にこそ未来の居住権を得るものとする本書の歪んだ思想は、現ジオン勢の兵士たちの優越感を強く鼓舞。しかしその傍らで、公国内にすら反対分子が派生しはじめていたのも見逃せない事実である。

選民意識の如美なギレンのこと政党政治体制を認める者がなく、彼は政敵になる危険性のある者なら例え親族でも排斥したが、一方でテラースらギレン自身への忠義に尽くす将卒には仁厚ある待遇を処す一面もまた見られたことも付記しておきたい。

このような兄と逆に、むしろドスルは肉親や部下全般への信義がザビ家でも傑出。弟ガルマが新生ジオンを興した際は、その後見を務めるという度量の広さも披露している。身内への情を重んじたドスルだけに、ザビ家兄弟のなかでも唯一の妻帯者となつて、愛娘ミネバを一族の血脈に残すことを成就させたのであろう。



アポリー

一年戦争時代には先鋒であったが、後軍に入りシャアと行動をともにしていつかが死す。コロニーの母艦を動かす。(第2)



アパル・ガト

一年戦争時はテラースと行動を共にした。主君への大義を尽くす自分こそ正義があると信じて。ガンダム2の機体開発を遂行。(第3)



アナベル・ガト

「バシム」の乗組員として、高名なエース軍人。大戦時は宇宙軍を離れ、南緯のクルグで暮らす。連邦を脱走させたことと記憶に残る。(第3)



アコルス

クルグの領主。史実を参照して、ラルズへMS開発を依頼されたと共に、南緯のクルグに勝利し、一同の革命構想が計られる。(第1作)



アカハナ

シャア指揮の元、シャアフロアに入社した優秀な兵士。ネオ・ジオン誕生の機には、彼も参戦する可能性がある。(第1作)



アイナ・サハリン

兄アサムの専断とアサラスのテロ攻撃士となるが、ギレンの意向如何ではシオンの正規兵士として登録されること。(第3)



ガブリエル・ラミレス

ルビオン討伐のため特選されたサイクロプス隊のメンバー。過剰な作戦計画を要するならば、全員が戦死の特選メンバー。(第0)



ガテム

機体開発の天才。シャアの機体、連邦にラルと親交性が高い。保護される正義の中には、存続も囁かれている。(第1作)



ガイ

チーム「真」のメンバー。ワンダーで対戦。古事の高士でありながら、ニュータイプの存在を否定する先覚でもあった。(第1作)



オルテガ

真・三連星。コロニー人。特別任務の旧ササキクル1を率いて下駄に乗り組んだ戦役を待つ。(第1作)



エルラン

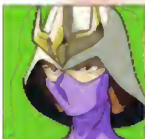
連邦の中核が失はれ、シャアに忠告。彼の行動をレベラが暴走する。マクベの結とサイルン機体、ジオンへ運送する。(第1作)



ウィッシュ・ドナヒュー

1対1の対戦。これは、地球連邦の目的を遂行。地球防衛隊の司令官、M.A.ライオンズの総司令官として選ばれる。(第2)

ジオン 正統ジオン



キシリア・ザビ (ジオン)

一族の長女にして突撃機動軍司令官のスペースノイドたるザビ家の人間はニュータイプの研究を進めた先見性を持つ彼女である。(第1作)

彼女の懐刀ともいえるマ・クベが核兵器を用いた事案により弾劾を受けた件や、ルウム戦役の武功にも関わらず「黒い三連星」の対WB戦への投入案を跳ね

ちとして例外でなかった。彼女の懐刀ともいえるマ・クベが核兵器を用いた事案により弾劾を受けた件や、ルウム戦役の武功にも関わらず「黒い三連星」の対WB戦への投入案を跳ね

同公国の思想にも一脈通じよう。かようにジオン軍では相応の権威を許諾されたキシリアであるが、実質的に同軍は長男のギレンに指揮体制が掌握されているのが現状だった。一部の党首に政権が牛耳られている陰で、反対勢力の萌芽が息吹くのは古来からの慣しである。それはキシリアとその官僚トワニングたちとして例外でなかった。

**公国に巣喰う脅威
軍事者のギレンを断罪せよ**

キシリア・ザビは一年戦争史において類稀な高官クラスの子爵であった。往時の連邦勢を鑑みた際、大將格にウエーブの士官が無比だったことにに対し、性の格差の無いリベラルなジオン軍の姿勢は、宇宙移民者の自由乃至、自治権を唱える同公国の思想にも一脈通じよう。



キシリア・ザビ (正統ジオン)

ギレン 連邦に亡命宣言。なお、ニュータイプに積極的な彼女も連邦の技術者を招き、サイコガンダムなどのデータを得ている。(オ)

結果論にせよ、ギレンが対V作戦用に「黒い三連星」を差し向けなかった一件が、ガイアたちを存命させることとなり、やがてはギレンに牙を剥くまでに至ったのは極めて皮肉な事例である。

その地点はサイド3に隣接する月面軍事拠点グラナダ。戦力的にもギレン側の大隊に遅れをとらず、マリオンらキシリアにより提唱された人エントやさらに「黒い三連星」の参入は、彼女にとって心強いものだったに違いない。

退けられる事例を数えるなら、キシリア側がギレンに受けた苦味は察して余りあるといえまいか。これらの要因が粗密になり、加えてギレンによる拘束を逃れた彼女の挙動は事実を離れ、やがて決起するまでに至る。それが彼女自身による新たな秩序「正統ジオン」の誕生であった。弟のガルマの死すら戦意高揚に用い、さらには父デギンまでも手にかけられるギレンの計略は、キシリアに大義名分を与える暴政でしかなかった。

その地点はサイド3に隣接する月面軍事拠点グラナダ。戦力的にもギレン側の大隊に遅れをとらず、マリオンらキシリアにより提唱された人エントやさらに「黒い三連星」の参入は、彼女にとって心強いものだったに違いない。



強化人間-003

ゼロと同時生誕した強化人間。レイラがゼロと連携し戦ったことで誕生する。活動のバリエーションがある。(オ)



強化人間-002

強化ニュータイプ。強化人間として誕生した少女。ギレンの計画に賛同し、戦術能力が劣る。精神的には不安定。連立連星の実験体も可能だった。(オ)



強化人間-001 (レイラ)

ジオンの強化ニュータイプとして誕生した少女。ギレンの計画に賛同し、戦術能力が劣る。精神的には不安定。連立連星の実験体も可能だった。(オ)



キャラ・ズーン

バニー・ザビの元へ連れてきたアムロ・レイの兵士。その戦闘能力の高さは、戦術能力が劣る。精神的には不安定。連立連星の実験体も可能だった。(オ)



ギニアス・サハリン

高層の出身。優れた軍事技術者である。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



カリウス

カトーに過剰する子爵。一年戦争時に302機隊で戦った。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



グレミー・トット

母体でギレンの元へ。またアムロの元へ。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



クランプ

高層の出身。優れた軍事技術者である。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



クラウレ・ハモン

高層の出身。優れた軍事技術者である。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



クスコ・アル

高層の出身。優れた軍事技術者である。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



ククルス・ドアン

高層の出身。優れた軍事技術者である。実業では自身の資金によるM.A.アサラムに出資したもの。伝説される。(オ)



強化人間-004

強化ニュータイプ。強化人間として誕生した少女。ギレンの計画に賛同し、戦術能力が劣る。精神的には不安定。連立連星の実験体も可能だった。(オ)

ジオン 新生ジオン

秀美な容姿に鉄の意志
怒らしき戦いに終わりを

木馬ことWB隊の討伐に参加したジオン地上軍のガルマ・ザビ。

公の形で認知される史実で彼は、ニユーヤーク市街戦で死亡したものとある。この交戦記録ではWB艦に打破されたという記載があるが、如何なる内幕がはらんでいたのかまでは余人の知るころではない。しかし他方で伝聞される戦史は、ガルマの無二の親友であるシャア少佐がWB隊との戦闘により行方不明となったことで発露、敵艦の追撃に臨むガルマの姿も確認されている。これを端緒に一年戦争異聞はさらなる深化を遂げてゆく。正史において「ガルマ仇討ち部隊」なる名目で駆り出されたランバ・ガル隊であるが、この一方の逸話にはガルマの代行として出陣を試案されるエピソードも認められた。ガルマとラル隊の両者は、これら両立する戦史の中で、因縁めいた



ガルマ・ザビ (ジオン)

地球攻撃軍司令官にサビ家の四男。長期化する戦いのなか、その志はやがて一族を引き起こした戦争の罪を担うまでに至る…… (第1作)



ガルマ・ザビ (新生ジオン)

史実で地球領域を離れたことのないガルマだが、正史を隔てた一方の戦記にはサイド3本国へ侵襲、ギレンを討ち果たしたものとある。(オ)

ものを見いだせよう。元より兄のドズルから寵愛を授かっていたガルマだが、慢心さを嗜められる光景も戦場ではまま見られた。ガルマを有望視していたドズルだけに期待値も高く、兄の自分をも使いたすリリーダシップを得るものと信じていたに相違ない。つまりは「ガルマの存命」が保たれた1Fの宇宙世紀史において、ガルマとドズルの連携を引き裂くことはかなわず、それどころかギレンの政策に対する不信は両雄の絆をより強めていった。前述のようにある種の依存関係でもあったラル隊に対し、ギレンが新型MSドムの支給に難色を示すなどの因子が積み重ねられた場合、ガルマとドズルの悪感情が叛意という形へ変貌。両武官の総意によりギレンと訣別し、新たな勢力「新生ジオン」の降誕という形で結実することとなる。資金にも採算さえええは、強襲型MAビッグ・ザムを新生ジオンの象徴としてより強化することも可能である。



ジーン

軍曹。シャアという偉人なる元通がなまじ視界にあってばかりに、史実では死闘を挙げることにとわって決意。(第1作)



シーマ・ガラハウ

ならず者部隊の女将。メルランと名乗り、道義に義理を引いている組織がかけられギレン次第で星の戦役作戦が失敗に終わる。(第3)



コンスコン

トスルを導く道義の士。史実における組織はトスルと名乗り、シャアの勢力を不当に低く評価していたが戦場に評する。(第1作)



コズン・グラハム

アコースの親友。正史においてはオッドトライブ隊に参戦された。戦後に失脚して戦死した説も存在している。(第1作)



ケリー・レズナー

現在は戦隊のためか、体力や反応に衰えがあるものの戦闘レベルは大幅に引き上げ。史実における戦歴はMAヴァル・ヴァロ。(第3)



ケリー・レズナー

旧軍からカッターと結託の関わりでたがいに度々戦場の最前線である。一度は戦線を引くジーン隊を降参しえと囁かれる。中絶。(第3)



スレンダー

シャアがギレンからの報告を受けられなかった場合ゲニムやメロンと共に小隊のみで参戦する。道義軍である。(第1作)



シン・マツナガ

ソロモン域でトスルを率えた手帳。「自衛」と呼ばれる部隊のザクリはガシムと同じ「白い」MSと似た戦術を駆使する。(MSV)



ジョニー・ライデン

「白い戦車」と知られたシャアと並ぶ一方の赤き美談である。少女から手帳もシャアを襲撃していた戦歴に評する。(MSV)



シュキタイ・ハーティ

特務部隊「サイレン」の隊長。ルビコン計画の突撃に突いて、新型ガンダムNT1の奪取もしくはデータ収集に至る。(第3)



シャリア・ブル

本星博りのニュータイプだが、自分を操縦している。ギレンがNTの侵入を察した場合、キシリアの元へ監視役として派遣。(第1作)



シムス

MAマッスル・プロの開発要員。その執意は同僚の家族テストに参加した際でありシャリア・ブルに随行して戦線に立った。(第1作)

ジオン ネオジオン

今、復讐の貴公子は
人類の覚醒を大観する

ルウム戦役にて数々の武勲を残した主戦兵士「赤い彗星」。これがシャア・アズナブル少佐の二つ名であることは言明無用と思う。一年戦争序盤でドズル麾下の元、対V作戦の穿孔任務に着いたことが彼の生涯を大きく揺り動かした。

その原因の一つが連邦側に属したアムロ、ひいてはWビ隊の存在である。エースたるシャア自身をも苦戦させる連邦のV作戦。類稀なる才気を伴い戦線を勝機へ導いてきた彼にとっては、必死の抵抗を続けたWビ隊の抵抗は想像以上に手強く、そして勝負の愉悅を実感させるものだったに違いない。

戦乱が拡大、長期化してゆきジオン軍の疲弊が著しくなりつつあるなか、ギレンは旧ジオン派、つまりジオン共和国に傾倒する一党の弾圧を強行。こうした戦況を顧みたシャアは一つの、そして大き



シャア・アズナブル

仮面の貴公子。ルウム戦役において中隊長マークの無いザクC型で奮戦。この記録映像がようやく公開され軍事研究者を賑わした。(第1作)



キャスバル・レム・ダイクン

ネオ・ジオン総帥として素顔を見せたシャア。連続した彼は、敵対したアムロたちを自軍に迎え入れることさえ真摯に試みる。(オ)

な決断をやがて下すこととなる。それが「ネオジオン」の誕生だった。これまで

はドレンなどごく限られた人員を除き、誰も知るこの無かったシャアの素姓が、ついにネオジオン軍結成を宣言する

壇上では彼は、己れが実はジオン・ズム・ダイクンの一子キャスバルだと激白する。もはや陰からザビ家への謀略を巡らす一兵士ではなく、キャスバルは

を率いて奸賊ジオン公国を叩く将となった。すでにキャスバルは私怨という狭視的なもののしがらみから解放され、人

類の行く末を憂慮する崇高な理念を抱くに達する。それは間違いなくネオジオンが目指した人の覚醒、すなわちNTの喚起を示唆していた。ここで興味深いのは、

シャアがジャブロー攻略時に行動を共にした一兵卒アカハナが参入する事例である。史実においては僅かな期間の付き合いではがなかった筈だが、言い換えればそれほどシャアにカリスマがあるという証左にもなる。



ドレン

シャアとは一ノコウの関わり。史実の戦記ではアカハナ大尉の戦死を助けるまでには昇格している。(第1作)



ドライゼ

史実において潜水艦ユウゴンの舵を執った軍人。武器の携行も高く、ガンダム2号機の操縦計画に助力する。(第3作)



トクワン

少尉。史実で認められた戦死はMAビグロのパイロットを奪取。その機動力でガンダムのアムロを失神させるほど苦戦した。(第1作)



デミトリ

トランプの元で動いた軍人。反乱の機会には悪くない。本来の史実に則るとすれば、MAザクレロを付与すべきだろう。(第1作)



デニム

シャアにスレンジャーを返す小隊長。『V作戦』MSとの遭遇及び部下の暴走を制止できなかったことが不遇であった。(第1作)



デザート・ロンメル

中佐。一年戦争以降、ザカール周辺に潜伏していたことで知られる兵士。今日大戦時の活躍が公開された。(第2作)



バロム

史実において、トメルの妻でシャアと結ばれた兵隊ある男。トウニングと同様、正統なシャアに参入する可能性もある。(第1作)



バーナード・ワイズマン

土佐の手配でサイレントアサルトに配属された新兵。アル少佐との出会いにより、ガンダムN1を倒すことに意欲を見いだす。(第0作)



ノリス・バックカード

ザビ家と結ぶ軍人。史実においては、グフシステムにより一騎当千の活躍を見せ、連戦の大勝利を遂げて軍功した。(第0作)



ノイエン・ピッター

シャアに力を入れた軍人。シャアの理想に賛同しており、新型ガンダム開発機の入りに尽力する。(第3作)



ニブス・シュートゼン

上官秘書の件で暴露された親族を持つニュータイプ研究用の新型システムをXAMが盗取に犯されたためその逆襲にあたった。真



トウニング

シャアの部下。史実に従ってシャアに参入して軍功を挙げ、宇宙世紀0080の冒険では生き延びているとの説もある。(第1作)

エースパイロット ジオン デラーズ・フリート/アクシズ

黙然なる星海に一陣の雄
我が命、閣下のために



エギーユ・デラーズ

キレンの生前に賛同する。ジオンの
知将。戦況によっては「茨の園」と
呼ばれる保固基地を拠点に地球連邦
と交戦する。(83)

静謐の小惑星から
怨嗟の念を秘めて

大戦後、公国の有志を小惑星アクシズへ導いた人物マハラジャ・カーン。彼の没後、次女であるハマーンは軍勢を率いて再び地球圏へと帰着、疲弊の兆しを見せたい往時の戦力掃討に着手する。刻に宇宙世紀0087の動乱であった……。が、別所で伝えられるポスト一年戦争の事柄では、マハラジャが存命中に美娘を含む精鋭兵士らをギレンの支援に派遣したとあり、高次のNTたる彼女たちをつたものと察せられる。しかし一方で、マハラジャの死に伴いハマーンに要諦が発生。英雲ドスル司令の忘れ形見ミネバを後ろ盾にした彼女は、勃然とアクシズ

ギレンの忠臣にして、誉れ高き裨將エギーユ・デラーズ。本史における一年戦争平定後は、ギレンの生死に関わらずティターンズら新戦力の撃滅に専任。連邦の拠点と目されるジャブローもしくはグリプス2にてニューカマーのガンダム級MSが開発中にあるとの情報を得たのちは、タスクフォースデラーズ・フリートを編成、敵MSの奪取に臨むこととなる。この作戦で大任を務めた人物こそアナベル・ガトー。デラーズ並びにギレンへの大義に準ずる高尚な戦士であった。

軍による軍事介入を発起する。むろんギレンから見れば傀儡政権以外の何物でもない。各勢力は不倶戴天と交戦状態に陥っていた。なお、君主ミネバの要請に応じシヤアを参集、若しくはアクシズ軍にティターンズ士官シロツコが供与した、という意の証言も関係者から得ていた。これらは一概に妄説とも断言できないものゆえ、あえて併記した。



ハマーン・カーン

「アクシズの不気味少女」と囁かれたニュータイプ戦士。史実においてはデラーズと袂を別ちあっているが、形式上は支援協力。(2)



マリオン・ウェルデ

ツツナカ、機関が発見したニュータイプの少女。E.S.A.が開発されたものとは異なる他方の歴史に存在した。(9)



マッシュ

「真の正義」の一角。史実では、彼の命が失われたもの。3人がはるばる戦場に倒れたという二画が描かれている。(第1作)



マシュマー・セロ

ハマーンと地球主義者の無血戦。方丈の中にあって大勢を奮い立て、ジオン軍人の賛賞を蒙るに及ぶといえる。(2)



マ・グベ

オジン・ササキの要人。戦況は女性。正史では期まで返還するが、機密の資料でトリスたちから盗取されることもあった。(第1作)



フラナガン・プーン

マ・アイン・コー・隊の長となったシヤアを補佐。部隊を従えたティターンズが、連年の水争戦の戦果を食ふまでの惨状だった。(第1作)



ビリー・グラードル

決戦、ムサ・アインの戦況。ヘル・ギレンの指揮を執り、デラーズの「星の戦艦」に参戦した正史の戦況を詳述。(83)



ロベルト

一年戦争の司令官。エギーユ・デラーズの戦況は、彼の参謀役として加入する。アボリーと同じく戦歴は少剣。(2)



ランバ・ラル

「真の正義」の真名を待つ。式典。近年に入り、彼の地球連下作戦時に用いた特色性種のザクの特長が披露された。(第1作)



ラリア・スン

ハマーンに賛同する真実。ニュータイプ。史実における事柄はエルメスだった。近しい機種のセロやマリオンとの会話を存在。(第1作)



ランカ・ダカラン

グレン・ことも、戦況。大戦。ハマーンとの関係も強い。史実では、戦況を最前線に陣取り、加担した。(2)



ユリー・ハスラー

マ・アイン・隊の副長。公の戦史ではMSケンプラーでガンダムNT1に挑むが、結果としてあえく敗れた。(83)



ミハイル・カミンスキー

マ・アイン・隊の副長。公の戦史ではMSケンプラーでガンダムNT1に挑むが、結果としてあえく敗れた。(83)

宇宙世紀がため
地球連邦発足

だがそこには主体となる連邦の強権確立と、また地球上の各自治区そして宇宙コロニーに從属を強いるという、現実的な力の構造が潜んでいた。

こんな力学を背景に、宇宙世紀0079年1月3日、ジオン公国軍は独立権を徹奪する意志もあ



ジョブ軍の擁護となりながら、兎事に生還を果たした老將。地球圏争乱の平定に尽力、軍規に厳しいが、さりげない温情家の面も。(第1作)

隊戦を展開するが、同「ルウム戦役」にて艦隊の多くが撃沈。指導者レビル将軍も、虞囚となってしまう。



史実ではソロモン攻
略戦の指揮官。ソー
ラ・システムの責任
者。(第1作)



ノアフロ本部の囃
響。ホワイトベース
を固専門役に推進し
た将校。(第1作)



サマ! コッホライトヘ
スに掛け返も難産の一人。
遠隔兵として戦うが、ン
ンの少女スパイ・ミハルと
心を重ねる。 (第1作)



コーポレーションの基地に駐留
する中尉。映画劇中では
最後まで銃声に逆死倒軍
人。ホワイトヘースの能力
を疑問視する。「男工作」



理想に燃えて過労死した女性実業家。最期ではティーンズからエッセイに転向して数冊の記録が主に残り、これは著者の妻（オ）



第3地球艦隊所屬の戦艦、ルビオンの艦長。紳士筋とした言動で、周囲の信頼が厚い堅戦の勇士。「星の闘」作戦に参戦。 (183)



「マチュ・ピクス」に魅了する大沢で、宇宙船整備士兼宇宙飛行士官私生活においてはマチュ・ピクス中尉の模範姿でもあった好青年。 [著] 佐藤



中尉。そのアヤアデルの
同僚として アルビオンに
参戦。セーゾアほどでは
ないが 気の強い一面も
ある。パイロット。(声優)



中世世紀0.13年 オーストラリアのトリントン基地に勤務する古参兵で 師団は大尉。コウ・ウラキの上賓でもある。(63)



オーキッド・の3ノット
基礎に所蔵するテストバ
イロット 敬語は敬語
「堂の側」事件に巻き込ま
れて、基幹を体験 (183)



サイトも、ア地区の連邦
軍検査研究所に勤務する、
MSの調整技術者 中尉。
NT1のA「アレックス」
も要請した。(要約)



平家忠紀(りりり)も年時の邊
邦將校。蘭語は大将で、役
格は親衛官だがゲラーズ・
フリートに隊を突かれ、枯
の地に散る。(りりり)



男勝りな性格の女性會長で、ノローの部下。理想主義なノローの若さに苦笑する一方で、信頼感も抱いて



のちにティターンズ、参加 雲の宇宙世紀の記録では ガンダム創世IIの操縦者の一人にもなる戦士の連



東南アジア方面・繊維化品
成大課 通称コシメ大課の
一角 夢08M5小課の課
長。温和な好青年だが 責
任感は強い。少尉 (08)



通邦内の上級将校。公の半
宮世記史では903年に
起きた「星の異」事件の戦
に、ティターノス設立がた
め確立した。（83）



ディターンと（地盤する）
シャマイカンの前身。選区内
でも、やはり古きシャミト
フに忠義を捧げていたらし
い堅固な野郎。（オ）



大船のみの老犬隊。東南アジア方面・機械化遠征大隊の補給部隊隊長で、ノローたち第1小隊の連中とは仲がいい。(10頁)



のちにティターンズに選抜される。若き連邦将校。本戦記では、難い軍服を身にまとう日以前のフェリトが数通する。(中)

[illegible]

連邦

Vレビル生還
作戦発動へ

だがレビル将軍は拘留から約半月後、奇跡の生還を果たす。そして自らの目で認めたジオン国力の実体に基づき「ジオンに兵なし」との演説を地球圏に布告、全地球連邦軍の士気を高める。

やがて先の一週間戦争、ルウム戦役においてジオン側優勢の鍵となった戦力MMSに対抗するため、連邦側も独自に戦略用MMSを開発。さらには、MMSを搭載した新造強襲戦艦建造にも着手するの、

遅れは取ったものの、



アムロ・レイ (連邦)

サイト7にいた内向的な少年。運命的な出会いからガンダムを操縦。(第1作)



ブライト・ノア (連邦)

ホワイトベースの二代目艦長。もとは士官候補生として同艦に乗船。(第1作)



マチルダ・アシャン

ミデア輸送部隊の指揮官。生産に際する「補給」を大事に思う中尉。(第1作)



ジョン・コーウェン

一年戦争後、連邦軍第三師団で「ガンダム開発計画」を推進した中尉。(第3作)

総体の統合国力では、結局は地球連邦は、一国ジオン公国に引けを取る訳などなかったのだ。

ここにて十全な巻き返しを図るべく、連邦は泥沼化した消耗戦の向こうで、やがて最終的にこう

戦の雄雄を決するMMSの量産化にまでを目的とする「V作戦」を発動しようとしていた。

やがて連邦とジオンのミリタリーバランスは、開戦後10ヶ月を経た「オデッサの戦い」を機に大きくその主軸を連邦側へと傾けさせることになった。これが連邦側の公史である。



スレッガー・ロウ (連邦)

ジャクローにてホワイトベースに配属された近衛軍中尉。戦術の勇士と賞賛を受ける。第1作。



セイラ・マス (連邦)

第1作のジオン軍のジョーン・スミス・ダイクスの副官。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



チャック・キース

1作のジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



チャップ・アデル (連邦)

1作のジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



テリー・ヴァンデンベルグ

1作のジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



バオロ・カシアス

1作のジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



バスク・オム (連邦)

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



バザマス・シッコ (連邦)

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



ハヤト・コバヤシ (連邦)

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



フィリップ・フーズ

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



フォウ・ムラサメ (連邦)

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



フラウ・ボウ

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



ブラン・ブルターク

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



フックス・フォル

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



プロト・ゼロ

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



ベリアルド・モンズ

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



ハーク・バックナー

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)



マウアー・ファファー

ジオン軍のジョーン・スミスを助けた。ジオン軍の代表。ホワイトベースに逃げ込み、連邦軍でジオンと戦った。(第1作)

COLUMN003



ギレンの野望 外伝



ジオンディスクのジオン公国モードや連邦ディスクの地球連邦軍モードのほかに、本作には8つの第三勢力モードが存在する。しかし、これら全10勢力モードのほかに、隠された特別編モードがふたつ存在する。このふたつはジオンディスクと連邦ディスクにひとつずつ隠されており、それぞれのディスクに4つずつ入っている各モードをクリアすることで出現する。まさに「ジオンの系譜」を極めた人だけが楽しむことができる特別編モードと言えよう。



↑1枚のディスクに特別編として隠したモードが存在する。戦いは終わらない

ジオンディスク

～デギンの憂鬱～



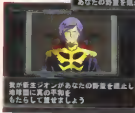
ジオンディスクの隠しモードとなる「デギンの憂鬱」。このモードを選択するとジオン公国のギレンと戦って戦うことになる。

通常モードと異なる点は、敵勢力が連邦軍ではなく、キシリアの正統ジオンと、ガルマ（&ドズル）の新生ジオンであるということ。つまり、このモードはザビ家による壮大な兄弟ゲンカなのだ。父親であるデギンが憂鬱になるのも無理はない。いまここに地球圏の命運をかけた兄弟ゲンカが始まろうとしている。

→正統ジオンとしてギレンのジオン公国に宣戦を布告するキシリア。NT部隊を率いる勢力なので強敵である。



「戦争な嵐は静かじゃない。父さん、正統ジオンがあるんだ。野望を遂げさせて見せよう」

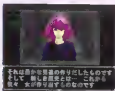


「我が正統ジオンがあなたの野望を阻止し、地球圏に真の平和をもたらして見せよう」

→ガルマの新生ジオンには、ドズルが参加している。そのため彼の優秀な部下たちがこの勢力に組んでいる。

連邦ディスク

～華麗なる戦い～



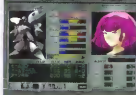
連邦ディスクでプレイできるようになる隠しモードは「華麗なる戦い」。基本はアクシズなのだが、違うのはそこに所属

するキャラクターがすべて女性であるということ。連邦のセイラやジオンのララなど、ゲームに登場する全女性が元いた勢力を抜けてこの勢力へと参加している。このアクシズをハマーンが指揮することで、華麗なる戦いを見せてくれることだろう。女性が宇宙を支配するため、男だけの他勢力との新たな戦いが始まる。

→本拠地はアクシズ。歴史を作りあげたため、他の勢力に対して優位を主張する。



「女の歴史。だから、貴族の最上流は全て女なのか？」



→所有するMSはどれも強力な機体ばかり。しかし、自軍エリアが少ないため、開戦時は苦戦するかもしれない。

COLUMN002

パイロットの生還率を上げるMS

「ギレンの野望」に登場するMSの中には、劇中の設定に準じた「パイロットの生還率を上げるMS」がいくつか登場するので、ここで紹介しておこう。まずは、ガンダムの設定ではおなじみのコア・ブロック・システムの搭載によって、機体が破壊されても脱出ポッドが残るタイプ。脱出後は、攻撃力が低下してしまうが、パイロットを負傷させずに済むのでなかなか重宝するはずだ。

もうひとつが、追加装甲やMA形態のもの。こちらは、一度機体の耐久力がゼロになっても、MSを覆っている外観が破壊されるだけで、引き続き戦闘に参加できるもの。ある程度ゲームが進まなければ生産することは不可能だが、追加装備が増えている上に、長時間の戦闘が可能になるため、破壊を恐れずに前線に送り込めるのが強みだ。

下の表には、脱出機能や追加装甲の機能を持ったMSを紹介している。MSの特性を知り、より有利に戦闘を進めて欲しい。

【アーマータイプ】

フルアーマーガンダム
フルアーマーオベレーションに基づいて製作された追加装甲をガンダムに装備した機体。高い耐久性能に耐えて、攻撃力も強化されている。



→追加装甲を装備したタイプ
移動能力は下がるが、耐久性はかなり高い。

【脱出タイプ】

ガンダム：ビームライフル
戦艦並みの威力を持つビームライフル、ザクマシンガン、ガンダリウム食糧の積載。空中戦を可能にする変形的な機体能力など、互に1年戦争時に最強のMSである。



→頭部やコア・ブロックが脱出ポッドの代わりを兼ねてくれるタイプ

【MAタイプ】

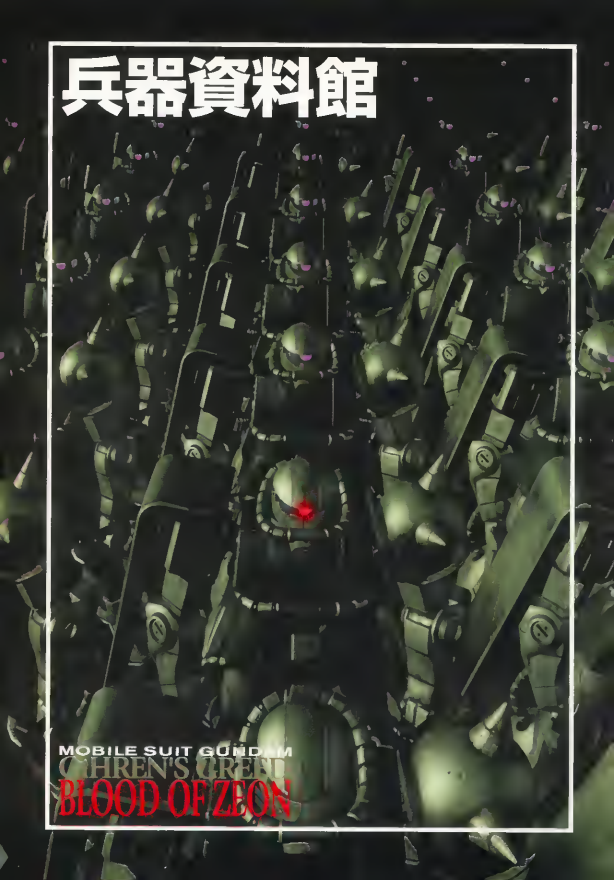
Gアーマー
ガンダム用の増設装甲システム【Gパーツ】がガンダムと合体した戦闘用機体。ガンダムの機体と装甲強化を目的に開発された。ガンダムを分離することでGファイターとなる。



→MSの機動力を上げるMAをまとったタイプ。最強クラスのユニットだ。

タイプ名	MS名称	脱出後の機体名
アーマータイプ	フルアーマーガンダム	ガンダム
アーマータイプ	フルアーマーNT-1	NT-1
脱出タイプ	ガンダム	コアファイター
脱出タイプ	プロトタイプガンダム	コアファイター
脱出タイプ	G-3ガンダム	コアファイター
脱出タイプ	ガンキャノン	コアファイター
脱出タイプ	ガンタンク	コアファイター
脱出タイプ	GP-01 ゼフィランサス	コアファイター
脱出タイプ	GP-01 FB フルバーニアン	コアファイター (宇宙用)
脱出タイプ	ジオング	ジオングヘッド
脱出タイプ	パーフェクトジオング	ジオングヘッド
MAタイプ	Gアーマー	ガンダム
MAタイプ	GP-03 D テンドロビウム	GP-03 S スティメン

兵器資料館

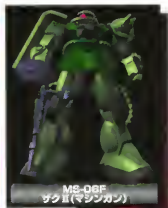


MOBILE SUIT GUNDAM
CHREN'S GREN
BLOOD OF ZEON

MSの誕生

一年戦争においてその名を知らしめた巨大人型兵器MS（モビルスーツ）。その開発には、ミノフスキー粒子の存在が必要不可欠であった。

理論物理学者であるT・Y・ミノフスキー博士によって、その存在が確認されたミノフスキー粒子。この粒子は静止質量がほとんどゼロで、正か負の電荷により目に見えないフィールドを形成し、その中を伝わろうとするマイクロ波から超長波に及び電磁波を、著しく衰減させる効果を持つ。また、超集積回路にも影響を及ぼし、濃度によつては誤作動や機能障害をも引き起こし兼ねない性質を持っている。このためミノフスキー粒子が散布された空域では、レーダーによる長距離探査、索敵や通信などが阻害され、無線による遠隔

MS-06F
ザクII(マシンガン)

ZAKU

ザク

操作などでもできなくなる。つまり、戦争自体が有視界による白兵戦主体の戦闘へと変わってしまうのだ。ジオン公国軍はこのような環境下において最も有効な兵器を模索し、同国防省は各兵器メーカーにミノフスキー粒子散布下における新型機動兵器の開発を命じた。この兵器に対する要求は多岐にわたり、実現はたいへん困難なものであったが、四年にわたる基礎研究の末に提示された性能を満たせたのは、ジオニック社（ZEONIC）とMIP社の試作品だけであった。

MIP社のMIP-X1が宇宙ボットと戦闘機を融合させた機体なのに対し、ジオニック社のZ-1XA3は人型を模した機体であった。Z-1XA3はその汎用性の高きなどから制式採用が決まり、この機体から実戦型の兵器が開発されていく。そしてプロトタイプザクと呼ばれるMS-04をベースに、細部に改良を施した実戦用MSの「ザク」が完成する。このザクは初期生産型のA型



ジオン公国を開戦にまで導いた巨大人型兵器MS-04のMSによって、これ以降の戦争は様変わりしてしまう

と呼ばれ、この機体の運用テストおよびパイロットの育成を行う教導機動大隊が創設された。その後、実用データによって改良が加えられたB型が量産されるほどになったが、稼働時間の短さなどの問題が表面化してきたため、約800台で生産が終了する。そしてさらなる高性能機体の開発が行われ、不朽の名機ザクIIが生み出されるのである。

MS-06
Series

ザクの戦果

一年戦争の初戦である一週間戦争。この戦いにおいてMSという機動兵器は、戦争という歴史にその名を刻むこととなった。

MSを中心とした機動艦隊は、サイド1、2、4に奇襲攻撃を敢行。各サイドの駐留軍は、その攻撃によって防戦体制も整えぬまま次々に撃破されていく。ジオンのMSは、抵抗らしい抵抗も受けないまま、無差別に各コロニーを殲滅していった。また、この際にコロニー内の全市民を殺戮すべく、G3（毒ガス）が大量に投入される。MSはこれらの作業を自らの手（マニピュレータ）で行うことができ、結果的に28億人以上の人類を死滅させた。さらにジオンは、自国を勝利に導くために、地球への「コロニー落とし」を実行に移した。コロニーの落下地点は地球連邦軍本部のあるジャブロー。コロニーはジオン艦隊に守られつつ地球へと向かったが、連邦軍の必死の抵抗によって劣化したコロニーはアラビア上空で四散し崩壊してしまふ。ジオンはこの失敗を挽回すべくサイド5のルウムへと進撃し、連邦軍も次の攻撃目標がサイド5であることを察知して艦隊を迎撃に向かわ

せた。この戦いの戦力差は3対1。圧倒的に連邦軍が有利であったが、ジオンのMSザクはその真価とも言える機動性を発揮、連邦艦隊を次々と撃破する。連邦軍は投入戦力の80%以上を失い、この戦いでサイド5は壊滅状態に陥る。ジオン軍は当初の目的こそ果たせなかったものの、ジオン側の圧倒的勝利であった。この戦いによりMSの有効性が確証されたといっても過言ではない。事実、この戦果を目の当たりにした連邦軍は、追従するようにMSを開発することになる。

専用機

ジオン軍では有力な士官や戦果をあげた兵に対して、特別に専用機を与えている。これらの機体は各人の特性に合わせた性能を持っていた。



MS-05B
ザク (メインバトル専用機)



MS-05B
ザク (ランバール専用機)



MS-06F
ザクII (ジョニー・ライオン専用機)



MS-06F
ザクII (シン・マサガリ専用機)



MS-06C
ザクI (シン・マサガリ専用機)



MS-06S
ザクII (ドール専用機)



MS-06S
ザクII (シン・マサガリ専用機)



MS-06FS
ザクII (シン・マサガリ専用機)

兵器の発展 if 版

核バズーカ

ザクの戦果が、その機動性によってもたらされたことは事実であるが、その戦果の一端として核バズーカを装備したザクが核攻撃を行っていたこともまた事実である。後に核の使用は南極条約によって封印されてしまうが、ゲーム内ではその封印を解いてザク（核バズーカ装備）を再生産することも可能である。このザクはルナツーを攻略するために開発された機体で、その攻撃力は敵機を一瞬にして破壊する力を宿している。



MS-06J
ザクII (核弾頭 (バズーカ))



MS-06J
ザクII (機銃 (マシンガン))



MS-06S
ザクII (核弾頭 (バズーカ))



MS-06S
ザクII (機銃 (マシンガン))



MS-06S
ザクII (核弾頭 (バズーカ))



MS-06F
ザクII (核弾頭 (バズーカ))

ザクバリエーション

ジオン軍が生み出し、多大な戦果を残したザクⅡにはさまざまなバリエーション機が存在する。このザクⅡは局地戦も含めた汎用性の高いMSとして開発された機体であった。最も初期の「A型」は肩のアーマーにスパイクが採用されておらず、かなり早い時期に生産は「C型」へと移行。ルウム戦役などで活躍したC型と言われるザクⅡ初期型も核仕様を前提とした機体であったため、NBC兵器の使用を制限する南極条約締結後に生産を中止している。その後のザクⅡは耐核装備を廃止し、反応炉の性能を向上させた「F型」へと移行された。一般に呼ばれるザクⅡとはこのF型のことを指しており、生産台数も最も多い機体である。F型のなかには宇宙機雷敷設のために開発された機体もあり、兵士の間

MS-09E
ザクⅡ(地球型)MS-06D
ザク・デザートタイプ

では「マインレイヤー」と呼ばれた。F型は確かに高性能化された機体ではあったが、ベテランパイロットからはさらなる機動性の向上などが求められ、「F型」や「S型」が指揮官向けに開発される。しかし、エンジンの高出力化に伴う燃料消費量の増大により、戦闘時間が短くなってしまうことが問題視された。

その一方で、地上侵攻作戦を目前にしていたジオン軍は「J型」と呼ばれる陸戦用ザクを開発。空間戦闘の装備を取り除き、地上戦闘に必要な改造が施された。J型は、テストを兼ねて第一次降下作戦で地球へと降ろされ、その実働データを基に地球降下作戦後は占領した施設などを使って量産が開始される。

このJ型をベースに砲撃戦用の「K型」ザクキャノンや、砂漠戦用の「D型」ザク・デザートタイプなども順次開発されていった。また、

地上用のザクⅡのバリエーションが次々に生み出されていくのと同様

地球侵攻において重要な意味を持つ海域を制圧するため、水中用の「M型」ザク・マリンタイプも開発されたが、あまり優秀な性能を残すことができなかったため、新規で水陸両用MSの開発が行われている。この他にもC型やF型のザクⅡから戦闘用の武装を取り除いた偵察用の「E型」ザク強行偵察型や、その改修機である「ザクフリッパー」。戦闘能力を失ったザクの上半身とマセラベースを組み合わせて作られた作業用の「V型」ザクタンクや、使用不能となったザクのパーツを組み合わせた「W型」一般作業用ザクなども開発されている。また、次期主力MSを開発するため、ザクⅡの機体を流用した「RD4型」高機動型試作ザクなどのテスト機としても使用されていた。

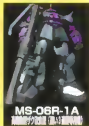
MS-06F2
ザクⅡ(高速型)MS-06F2
ザクⅡ(高速型)MS-06V
ザクタンクMS-06M
ザク・マリンタイプMS-06K
ザク・キャノンMS-06J
ザクII重機 (マゼタリウム)



に、宇宙用のザクⅡもさらなる高性能機が求められ続けていた。「R 1型」と呼ばれる高機動型ザクは、そのような期待のなかで開発された機体である。F型をベースにして開発されたこのR 1型は、当初目標とされていたスベックに達成したために量産が決定する。しかし、メンテナンスの仕様などが従来機と大きく異なること、この機体を使いこなせるベテランパイロットが不足していたこともあり、初期生産型のR 1型はわずか22機のみが生産された。だが、このポテンシャルの高いR 1型を実戦に活用させたいと考える技術者たちは、メンテナンスを緩和するため補助補給タンクのカートリッジ化を含む改善策を打ち出し、パイロットに関しても適正検査を行ったうえで配備するようにした。こうして脚部の補助燃料タンクをカートリッジ式にした「R 1A

高機動型ザク専用機

R型の機体性能にはばらつきがあったとも言われるが、それでも著名なエースパイロットたちの搭乗機として使用されたため、多大な戦果を挙げている。



型」が開発されるが、それでも機体自体の複雑な生産工程は解消できず、初期生産機のR 1型22機のうち10機ほどがR 1A型へと改修され、その他には56機が新たに生産されただけであった。この後、R型の開発は一旦止まってしまうが、戦況悪化に伴い次期主力MSの開発が急務となる。そこでジオニックス社が開発したのがR 1A型をさらに高機動化させた「R 2型」で、ツィマツド社のリックドムと後継機選定にかけられた。R 2型が性能的には上回ったものの、コストや生産性に

おいて敗北し、わずか4機のみが開発されただけで生産は中止されてしまった。
R 2型はシルエット的にはR 1型と変わらないが、実際には全く異なる機体と言ってよいほどその内部構造が異なっていた。そのため生産性が極めて悪い機体となってしまったのだ。しかし、R型はジオン軍のMS開発に、大きな影響を残した傑作機であることには違いない。

また、ザクⅡはF型に改良を加えた「F 2型」ザクⅡ後期型や、ザクⅡの最終量産型「F Z型」ザクⅡ改なども生み出している。特にF Z型は統合整備計画によって改善された第2期生産型のMSであり、バーニアを強化したことによってゲルググ

など機動力の高い機体と共同で使うことも可能であった。



ザクの進化

MSB-01
サイコミュ高機動試験機「ザク」

ジオン公国ではNT（ニュータイプ）の軍事利用が研究され、そこで開発されたのが「Z型」サイコミュ試験用ザクである。この機体は有線誘導式ビーム兵器によるオールレンジ攻撃が可能な実験機として製作され、データの収集にあたっていた。続く2号機にはザクタイプとは異なる新規の形式番号が与えられ「サイコミュ高機動試験型」としてデータを収集したが、あくまでザクⅡがベースの機体であるために十分なデータは得られなかった。ザクⅡの機体構造自体に問題提起され始めたジオン軍では、新たなMS開発計画「ペンズン計画」を発動する。この計画内にあった「アクトザク」は、マグネットコーティング技術を採用した機体で、ビーム兵器も装備していた。ジオン軍によって研究されていた

MS-11
アクト・ザク

これらの技術や他の研究成果などは一年戦争終局後、勝利した連邦軍によって接収され、研究が進められていく。その結果、連邦とジオンの技術を融合させた「ハイザック」が開発されている。この機体は戦後初めて基本設計から開発が行われ、本格的に量産されたMSである。しかし、連邦とジオンの両技術が中途半端な形で混合する機体となってしまうため、基本性能こそ標準的だがバランスの悪い機体となってしまう。ただし、扱いやすい機体であったため連邦およびティターンズの各部隊に配備されていた。また、このハイザクの改造機である「ハイザックカスタム」なども開発されたが次世代機と呼べず、次なるMSを模索することになる。そこで次世代MSを開発してみせたのがアナハイム・エレクトロニクス社であった。装甲にガンタリウム・Vを採用したハ

RMS-108
マラサイRMS-106
ハイザック(マシンガン)RMS-106
ハイザック(ビームライフル)

イザックの発展型「マラサイ」は、ジェネレータ出力を向上させ、複数のビーム兵器の使用を可能とした。生産性にも優れたこの機体は主にティターンズへと配備されていた。

RMS-106CS
ハイザック・カスタムRMS-106CS
ハイザック・カスタムRMS-106
ハイザック(ビームライフル)RMS-10
ハイザック(マシンガン)MS-06Z
サイコミュ試験用ザク

陸戦型MS



陸戦型のザクⅡJ型の性能に限界が見え始めたジオン軍では、機動性を向上させた新型MSの開発が余儀なくされる。そして開発は「プロトタイプグフ」と「高機動試作機」との競合という形で進められていく。その結果、機動性を高めつつ対MS戦を想定に開発されたプロトタイプグフが制式採用されることになる。量産に移された「グフA型（先行量産型）」は、固定装備である五連装マシンガン、固定装備である五連装マシンガンの搭載が間に合わず、両腕はザクⅡJ型のをそのまま流用した。続く「グフB型」には五連装マシンガンが装備され、右腕にはヒートロッドが標準装備となる。このヒートロッドは、高圧電流を流すことで目標のパイロットや電子機器にダメージをあたえる武器であった。

GOUF



た。グフは局地戦型のMSとして開発されていたため、その土地の気候や戦術などによって改修することが可能であった。「グフ改良型」は固定装備によって汎用性を失ってしまったグフB型を反省し、汎用性と遠距離戦闘性能の向上が図られた機体である。左腕の五連装マシンガンを通常のマニキュレターに変更、代わりに外付けの三連装ガトリング砲を装備した。また、グフB型のマイナーチェンジ機の中には全身に装飾を施したマ・クベ専用の機体もあった。グフカスタムとは異なり、グフ重装型と呼ばれる機体では、火力に重点が置かれ両腕を五連装マシンガ



↑MSの飛行計画を捨てきれなかったジオン軍では、グフ飛行型の試作機を開発していく。しかし、量産には至らなかった。

ンに換装。汎用性こそ失われたが、それを補う攻撃力を獲得している。また、グフはテスト機として使われるケースもあり、MSの地上での移動性の低さを克服するために「グフ飛行試験型」などが開発されたが、実用化されることはなかった。しかし、これらのデータは次期MSであるドムのホバー走行へと活かされた。

MS-07 Series





重MS

重力下においてMSの移動性の低さは、MSが地上で運用される以前から懸念されていたが、戦線が広がるにつれてもはや無視できない問題になっていた。これを解消するために「プロトタイプドム」は脚部に熱核ジェットエンジンを搭載、そのジェット噴射によりホバー走行を行うという画期的なコンセプトのもとに開発される。この機体開発の最大の問題点は熱核ジェットエンジンをいかに小型化できるかということであり、事実その開発は困難を極めた。しかし、グフ飛行試験型やグフ試作実験機の実験データを基に、ようやく開発に成功する。

このホバー走行というコンセプトは見事成功を納め、重MSでありながらも重力下で非常に高い機動性を

DOM

ドム

有し、MS単独での行動範囲を飛躍的に向上させた。こうして完成した「ドム」は、そのホバー走行によって戦場を疾走し、分厚い装甲と標準装備であるジャイアントバズールによって地上のジオン軍の主力MSとなっていく。また、ドムは開発当初より熱帯地帯や砂漠地帯で使用されることが構想に練られていたため、局地戦用機の開発も同時に行われている。そこで試作されたのが「ドム・トロピカルテストタイプ」で、プロトタイプドムを熱帯戦仕様へと変更した機体であった。そしてこの機体のデータを経て「ドム・トロローベン」が開発されることになる。

ドム・トロローベンは、熱核ジェットエンジンのインテーク周りの構造を根本から設計し直した機体で、配備された地域に適応させることで高い性能を獲得することによって高い「ドワッジ」もまた局地戦用に開発された機体で、プロベラントタンクを増設したことでホバー走行の稼働

時間が大幅に延長し、陸戦能力の向上に成功している。ドワッジの指揮官機にあたる「ドワッジ改」では肩部にブースターが装備され、機動性がさらに向上させている。この機体はビーム兵器の使用も可能であったが、ドワッジやドワッジ改の面機体が戦線に配備されたのは一年戦争の末期であった。このため特に目立った戦果などは残されていない。



↑ 黒い迷彩に配備されたドムは黒を基調としたカラーリングが施され、後にこの機体色がドムの正式カラーとなる

MS-09 Series



宇宙専用機

重力下においての戦闘で、ザクやグフに変わる主力MSとして多大な戦果を納めたドムは、そのトータルバランスの良さから宇宙用としても開発されることになる。この機体のために試作された高機動試作型ザクは、宇宙空間での運用データを収集することが目的とされ、そのデータをフィードバックすることによって「リックドム」は完成した。ドムとの相違点は脚部の熱核ジェットエンジンを熱核ロケットエンジンへと換装していることと、スカート内部に多くのスラスターを搭載している点である。このリックドムとザクの高機動型であるR-2型は、開発の遅れる宇宙用次期主力MSの穴を埋めるために、どちらかを暫定的な主力機とし生産することが決定した。そのため、両機体で比較評価試験が行われた結果、総合性や生産性、機体の扱いやすさなどが評価されてリックドムの採用が決定したのである。そしてリックドムは当初の予想を遥かに超える戦果をあげたため、さらなる性能向上機の開発が行われるようになった。この開発は統合整備計画の一環として進められ、「リックドム・ツヴァイ」が開発されている。

この機体はジェネレータやスラスターの改良といった、主に推力系を中心に強化がなされ、プロペラントタンクを増設したことにより、稼働時間の延長にも成功している。

宇宙用ドムの新機種開発は統合整備計画とは別の系統でも行われていた。実験的なプロジェクトであった「ベズンドワッジ」である。ここで開発された「ベズンドワッジ」とは、ドムを基に、機体へと総合的な改良が施された局地戦用の発展型MSで、改良型のジャイアントバズーカとヒートサーベルを装備していた。しかし、実戦に参加したかどうかについては不明のままである。

兵器の発展 if 版

キャスバル専用機



MS-09R
リックドムII (シャア専用機)

ゲーム中の第二部でシャアがキャスバルとしてネオ・ジオンを創設した際に開発される機体。これは小説版に登場したシャア専用リックドムで、ビームバズーカを装備している。ザク同様により出力を高める方向でカスタマイズされた機体である。

第二世代MS

一年戦争後にアナハイム・エレクトロニクス社とエウイングによって開発された「リックディアス」の姿は、まさしくドムを彷彿とさせるスタイルに仕上がっている。この機体へはガンタリウム・Yとムーバブルフレームが使用され、第二世代と呼ばれるMSの先駆けとなった。

リックディアスはその外見からは判断しにくい、ガンダムおよびガンダム試作2号機サイリスを下敷きにして作られたMSであり、開発当初の名称もY・ガンダムであった。しかし、ジオン系技術者が多数開発に参加していたこともあって現在の姿になっている。その名称はエウイングに参加していたクワトロ（シャア）によってリックディアスという名に変更されたと言われている。

この機体はガンタリウム・Yの使用で軽量化が図られたために、プロペラントの増加が可能となった。そのため機動力、攻撃力、防御力などの機体性能がバランスのとれた総合的に優秀な機体であった。

この機体はクワトロ機として赤く塗装されたものと、グレーを基調とした一般機が存在したが、後にすべての機体は赤い塗装で統一された。



RMS-099
リック・ドムII (シャア専用機)

RMS-099
リック・ディアス

MS-10
ベズンドワッジ

MS-09R2
リックドムII

MS-R09
リック・ドム



次期主力MS

ゲルググはザクⅡに変わるジオン軍の標準機として開発されたMSである。ジオン初のビームライフルを標準装備としたこの機体は、ジオン軍の次期主力MSとしてコンペティションにかけられ、空間戦闘能力や汎用性の高さと、2種類以上のビーム兵器が使用できるという点が評価され、制式採用が決定する。この決定を受けて25機の「ゲルググ（初期生産型）」が生産され、各部隊のエースパイロットたちのもとへと配備されている。そして初期生産型の運用データを活用し量産型「ゲルググ（A型）」が順次生産されていく。量産型とはいえゲルググの基本性能は落ちることなく、その性能は連邦の量産型MSを遙かに上回っていた。

初期生産型のゲルググを受領したアナベル・ガトール、シャア・アズナブルといったパイロットたちは、その総合性能や通信機能を高めた機体を専用機として使用していたと言われている。なかでもジョニー・ライデンが搭乗した機体は「ゲルググ高機動型（B型）」と呼ばれ、背部に増速用ブースターを装備したゲルググのバリエーション機であった。この高機動型ゲルググは少数精鋭のベランパイロットたちによる特別選抜隊へと配備すべく開発されたMSで、この特別選抜隊は機動巡洋艦ザンシバル「キマイラ」へと配属され、ア・バオア・クー戦へと参加する。また、この特別選抜隊には「ゲルググキャノン」と呼ばれる砲撃支援用MSも配備されている。この機体は頭部に射撃用の補助カメラを追加、背部にキャノンバックを装備しており、後方支援へと用いられた。



十一年戦争後期に開発され、実戦投入されたゲルググ。その性能は連邦のガンダムを超えるとも言われた傑作機であった。

GELGUG

MS-14 Series

のザクキャノンやR型の高機動型ザクなど、用途ごとに全く別の機体として再設計が行われていたが、ゲルググは開発当初よりバックパックやセンサーなどを交換するだけで高機動型や砲撃支援用への機種転換が可能となよう考えられていたのである。

ゲルググのバリエーション機は、これらのほかにも存在している。海兵隊バリエーションと呼ばれる「ゲルググ



兵器の発展 if 版

エースパイロット専用機

史実でのゲルググは一年戦争後期で開発されたMSであるため、当然のことながら戦死してしまったエースパイロットたちに配備されることはなかった。しかし、ゲーム中ではランパラルや黒い三連星、戦死してはいないが受領されなかったシン・マツナガなどの専用機を作り出すことも可能である。各専用機ともエースパイロットに見合うだけの性能を有している。

ゲルググの発展

ゲーム中でのゲルググの最終発展型と言えるのがリゲルグ。この機体は肩部のウイングパイonder内にスラスターを内蔵することで驚異的な機動力を誇る宇宙用の機体である。しかし、史実に登場するリゲルグは、ジオン残党であるアグシズによって量産機のゲルググを改修することで開発された高性能MSである。

MS-14S
ゲルググ (ランパラル専用)MS-14J
リゲルグMS-14B
高速型ゲルググ (黒い三連星専用)MS-14S
高速型ゲルググ (シン・マツナガ専用)

グ・M (マリィネ) である。スラスターの増加と、それに伴いプロペラントタンクを増設。武装も両腕に110mm速射砲、そして両膝にはビームサーベルが追加されている。この機体はコスト的にも比較的安価であったため、ゲルググでは量産型に継ぐ生産台数を誇っている。

ゲルググ・Mには標準機(量産機)とは別に指揮官用の機体も存在し、ジェネレータ出力の増加とスラスターの追加がなされ、機動性や運動性の強化が図られていた。また、頭部には指揮官機を表す角飾りの横にバルカン砲が追加装備されていた。また、この機体を愛機としたシマー・

ガラハワは、これをさらにカスタマイズさせて使用していたという。

ゲルググはザクⅡやリックドムなどと同様に、MSの生産性向上を図った統合整備計画にも組み込まれていた。この計画に沿って生み出されたのが、ゲルググの最後期型である「ゲルググ・J (イエーガー)」である。この機体は量産型のゲルググやゲルググ・Mに比べ、非常に高性能な照準装置と火器管制システムを搭載していた。このため、ビームライフルによる射撃能力が非常に高く、ゲルググ狙撃型とも呼ばれていた。性能的にもゲルググ・Mを上回るものの、その反面コストが高いために

生産台数は少なかった。ゲルググはザクと同様でそれ以上の汎用性を持った機体で、最低限のオプション変更で多用な戦術へ対応できるようになっている。高機動型や砲撃支援用などはその一例で、ゲルググは宇宙空間だけでなく地上においての運用も可能であった。事実、数機のゲルググは地上に運び込まれ、最後まで抗戦を続けたアフリカの前線では、陸戦用のゲルググが戦線に参加している。ジオンはこの高性能MSをもつて戦局の巻き返しを図るものの、実戦投入時期の遅さとパイロット不足により戦局を動かすことなく終戦を迎えてしまう。



格闘戦用MS

ザクに変わる次期主力MSとして、ゲルググとコンベティションにかけられたMSとは、格闘戦用に特化された「ギャン」であった。

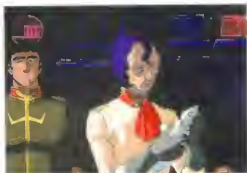
ギャンの機体開発を行ったのはドムを開発したツインマッド社。ツインマッド社は先に行われた次期主力MSが完成するまでの暫定的主力MSを決定するための比較試験で、ジオニック社のザク高機動型(R-2型)を破り、リックドムの採用が決定したこともあって、次期主力MSの開発に心血を注いでいた。ギャンは対MS戦を想定、特に格闘戦能力に主眼が置かれ、専用のビームサーベルを装備していた。このビームサーベルは連邦のMSを含めても最も出力が高いものであった。このほかの武装としては、ミサイルやハイド

MS-15
ギャン

GYAN

ギャン

ポンプ(機雷)を搭載した大型の専用シールドを標準装備。また、ビームライフルの装備も検討されていた。ジオン軍は次期主力MSへの要望として「ビーム兵器が携帯可能であること」をあげていた。これは連邦のMSガンダムがビーム兵器を標準装備としていたため、これに対抗させることが目標とされたのである。ギャンとゲルググのコンベティ



↑テスト用に開発されたギャンの機体はマ・クヘ大佐の元に届けられ、マ・クヘ専用のMSへとカスタマイズされた。



↑汎用性が低いと言われたギャンだが、それでもザクと同じように重力下と宇宙空間の両方で操る機体である。

ションでは白兵と格闘に主眼が起かれ、高い運動性を誇っていたギャンであったが、汎用性の高いゲルググが正式採用となっている。そして後に残されたギャンの試作機は、マ・クヘ専用に改造され実戦へと投入された。ギャンはコンベティションに破れてしまったものの、その白兵戦能力の高さは目を見張るものがあり、ギャンの発展型を開発するため

MS-15
SeriesMS-15S
ギャン(リナバル・ガート専用機)MS-15S
ギャン(ランバル・ラル専用機)MS-15S
ギャン(リビア・ノスナナル専用機)RMS-117
ガルバルディIIMS-17
ガルバルディα

兵器の発展 if 版 ギャンバリエーション

次期主力MSのコンペティションでゲルググに破れてしまったギャンだが、ゲーム内ではギャンを次期主力MSに採用することも可能である。設定は以下の通りになっており、ゲルググと同じように専用機の開発も行える。

「ギャン初期生産型」は、シャア・アズナブル、ランバ・ラル、アナベル・ガトーといった、ジオンのエースパイロットたちへと優先的に配備されていく。このため各個人用の専用機が生まれたが、この初期生産型には運用データを採集するという目的もあった。そしてこの運用データを基に「ギャン（量産型）」が開発される。この機体は初期生産型の特性である対MS格闘能力をそのまま受け継いでおり、高い戦闘能力を誇った。ギャンのバリエーションはこの機体に留まらず、「ギャン高機動型」が存在する。この機体は機動力の向上を重点に

おいた設計がなされており、背部に高機動型のバックパックを装備し、従来機を超える加速性能を持つことに成功している。また、機体各所にアポジモーターを増設したことで、空間戦闘での運動性も飛躍している。ジェネレータには新開発の高出力タイプを搭載することで、量産型のビームサーベルよりも高出力なビームランスを標準装備とすることに成功している。また、両前腕部にはガトリングをマウントさせることが可能なため、ギャンの欠点とも言えた射撃能力を補うこともできた。この機体は、ジョニー・ライデン、シン・マツナガ、黒い三連星たちの専用機としても開発されている。さらに砲撃支援用として開発されるのが「ギャンキャノン」である。

ギャンキャノンは、ギャンの射撃能力の欠如という問題に対応すべく開発されており、背部に炸薬式のキャノン砲2門と、腕部にロケットランチャーを装備している。ミサイルシールドは廃止され、その代わりに装甲を強化。このため運動性や機動性は低下してしまったが、支援用としては十分な働きを見せる機体となった。

ベズン計画へと組み込まれる。そして開発されたのが「ガルバルディア」であった。ギャンの格闘戦能力をそのまま受け継ぎつつ、ビームライフルを装備したその機体は、ゲルググに匹敵する性能を引き出すことに成功している。しかし、量産されない

まま一年戦争は終戦を迎えてしまった。終戦後、連邦軍ではベズン計画によって開発されたガルバルディアを受け取り、全面改修させた機体を生み出している。この機体は、軽量化することで運動性と機動性の強化が図れ、元々局地戦を想定して設計さ

れた機体のため、運動性能は同時期に開発されたハイザックよりも高かった。しかし、装甲などは薄く装甲の素材に関しても戦後開発されたものにも関わらず旧世代のものであった。そのため防御力は極めて低くな



MS-158
高機動型ギャン



↑ジオンが連邦に勝利していた場合、このようなことが起こり得たかも知れない。戦線用ではなくあくまで展示用と思われる。



MS-158

MS-158

MS-158

MS-15C

MS-15A

MSM-07
ズゴック

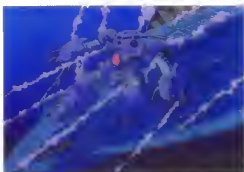
水陸両用MS

ジオン軍では一年戦争開始前から地球侵襲作戦における海洋制圧が重視されていた。しかし、コロニー国家であるジオンにとって、広大な海洋は未知なる存在であった。このため水陸両用MSの開発はコンピュータのシミュレーションにより得られるデータを用いて実際の機体を製作するという形がとられている。当初、水陸両用MSはザクⅡ系が開発されることになっていたが、ザク・マリントップでは軍が提示するスペックを満たすことができなかったため、新規で水陸両用MSが開発されることになる。ザク・マリントップには新たなMSM-01の形式が与えられ、これ以降でM（マリン）シリーズは生み出されて行く事になる。Mシリーズの2番機となったのが

水陸両用

AMPHIBIAN
M Series

「水中実験機」である。これはザク・マリントップのデータを基に開発が行われたが、この機体も軍の要求に応えるレベルは満たせなかった。Mシリーズにとって初の制式採用であり単産型となるのが「ゴック」である。この機体は陸上での行動時、間が制限されていたものの、海水を利用することで熱核反応炉を冷却することが可能であり、ジェネレータは高出力なものを装備することができた。そのため、メガ粒子砲を搭載できた機体でもあった。その後、ゴックに続いて「アツガイ」も開発される。この機体にはザクⅡと同じパーツが多数流用され、ジェネレータに関してはザクⅡと同タイプのものを2機搭載することで比較的高い出力を維持した。しかし、メガ粒子砲までは搭載できず大量生産されるには至らなかった。水中での運動性能は決して高くない機体だったが、廃熱度が低かつたため装甲などに手を加えてステルス性が高められ、隠密行動や偵察任務へと使用された。



↑一年戦争後期になってから開発されたズゴックE 水陸両用としては、その性能は申し分ないほど優秀な機体であった

アツガイは制式生産されることはなかったが、次に開発された「ズゴック」は制式採用の機体である。水陸両用MSとしての中でも陸上での機動性が高く、対MS格闘戦を得意とした機体であった。また、ゴック同様高出力のジェネレータを搭載しており、両腕にはメガ粒子砲を固定装備している。この機体には指揮官用の「ズゴックS型」もあり、シャ

MSM-05
アツガイMSM-04N
アツガイMSM-04G
ジュエッグMSM-04
アツガイMSM-03
ゴック



ア専用のスゴックも存在した。
なおスゴックは、後期生産の機体
はすべてS型に切り替えられている。
水陸両用MSはその後も開発が
続けられ砲撃戦を主体とした「ソック」
が開発される。その外見はMS
というよりもMAといった趣で、陸
上での移動は熱核バキューニットで
行った。特徴であるその武装は、前
後方向に4門づつ、さらに頭部にも
1門のメガ粒子砲を搭載していた。
一年戦争後期には、以前開発され
た機体を再設計したタイプが開発さ
れる。「スゴックE（エクスペリメ
ント）」は、水中と地上の両方で性
能が高められた機体であり、巡航性
能や陸戦での火力が高い。「ハイゴ
ック」はゴックを再設計した機体で、
主推進器の配置などが変更されゴッ
グとはかなり異なる機体で、その性
能面も高く評価されている。

ジャブロー攻略

天然の地下空洞を利用し、その厚
い岩盤に守られた連邦軍の本部ジャ
ブロー。この難攻不落の要塞をブリ
ティッシュ作戦のコロニー落として
攻略できなかったのが、ジオン軍に
とって大きな誤算であった。

ジオンではその後もジャブロー攻
略のため、いくつかの計画を立案し
ているが、その計画のひとつに、ジ
ャブロー攻略用MSの開発があつた。
これら機体はアッグの開発
途中で生まれたMSで、アッグシリ
ーズと呼ばれており、それぞれの機
体が白兵戦用、砲撃支援用、岩盤掘
削用として開発されている。

「アッグガイ」は白兵戦用MSと
して開発された機体で、両腕にはヒ
ートロッドを3本装備している。こ
のタイプを標準機とするが、なか
にはスゴックと同じ格闘用クローを装
備した機体も製作されていた。「ジ
ュアアッグ」は両腕に三連ロケット砲
を装備した砲撃支援用MSであつた。
砲撃戦を主体とした戦い方をす
る機体であったが、ゴック並みの重
装甲を持っていたために腕部を格闘
用アームに換装させることもでき
た。岩盤探掘用に開発されたのが
「アッグ」である。この機体は戦闘

用でなく、ジャブロー攻略時に突入
用のトンネルを掘る役割を担ってい
たが、なかにはミサイルボッドなど
の武装を施した同型機も存在した。
ジャブローを攻略するために開発
された機体はほかにもあり、格闘戦
用の「ソゴック」がある。こちらは
水中での機動性を犠牲にして、陸上
での運動性を大幅に向上させてい
る。格闘戦へと特化させたこの機体
は、アッグシリーズと共同戦線を張
るために同時期に開発されている。
ただし、これらの機体はジャブロー
攻略のため開発されたものの、実
際に使われたかどうかは不明であ
る。



↑ジャブローを攻略することを命題にして開発されたアッグシリーズ。どの機体も目的のために特化された機体である。



MS-18E
ガンフラー

規格外MS

一年戦争時、ジオン軍はさまざまなMSを開発し戦線へと投入してきたが、その中には既存のMS群とは異なる機体も存在した。そのMSをひとつのカテゴリーに分類し、局地戦型MSを開発する計画がベズン計画である。この計画はアクトザク、ベズンドワッジ、ガルバルディアといった高性能なMSを生み出したが、このほかにも「ギガン」や「ガッシャ」といったMSが存在した。ギガンは対空防衛用として頭部に180ミリ砲を装備、脚部はなく三輪の走行ユニットと4基のスラスターによって移動する機体で、ガッシャは汎用MSにズゴックのコンセプトを導入した機体であった。また、ベズン計画とは別に開発された機体も存在する。「サメル」と呼ばれるM

その他

OTHERS

特殊MS

Sは、中・長距離支援用として開発されたMSであった。非常に大型の機体であったが、熱核ジェットエンジンを利用したホバー走行により移動砲台として使用された。「ケンプファア」は強襲用MSとして大戦末期に開発された機体である。全身に配置された姿勢制御バーニアと大推力のスラスターによって獲得した機動力を活かし、一撃離脱戦法を得意とした機体であった。しかし、プロバントの使用が激しいため戦闘持続時間は他のMSより短かった。その欠点を差し引いても優秀な機体であったが、開発が終了してすぐに一年戦争も終結してしまい脚光を浴びることはなかった。「イフリート」と呼ばれるMSはその形式番号から察するようグフとドムの中間に位置するMSである。MSの開発は、本国やグラナダで行われていたが、この機体は地球進攻部隊内で開発されていた。このイフリートをベースに「イフリート改」が開発されるが、頭部にEXAMシステムと冷却装置

MS-08TX (EXAM)
イフリート改

を搭載しなければならず、頭部が非常に大型化してしまった。ベースとなったイフリート自体、機動性と運動性の高い機体であったが、EXAMシステムの搭載によってさらに上をいく性能を持たせることに成功。MSの開発は一年戦争後も続けられているが、その中にはジオンの残党であるデラーズ・フリートが独自に開発したMSもあった。「ドラッツエ」はザクⅡの機体を流用し製作されており、宇宙戦での機動性を重視するため肩部にスラスターポッドを装備している。脚部はスラスター兼プロバントタンクで、MSというよりはMAに近い形状であった。

MS-21C
ドラッグエYMS-18M
サメルMS-13
ガッシャMS-12
ギガンMS-08TX
イフリート

ジョオン軍が開発した巨大人型兵器であるMSザクは、連邦とジオンの圧倒的な物量差を覆すほどの戦果をもたらした。ジオン軍は電子戦を無力化するミノフスキー粒子を散布することで、砲撃戦を主軸とした連邦艦隊を初戦にて敗走させたのである。有視界戦闘を可能にするMSは、艦隊決戦という旧来の戦術を過去の遺物としてしまったのだ。

事態を重く見た連邦軍では捕獲したザクを研究材料に、MSの開発とその運用のための新造戦艦建造を目的としたV作戦を発動させる。その中で白兵戦用MSとして開発されたのが「ガンダム」である。

ガンダムは試作機であるがゆえ、当初より生産コストを度外ししての開発が行われた。高価な新装甲素材



↑ビームライフルやビームサーベルなどのビーム兵器を携帯することに成功している。



↑新素材であるルナチタリウム合金を装甲素材として利用しているため高い耐久性を誇る



連邦初のMS

ルナチタリウム合金の採用、画期的な新技術であるエネルギーCAPと高出力ジェネレータを搭載することにより、MSとしては初のビーム兵器を携帯するなど、その性能は極めて高かった。汎用MSとして開発されたため柔軟な運用も可能で、宇宙はもちろん重力下、さらには大気圏突入能力をも有していた。また、教育型コンピュータの回収とパイロットの生存率を高めるため、コクピット兼脱出装置としてコアブロックシステムが採用され、ガンダムから得た実戦データは後に開発される量産機へと反映されている。

V作戦によって開発されたガンダムには、同系機が存在する。一年戦争において多大な戦果を上げたアムロ・レイが搭乗したガンダムとは、ガンダムタイプと

ガンダム

GUNDAM

RX-78 Series

先行量産機

RX-79(G)
ガンダム(マリンガン)

地上でのジオン占領地域をこれ以上拡大させないために、連邦軍では早急にMSに対抗する兵器を投入させる必要があった。そこでジャブローでは完成したガンダムの実用データを待たずして「先行量産型ガンダム」の生産が開始された。この機体はガンダムタイプの機体試験の追試と、パーツ類の耐久試験およびMS全般における量産試験を兼ねた機体でもあった。先行量産型ガンダムはRXシリーズの製作過程で生じた余剰パーツなどにより製造されていたために個体間での性能差が大きく、リミッターを設けることで性能の安定が図られた。また、コアブロックシステムこそ採用されていなかったが、ジェネレータなどはRXシリーズのもの流用しているため、ガンダムと同等のスペックを有していた。

EXAMシステム

ジオン軍から亡命してきたクルスト博士が開発したEXAMシステムは、NTと同等の高い戦闘能力を持つコンピュータシステムである。当初、先行量産型ジムに搭載されて実験機となるが、その機体性能がシステムに追いつかず、実験機は先行量産型ガンダムへと変更されることになる。そこで開発されたのが「ブルーティスティニー」であった。1号機は実験機とされ、EXAMシステムを搭載していた先行量産型ジムの頭部だけをそのまま流用し、運用テストは陸戦仕様で引き続き行われて



↑ EXAMシステムを搭載したブルーティスティニー1号機はユウ・カジマのもとへと配備され運用テストが行われた

いた。しかし、ジオン軍で同じEXAMシステムを搭載しているMS「フリート改」と戦闘し、その結果相打ちとなりフリート改は破壊、1号機はEXAMシステムの搭載された頭部が破壊されてしまう。続く2号機は最初から先行量産型ガンダムの機体とEXAMシステムが搭載され、宇宙仕様としてテストが行われる予定だった。しかし、クルスト博士を追うジオン軍の手によって基地が強襲に遭い、2号機は奪取され宇宙へと運び去られてしまう。それまで予備パーツとして考えられていた3号機は、奪い去られた2号機の奪還、もしくは破壊することを目として実戦へ投入される。なお、開発された3機の基本性能は、仕様が異なるだけで変わらないが、1号機と2号機はクルスト博士の趣味で機体色はブルーとされていた。

RX-79BD-3
ブルーティスティニー3号機RX-79BD-2
ブルーティスティニー2号機RX-79BD-2
ブルーティスティニー2号機RX-79BD-1
ブルーティスティニー1号機RX-79(G)E-8
ガンダムEz8RX-79(G)
ガンダム(ガンダム)

発展・強化



ガンダムはその開発計画の段階から FSWS、またはフルアーマーオペレーションという計画が動いていた。これはガンダムの戦闘能力を最大限に発揮させるため、簡易装着型の武装、装甲、高機動スラスターやプロペラントユニットを装着、さらにキャノン砲と大出力ビームライフルを装備するという計画であった。この計画から「フルアーマーガンダム」の開発が進められたが、ガンダム最大の武器である運動性の低下を引き起こすとされ、この計画は中止となった。続いて計画された「ヘビーガンダム」は、増加装甲案と異なり母体であるガンダムを直接改修する案であった。しかし、この機体についても必要性が疑問視されたため、完成するには至っていない。

ガンダムを強化するという計画の

兵器の発展 if 版

赤と黒のガンダム

赤いガンダムと黒いガンダムは史実には登場せず、ゲーム内のみ出現するガンダムである。

赤いガンダムはネオジオンを立ち上げたキャスバル（シャア）専用のガンダムで、そのため彼のパーソナルカラーである赤が全身に塗装されている。シャアの能力を最大限に発揮できるように、機動性や運動性を重点的に高めた機体となっている。また、黒いガンダムはジャミトフによって設立されたティターンズで生産することができるとされるガンダムである。機体のカラーリングは、後にティターンズカラーと呼ばれる黒で塗装されている。

開発時期が通常のガンダムより後期となるため、双方ともオリジナルを超える性能を誇る。



RX-78(TITANS)
ガンダム・ティターンズ仕様



RX-78C.A
ガンダム (キャスバル・シャア・タイタン専用機)

ほかに、ガンダム自体を新たに再設計するという計画も存在した。地上仕様の「ガンダムビクスリー」は、白兵戦用へと特化させた機体であった。地上での瞬発力はガンダムを超える性能を有し、重力下ではガンダム系最速を誇る機体となった。NT専用「アレックス」はNTと喝されるアムロ・レイのために開発された機体で、マグネットコーティングなどにより機体の反応速度や追従性が高められている。そしてこの機体には新技術である全天周囲モニターも採用されていた。また、FSWSの産物とも言える追加装甲チヨバムアーマーを装着させること

も可能であった。その際、全重量は増えるが、アーマーにスラスターが装備され機動性の低下を補っていた。ガンダムビクスリーとアレックスの両機体はアムロ・レイへと届けられるはずであったが、ガンダムビクスリーはオデッサ作戦前に、アレックスはア・バオア・クー作戦直前に破壊されてしまい、結果的にアムロのもとへ配備されることはなかった。水中仕様のガンダム「水中型ガンダム」はガンダムを再設計したのではなく、水中用MSのアクアGMをエースパイロット用に改修した機体であったが、頭部がガンダムに似ていたためガンダムの名がつけられた。



RAG-78-G1
水中型ガンダム

FA-78-2
ヘビーガンダム

FA-78-1
フルアーマーガンダム

RX-78XX
ガンダム・ビクスリー

RX-78NT-1
ガンダムNT-1・FA

ガンダム開発計画

ガンダム開発計画は一年戦争終結後に行われた計画で、一年戦争で多大な戦果をあげたガンダムのように、高性能の次期主力MSを試作することが目的であった。計画は連邦がアナハイム・エレクトロニクス社に開発を依頼する形で進められ、GPシリーズとしてそれぞれが最強のMSを目指して開発が行われた。

ガンダム試作1号機（ゼフィランサス）／（フルバーニアン）は、MS単体の機動性と運動性を追求した機体で、人間に近い動作パターンの実現を目標に開発が行われている。



↑ガンダム試作1号機はガンダムの高い汎用性を向上させるため、重力下装備と無重力下装備を換装する形がとられている。

兵器の発展 if 版

ガンダム試作4号機

ガンダム計画によって生まれたガンダムは三種であり、4体目にあたるガンダム試作4号機は、その姿を変えガーベラ・テトラとしてデラーズ・フリートで運用されている。しかし、ゲーム内では「ガンダム試作4号機（ガーベラ）」と言う名で、ガンダム開発計画の一端を担うMSを連邦系の陣営にて開発することができる。この機体はガーベラ・テトラと同様に、白兵・格闘戦が主体に置かれている。また、ジオン系ではガーベラ・テトラをさらに改造し強化させた機体「ガーベラ・テトラ改」を開発することも可能である。この機体はガーベラ・テトラの機動性と加速性を高めた機体である。



AGX-04
ガーベラ・テトラ改



RX-78GP04
ガンダム試作4号機・ガーベラ

また、搭乗システムも新型コアファイターによる新構造のコアプロックシステムが採用されていた。ガンダム試作2号機（サイサリス）は、最強の機動兵器に最強の戦略兵器を組み込んだ機体で、ジオン系の技術がベイスになっていた。背部に核バズーカを一基装備し、核攻撃時は自らも爆心地に近いところにいることを前提として開発されており、そのため機体には耐衝撃と耐熱処理が施されていた。

ガンダム試作3号機（デンドロビウム）はMSとMAの能力を併せ持った機体であった。ガンダムタイプのMS部（ステイメン）と、重武装

およびMS携帯武器を装備収納したコンテナ部にあたるアームドベイス（オーキス）から構成される巨大な機動兵器であった。

また、ガンダム試作4号機も開発されていた。しかし、開発コンセプトが1号機と一部重複するため開発は中止される。だが、外装を変更しガーベラ・テトラとしてデラーズ・フリートへと引き渡されている。

これらのガンダムはデラーズ紛争のうちに登場した機体であったが、デラーズ紛争そのものが公式記録から抹消されたため、この紛争に関係するガンダム開発計画もまた公にされることはなかった。



兵器の発展 if 版 ガンダムMK-II

ティターンズによって開発されたガンダムMK-IIは、史実では三機が同時に開発されていた。しかし、ゲーム内ではこの機体の前身とも言える「プロトタイプガンダムMK-II」を開発してからMK-IIを開発することになる。

また、史実では開発された3機のMK-IIがすべてエウゴに強奪されてしまい、ティターンズではこの機体を強化させるような研究はおこなっていない。だが、ゲーム内ではティターンズが独自にGディフェンサーを開発し、このGディフェンサーとティターンズカラーのMK-IIを合体させることでスーパーガンダムとして運用することも可能である。



FXA-178
MK-IIディフェンサー



RX-178-XO
プロトタイプ・ガンダムMK-II

連邦軍再建計画の一環として立案されたガンダム開発計画は、デラーズフリートの星の肩作戦を促進し、ガンダム試作2号機強奪以降に起きた一連の事件は、結果としてティターンズの設立を後押しした形となる。ティターンズはジオン軍の残党狩りを主任務とする、地球圏の平和を維持するための特殊部隊として設立された。この部隊ではMSを開発するための施設を独自に有しており、次世代の新型ガンダム「ガンダムMK-II」はここで生まれることとなる。この機体は連邦系の技術者のみに

新型ガンダム

より、ガンダムの正統後継機として開発された。ムーバブル・フレームを初めて本格採用した機体でもあり、画期的な運動性を誇っていた。しかし、この新型のガンダムはエウゴによって強奪されてしまう。この事件がグリプス戦争の直接的なきっかけとなり、連邦軍の内部抗争を一気に武力戦争へとエスカレートさせてしまう結果を招いている。

また、連邦内においてのガンダムタイプMSの開発は、ティターンズだけで行われていたわけではない。NT研究機関であるムラサメ研究所では「サイコガンダム」が開発されている。しかし、この機体は形状こそガンダムだが、基本的な設計コンセプトはジオンのサイコミュ搭載機であるジオングであった。また、このNT専用可変巨大MAのパイロットは、ムラサメ研究所の強化人間で、その機体にはサイコミュシステムが取り入れられていた。機体各所には強力な火器を搭載し、ビーム兵器を無効化するフィールドジェネレーターも装備している。そしてMA形態時にはミノフスキークラフトによる飛行を可能とした。

さらにグリプス戦争後期には、サイコガンダムの発展型となる「サイコガンダムMK-II」が開発され、実戦へと投入されている。



↑ティターンズが開発した機体であったため当初の機体色は黒であった。しかし、エウゴに奪れたため白に塗り替えられた



Z計画

反地球連邦政府組織エウーゴでは、ティターンズの台頭に対抗するために連邦軍内外に協力者を求め、アナハイム・エレクトロニクス社の協力を取り付けるまでにごぎつた。そこでエウーゴは同社と共同で次世代の超高性能MSを開発すべくZ計画を発動させる。この計画によって求められた機体とは、汎用性が高く複数の戦術に広く対応できるMSで、従来のMSを超えるスペックが要求されていた。そのためには複数の作戦を同時にこなすことができる可変MSの技術を、なんとしても入手しなければならなかった。このZ計画の開発期間には、副産物とも呼べるMS「百式」が開発されている。Z計画自体が次世代のガンダムを求め開発されていたこともあり、金色に塗装されたこの機体もまたガンダム系と言えるMSであった。百式は当初、次世代高性能MSの設計候補案のひとつであったが、予定されていた可変機構においてムーバブル・フレームの強度に欠陥が見つかり、設計案としては不採用となってしまう。しかし、その潜在的ポテンシャルが優秀だったため、非変形型MSとして再設計し直し開発された



機体である。百式の可変機構導入の失敗もあり、次世代高性能MSへの可変機構導入は見送られるようになっていくが、エウーゴがティターンズからガンダムMK-IIを強奪してから事態は急変する。ガンダムMK-IIは第2世代MSにも達している機体であったが、使われているムーバブル・フレームからは斬新な設計思想と技術が入手できたのである。カミーユ・ビタン発案による可変MSのプロットが検討され、可変MSの開発は可能であると判断される。その検証としてガンダムMK-IIの大気圏突入用オプション、「フライングアーモア」が開発されて大気圏突入の実験が行われた。そしてジャブロー攻略戦後にはすでに開発されていた試作機をベースに、ウェイブライダーへの可変能力を持つ「Zガンダム」を完成させることができた。Zガンダムは宇宙空間から

重力下まで連続して運用できる破格の汎用性を持つ機体であった。ウェイブライダー形態での大気圏突入能力を持ち、さらには大気圏内においてもサブフライトシステムで飛行させて運用することも可能であった。このMSが開発できたのには、必要とされた技術がすべて蓄積していたことが功を奏している。軽量かつ堅牢な材質であるガンダリウム・Y。可変機構に必要な不可欠なムーバブル・フレーム。そして、開発を可能とさせる資金力や政治的要請までもが整っていたからこそ、短期間でこれだけ優れたMSが完成したのである。武装はビームライフル、ビームサーベルはもちろんだ、大出力のハイメガランチャーの使用も可能であった。後にパイオセンサーが搭載され、機体の追従性は飛躍的に高まっている。



V作戦によって開発された長距離支援型MS「ガンタンク」は、歩行システムが完成する以前に開発されたためキャタピラで走行した。このためMSと言うより戦車に近い機体となっている。このガンタンクには量産機の「量産型ガンタンク」と発展型の「ガンタンクⅡ」が存在し、ガンタンク同様に長距離支援型MSとして実戦へと投入された。

RX-75
ガンタンク

長距離支援型

RX-77-2
ガンキャノン(キャノン型)

支援

SUPPORT

RX-75・77
Series

中距離支援型



1 白兵戦での評価は当然のことながら低かったが、砲撃戦においては無類の強さを誇ったガンタンク型とガンキャノン型。

V作戦によって開発された三機種の中の二機である「ガンキャノン」は、機動性と運動性においてガンダムに劣るものの装甲が厚いため防御力は高かった。開発当初はビームライフルの装備予定はなかったが、ジェネレータに余裕があったために装備されている。砲撃戦用機としては

比較的優秀な実戦結果が得られたため少数ではあるが量産に移され、さらに発展型も生み出されている。「ガンキャノン重装型」はコアプロックシステムを廃止し、両肩のキャノン砲をビームキャノンに換装させた機体である。これをもとにさらなる発展型として「ガンキャノンⅡ」が開発され、この機体では命中精度に問題のあったビームキャノンのひとつを照準センサーへと変更させることで射撃能力が高められた。

また、ガンキャノン型には「ガンキャノン量産型」と呼ばれる量産機も開発され、支援機として高い評価を受けた。

RX-77D
ガンキャノン重装型RX-77-4
ガンキャノンⅡRX-77-3
ガンキャノン重装型RX-77
ガンキャノン(アール・ミイカ・ガー)RMV-1
ガンタンクⅡRX-75
量産型ガンタンク



量産型

連邦軍のMS開発はジオン軍に大きく出遅れたため、試作機であるRXシリーズには現時点で考え得るすべての要素を取り入れ開発させている。そして、この試作機から得られたデータをフィードバックさせることで、連邦軍は量産型MS「ジム」を完成させることができたのである。ジムはその生産性を高めるために、コアブロックシステムやそれに伴う教育型コンピュータなどが排除され、装甲材もチタン系合金とされている。その機体性能は低く抑えられ、ジェネレータも低出力なものに換装されているため、出力不足からビームライフルを装備することはできなかった。これにより基本装備はビームサーベル、基と簡易版のビームスプレーガンや90ミリマシンガン

G M ジム

といった銃器へと変更された。ジムの開発コンセプトはガンダムのような万能型ではなく、余分な装備を外した標準的な機体であった。つまり、機体を投入する環境をあらかじめ選択し、不要となる装備を取り外すことで軽量化とプロペラント量の増加を図っている。ジムはガンダムの単なる簡易量産機として評されることが多いが、基本設計が簡易だったのがゆえに後にさまざまなバリエーションが生み出されることになる。

本格的な量産型であるジムが完成する数ヶ月前には、同じ形式番号を持つ先行量産型が開発されている。ジオン占領地域の拡大を防ぐため、各前線ではジオンのMSに対抗できる連邦製のMSが欲されていた。そのため急速に「先行量産型ジム（地上戦用装備）」を開発、生産するようになったのである。この機体はジェネレータを安価で低出力なタイプに換装するなどして、高価なRXシリーズと比べると各所にコスト削減が図られているが、生産ラインは先行



！大戦後期に大量生産されたジムは、連邦の各前線へと配備され「ソロモン攻略戦」「ア・ハオア・クー」の主戦力として活躍。

量産型ガンダムと同一のものを使用したため、先行量産型ガンダムと共通する部分も多かった。特に装甲材はルナチタニウムを使用していることから、後の量産型よりむしろガンダムタイプに近い機体に仕上がっている。この先行量産型ジムの実働データは試作機のRXシリーズ同様、本来の整備計画であるジムにフィードバックされていく。

RGM-79 Series

RGM-79D
ジム軍用仕様RGM-79GS
ジム・コマンド(宇宙戦仕様)RGM-79G
ジム・コマンド(コロニー戦仕様)RGM-79(G)
高機動型ジム(ロケットランチャー)RGM-79(G)
先行量産型ジム(マシンガン)

ジムバリエーション



連邦軍で制式採用されたジムは、ジオンのザクⅡなみのバリエーションを生み出している。

「ジム・コマンド」と呼ばれる機体は、宇宙戦用とコロニー防衛用の2種類が開発されている。性能的には標準機であるジムと大差ない機体だが、それぞれの仕様にあわせた装備を持っている。ジムのバリエーションは、これらの機体のほかに「ジム寒冷地仕様」がある。この機体も環境に適應させた装備をしているだけで、基本的な性能面での向上は図られていない。

ジムは仕様変更によってさまざまな地域で活躍できる機体であったが、スペック的には今ひとつ物足りなかった。特にボールや先行量産型ジムなどで経験を積んだパイロットたちにとっては、その能力を十分に



使いこなせる機体ではなかったのだ。そこで熟練パイロット用に開発されたのが「ジムライトアーマー」と「ジムスナイパーカスタム」である。ジムライトアーマーは、高速一撃離脱戦を行うため、徹底した機体の軽量化で加速性能の強化が図られた機体である。一方、ジムスナイパーカスタムは、ジムの総合性能を向上させるために、ジェネレータ、バックパック、スラスターなどを強化。機動性や照準性能を向上させるためにパイザーの追加等がなされ、主武装にはガンダムと同出力のビームライフルを装備している。このジムスナイパーカスタムについては優秀な戦果が報告されたために、さらなる改良と強化が行われ「ジムスナイパーⅡ」が開発され、高性能化するジオン軍のMSに対抗するため、機体ポテンシャルが限界にまで高められていく。そして、攻撃力、防御力、

機動力、どれをとってもジムシリーズ中、最高性能を誇る機体となった。このほかにも、正確にはガンキャノンの量産型だが、その外見からジムのバリエーションに分類される「ジムキャノン」がある。この機体は高コストで生産性の悪いガンキャノンの代替機として生産された砲撃戦用のMSである。右肩に240ミリキヤノンを一門装備し、そのほかのパーツはコストを抑えるためにジムと同様のパーツを60%使用して製作されている。大戦末期に開発されたため掃討作戦で一定の戦果を上げたが、機体バランスに欠陥が見つかり、後の量産は見送られている。



↑大戦後期に開発されたジムたか、その機体の隔壁から、各地域でさまざまなバリエーション機が開発されている。



新型ジム

一年戦争が終結した後も各地にはジオン残党の勢力が現存しており、戦争の火種は未だ残されたままであった。連邦軍ではこれらの勢力を掃討するために、MSの開発は衰えることなく引き続き行われていくことになる。戦後、最も初期に開発された「ジム改」は、一年戦争末期に開発されたジムコマンドを改良し、全面的に機体と推力のバランスを微調整した機体であった。そして戦後のジム生産ラインはこの機種へと移行され、一年戦争後のジム系列のMSは基本的にジム改をベースに開発が進められていく。ジム改をエースパイロット用に強化した機体が「ジムカスタム」であった。ガンダム系MSであったアレックスを参考に、機体各所にアポジモーターを追加し運動性を向上させ、バックパックもアレックスと同タイプのものへと換装し推力の向上が図られている。また、ジェネレータ出力も通常より高められていることから、ビームサーベルは高出力のものも装備されていた。量産機ではありつつ生産台数は極端に少なかったが、ガンダムタイプに匹敵する性能を持つ機体であった。ガンダム開発計画のために試作

された「パワードジム」は、ジム改をベースにスラスター推力が大幅に引き上げられたパワードバックを背部に装備している。この機体で得られたデータはガンダム試作1号機の重力下仕様へとフィードバックされた。標準機であるジム改の改良が進められていくなか、中距離支援型のMS「ジムキャノンⅡ」も開発されている。この機体は量産が見送られたジムキャノンの改良・量産機だが、ガンキャノン量産型の機体データをフィードバックさせて開発されているため、実質的には名称だけ受け継いだ別の機種とも言える。高出力のジェネレータを搭載したことで、ビームキャノンを2門装備。また、装甲にはアレックスのチョバムアーマー構想が採用されている。これはチョバムアーマーが白兵戦用のMSより中距離支援用MSの方に適しているかと判断されたためである。チョバムアーマーの装着により、ジム改に比べ機動性と運動性はかなり劣るが、火力と防御力は大幅に強化された。ジムカスタム同様、この機体も量産機であるが生産数は非常に少ない。これらの機体は主にデラーズ紛争などで活躍を見せている。このデラーズ紛争後は、ジオンの残党狩りを目的とするティターンズが設



立され、それと同時に新たなジムが配備されることになる。ティターンズ専用MS「ジムクウエル」はジムカスタムをもとに開発され、多少の推力向上がなされているものの、基本的には、機動性、運動性、出力、火力、共に同じ性能であった。後にこの機体のカラーリングはティターンズカラーと呼ばれるようになる。また、連邦全体では「ジムⅡ」が開発され、ジム改に代わる連邦の標準機として考えられていたが、基本性能はあまり向上していなかった。ティターンズの台頭に反発する形で決起したエウゴは、「ネモ」を量産し主戦力としてグリプス戦役を戦い抜いている。このネモはジムⅡの後継・発展型として開発された機体だったため、その基本性能は他の量産型であるジムⅡやハイザックよりも遥かに優秀な機体であった。



大型機動兵器

MSはあらゆる戦術に対応する高い汎用性を見せたが、戦局が進展し局地戦が多用化するようにになると、汎用兵器であるがゆえにさらなる状況への対応が望まれるようになった。この解決策として、局地戦対応のMSを開発しつつ、新たな支援兵器を生み出すことが検討されていた。

そこで再浮上することになったのが、開戦当初に廃案となっていたMA案であった。研究対象にはM1P社が製作した、宇宙ボッドと戦闘機を融合させた機体を用い、MAの開発は着々と進められていった。そして、ジオン軍は新たな兵器として「アッザム」を実戦へと投入する。この機体はMAという概念が確立するより前に製作された移動重機関砲



全領域汎用支援火器

MOBILE ARMOUR

MA Series

座であった。移動式対地攻撃が可能でなG77ルナタンクを地上用に改修し、ミノフスキークラフトである程度の機動性を確保。武装にはメガ粒子砲2門と、高周波による高熱で敵にダメージを与える特殊武装アッザムリッターを装備していた。

MAは局地戦用に開発された兵器であるため、水中用のMAなども存在した。「グラフロ」は水陸両用のMSと平行して開発が進められた水中用MAである。その火力と機動力は水陸両用MSを遥かに凌ぎ、航続距離は潜水艦に匹敵、対艦攻撃の際には両腕のクローを駆使して接近攻撃を仕掛けることも可能であった。なお、その艦首にはメガ粒子砲を装備する予定もあつたという。

アッザムやグラフロといった機体は重力下での運用を考えられていたが、MAには宇宙戦用の機体も存在している。「ザクレロ」はMA開発計画の初期から開発されていたものの、軍が要求する運動性と加速性を機体が得られなかったため途中で開



↑MAのなかで最も完成された機体であるビクロ この機体は「ア・バオア・クー攻防戦」においても数戦が活躍している

発は放棄されてしまう。軍に制式採用された宇宙戦用のMAは「ビクロ」である。その原型は開戦前に行われた新兵器コンペティションでM1P社が提案した、宇宙戦闘艇にAMBAC作動肢を装備した機体であった。MAとして完成された機体であったこともあり、最も多く生産されている。このビクロの発展型が「ヴァル・ヴァロ」で、ビクロを全面的





↑アニア方面で開発されたアブサラスⅢ。本来の目標であったシャブローを攻略することはできないまま破壊されてしまった。

に改装し、特殊武装としてアツザムリーダーの開発型であるブラズマリジョン軍が開発したMAの中で、最も巨大で最大級の攻撃力を誇ったのが「ビク・サム」である。戦艦を一撃で沈める大型偏向メガ粒子砲1門と、小型メガ粒子砲28門を装備。さらにはビーム兵器による攻撃を無力化するフィールドジェネレータも搭載していた。攻撃力と防御力ともに申し分なかったが、高出力のジェネレータを4基必要としているため冷却が間に合わず、稼働時間は20分以下と極端に短いものであった。ビグザムはジャブローへの直接攻撃を

想定して設計が行われ、量産の計画も存在していた。数あるMAだが、その機体のほとんどは試作型であるため形式番号さえ与えられなかった機体も存在する。「アブサラス」は1号機から3号機まで開発された機体であるが、試作機ゆえに形式番号を持っていない。アブサラスの開発は、連邦軍本部ジャブローを落とすための計画のひとつで、ミノフスキークラフトを利用して宇宙から侵攻、降下してジャブロー基地を高出力メガ粒子砲で硬い岩盤ごと破壊することが目的とされていた。1号機と2号機は実験機としてデータを収集し、そのデータを基に3号機「ア

ブサラスⅢ」は完成している。しかし、開発時期が遅かったためジャブロー上空に浮かぶ事はできなかった。また、オーストラリアに配備された拠点防衛用MA「ライノサイノス」も形式番号のない試作機体であった。一年戦争後に開発されたMA「フイエジール」は、小惑星アクシズに逃げ延びた旧ジオン軍の技術者たちによって製作されている。大出力のジェネレータを搭載し機体各所にメガ粒子砲を装備。さらにフィールドジェネレータも搭載されていた。この機体はデラース紛争の際、アクシズ先遣艦隊の手によってデラース・フリートに手渡されている。

兵器の開発 if 版

専用MA

史実には登場しない個人専用のMAがゲーム内には2機登場する。「Gジェネレーション」が初出となる「ノイエ・ジールⅡ」と、「ジオンの系譜」のオリジナルMA「ビグ・ザム（ザビ家仕様）」である。ノイエ・ジールⅡは、ノイエ・ジールの発展型MAで、シャア専用機として出現する。サイコミュを搭載しファンネルを装備したこの機体は、アクシズでのみ開発が可能なMAである。ビグザム（ザビ家仕様）は、ジオンから新生ジオンとして独立したガルマやドズルなどのザビ家専用機である。通常のビグザムを上回る攻撃力を誇り、新生ジオンの象徴とも言えるMAとしてゲーム内にあらわれる。



MA-0026
ノイエジールⅡ



MA-085
ビグ・ザム (ザビ家仕様)



MA-002
ノイエジール



ライノサラス



アブサラスⅢ



アブサラスⅡ



アブサラス



可変MA

連邦軍は、ジオン軍から接収したデータからMAの開発技術を得ることとなる。そして従来のMAに新しい技術を組み込み進化させたのが可変MAであった。ジオン軍が生み出したMAは、極めて高い局地戦能力を誇ったが、人型MSほどの汎用性はなかった。そこでMA形態からMS形態への可変機構を組み込むことでその欠点を補おうとしたのだ。

連邦軍が最初に着手したMAは、大気圏内で航空能力を持つ機体の開発であった。「アッシュマー」はMA形態を円盤状のリフティングボディとし、戦闘機なみの航空能力を持たせることに成功、その形状ゆえに耐弾性も高かった。しかし、携帯武器がビームライフルのみであったため、攻撃力が問題視されて新型機の

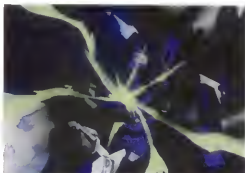
可変

TRANSFORMABLE

TMA・TMS

開発が行われた。「ギャブラン」はアッシュマー以上の運動性と火力を持つ機体で、両腕に装備されたアクティブスラストユニットによって機首方向を変えることなく急激な方向転換が可能で、その機動性は極めて高いものとなっている。本来、この機体は宇宙用として開発されていたため、大気圏内では長時間の飛行ができず、長距離を移動する際にはブースターを使用することが必要不可欠であった。また、このギャブランはNT研究機関のオーガス研究所が開発した可変MAであった。以降、NT研究機関では可変MAにサイコミュを組み込んだ機体が開発されていく。それがムラサメ研究所の「サイコガンダム」で、オーガス研究所の「バウンドドック」であった。MA形態時には圧倒的な防御能力と加速性能を、MS形態時には優秀な近接戦闘能力と運動性を発揮してみせた。サイコミュが組み込まれたこれらの機体は一般パイロットにも操縦は可能だったが、機体性能を最大

限に発揮するには強化人間やNTを搭乗させなければならなかった。また、連邦軍とは関係なく独自に可変MAを設計したバブティマス・シロツコは「メッサーラ」を開発している。木星圏の大重力に対応し大型スラストを搭載したこの機体は、内蔵されたメガ粒子砲により長距離攻撃が可能なおうえ、MS形態に変形することで近接戦闘も行えた。



↑長距離からの射撃が可能なおうえ、近距離では白兵戦用として機殻。対MS用の機動兵器として非常に優秀な機体である。

ORX-005
ギャブラン (MA形態)ORX-006
ギャブランNRX-044
アッシュマー (MA形態)NRX-044
アッシュマーPMX-000
メッサーラ (MA形態)

可変MS

可変MAで培われた可変技術をMSへと転用させることは、決して難しいことではなかった。ムーバブル・フレームは変形機構と関節駆動機構を兼ねていたため、大型機から小型機へスケールダウンするだけで可変MSの開発は可能だったのである。可変MSが本格的に戦場へと投入され始めたのはグリプス戦役からで、この時代では数多くの可変MSの姿を確認することができた。

グリプス戦役に参戦したティターンズ、エウーゴ、アクシズの各陣営では、それぞれが可変MSを開発し戦力として投入している。

可変MSを最初に取り上げたのはアクシズであった。彼らは小惑星を要塞として建設するために、大量の作業用MSを必要としていた。そこ

RX-139
ハンブラビ

で開発されたのが「ガザA」と「ガザB」であり、非戦闘用MSで戦闘能力こそないが、可変能力を持ち合わせて作業効率を高めていた。そして、これらの機体をもとに戦闘能力を持たせた「ガザC」が開発される。ベースが作業用であったガザCは、MS形態時にはビームサーベルを装備しているものの格闘戦能力は低く、MA形態時にも砲台の機能しか持たない機体である。一見、何の価値も見出せない可変MSだが、その真価は集団での砲撃によって発揮される。MSとしての機動力と、MA時は大型ビーム砲台としての攻撃力をもつガザCは、戦闘空域に素早く展開しての一斉砲火が可能であったのだ。

連邦軍及びティターンズでは、可変MAの技術をそのまま可変MSへと導入し「ガブスレイ」と「ハンブラビ」を開発した。ガブスレイは可変MAをすでに完成させていたシロツコに協力を求める、彼主導のもとに開発は行われている。MA形態時は装甲が前面に移動し、全身のスラスターが後方に集中し、耐弾性と機動性が共に向上する。変形時に露出する脚部のムーバブル・フレームはクロームアームとして使用可能で、MA形態時においても高い接近・格闘戦能

力を持つている。他の武装では、長射程のフエンドーライフルや可動機構を持つメガ粒子砲と充実しており、長・近距離共に高い格闘能力を持つ。ハンブラビは連邦が独自に開発した機体で、ティターンズに制式採用されている。機体各所に装備されたスタビライザーによって高い運動性を持ち、MA形態時でも腕部の自由度が高いため、近接戦闘において高い戦闘能力を発揮した。

エウーゴではZ計画によってZガンダムを開発し、その性能はグリプス戦役において最も優れた機体と言わしめた。

なお、これらの可変MSはグリプス戦役を代表するMSであると同時に、第三世代MSとも呼ばれている。

AMX-093
ガザC (MA ver.)NRX-055
ハンドドッグ (MA ver.)NRX-055
ハンドドッグRX-139
ハンブラビ (MA ver.)RX-110
ガブスレイ (MA ver.)RX-110
ガブスレイ



サイコミュ兵器

サイコミュとは人の思考によって兵器を制御するシステムのこと、フランガン機関によって開発された。このサイコミュをMAに搭載させた結果、従来の操縦方式よりも機体を円滑に操縦ことができ、さらにミノフスキー粒子撒布下でも無線遠隔誘導兵器を操縦することが可能であった。サイコミュを初めて搭載して実戦に投入されたのは「フラー・プロ」である。サイコミュが小型化できず、機体が大型突撃艇並みの大きさとなつてはいるが、有線制御式のメガ粒子砲を装備してオールレンジ攻撃を可能としていた。続いて製作された「エルメス」は、無人随伴機であるビットを10機搭載し、ミノフスキー粒子撒布下での無線攻撃を可能とした機体である。ビットは超小型熱核

NEW TYPE

NT
機

ニュータイプ

反応炉とモノアイシステムを搭載した兵器であり、メガ粒子砲による攻撃が可能であった。そして、ジオンの威信をかけ開発された「ジオング」。この機体はサイコミュ高機動試験用ザクを基に開発されたNT専用MSで、高い機動性を誇るうえ有線制御式の5連装メガ粒子砲2基でオールレンジ攻撃が可能であった。本来ならば脚部ユニットを装備した「バーフェクトジオング」として完成される予定だったが、脚部の開発が遅れていたため80%の完成度で実戦に参加している。

一年戦争後、連邦軍はフランガン機関の研究結果を入手してNTの研究



究を行っている。そこで得られた技術

を基に開発されたのがサイコガンダムであり、バウンドドックであった。しかし、ジュビトリス製の重MS「ジ・O」にもサイコミュの一種であるパイオセンサーが搭載されていた。このパイオセンサーはシロロコ自身がジオンの技術を基に開発したものである。また、ジ・Oの設計自体は非常に実験的で、既存のMSと全く異なるコンセプトで設計され、サブマニビュレータと呼ばれる腕などが搭載されている。パイオセンサーによって機体の追従性が高く、機動性・運動性ともに優秀で超高性能な機体である。

また、アクシズへ逃げ延びたジオンの技術者たちによってもサイコミュの研究は続けられ、「キュベレイ」を完成させている。その設計コンセプトはエルメスをMS化することであった。サイコミュの搭載により機体制御を行い、ビットを基に開発された遠隔攻撃端末フアンネルを操作することが可能である。





陸上戦力

ジオン軍の陸上戦力は、ほとんどをMSに依存していたため、その他で開発された兵器はそれほど多くない。

「ダブデ」は移動司令部として使用された大型陸戦艇で、キャタピラにより高速移動が可能。2連装主砲2門と2連装機関砲2門を装備している。主砲射撃の際は4基の接地ダンパーを地面に降ろすことで本体を安定させていた。陸戦艇にはダブデのほかに「ギャロップ」が存在する。ホバー推進で走行するこの機体はMSを3機収納でき、カーゴと呼ばれる輸送車を牽引できた。また、機体左右のブリッジはそのまま脱出力ケーブルとして、機能する。「マゼラアタック」は高価なMSのみで地上の前線は維持できないと考えた軍

ジオン軍兵器

NEON WEAPON

通常兵器

が、補助兵器として開発した陸上部隊の主力戦車である。ジオンは地上用戦闘車両の開発ノウハウがないため、外見や能力が奇抜な戦車を作り上げている。175ミリ砲を搭載した砲塔部は異常に高い位置へと配置され、戦車の弱点である上面装甲を攻撃するため、このマゼラ・アタックの砲塔部は車体から分離して単独飛行が可能だった。そして分離後の砲塔部は「マゼラ・トップ」、車体部は「マゼラ・ベース」と呼ばれた。しかし、このマゼラ・トップの航続時間は極端に短く、飛行中の砲撃も精度が極度に低いという弱点があった。



航空戦力



スペースコロニーが母国であるジオン公国には「空」という概念がない。そのため航空機は存在せず、航空機開発技術は皆無に近かった。しかし、地球侵攻を考えた場合、航空戦力は必要不可欠であったため、航空機設計を既存の航空技術をベースにコンピュータシミュレーションのみで行っている。こうして開発されたジオンの航空機には特異なフォルムを持つ機体が数多く存在している。

「ガウ」は地球方面軍において最大の戦力と言える攻撃空母である。



胴体部にはMSを3機搭載でき、両翼にドップ型戦闘機を各4機づつ搭載可能で、主兵装には2連装メガ粒子砲4門を装備していた。大型輸送機である「ファットアングル」は、MSを直立させたまま一度に3機まで輸送することが可能であった。その巨体にも関わらず2基のローターを使って垂直上昇ができ、ジェットエンジンの推進力によって飛行した。偵察機「ルグン」は主に制空圏内のバトルル任務にあたった機体である。全翼機という特異なフォルムを持ち、後部に対空・対地兼用のレドームを2基装備していた。強力な推進ジェットエンジンを搭載しているが、戦闘能力は両翼端の2連装バルカンだけであった。「ドップ」は航空戦力の中核をなす主力戦闘機として開発された機体である。ミノフスキー粒子散布下での戦闘を想定して開発されているため、視界を広くとった特異な形状のコクピットが上部へと張り出し、風防が広く設けられていた。また、宇宙戦闘機の技術に応用しているため機動性が高いものの、航続距離が短いという欠点があった。胴体部には6連装ミサイルランチャーを2基搭載、バルカン砲も備えている。ちなみに、ドップには地球攻撃軍司令であるガルマ・

ザビの専用機も存在する。「ドダイYS」は爆撃機として開発された機体だが、大型のジェットエンジンを搭載していたため、その推力には充分な余裕があった。この利点を活かし、MS（ザクⅡもしくはグフ）1機を機体上部に乗せて輸送することが可能で、MSとの併用によりドダイYSは高い戦果をあげる。攻撃目標地点までMSを輸送し、地上の攻撃と制圧はMSが行い、ドダイYSは空からこれを支援するという戦法が生み出されている。

ドダイ
(シン機戦型機)

(ガルマ・ドップ専用機)

宇宙戦力

宇宙での戦いにおいては、MSが台頭していたために新たな兵器が生み出されることは少なかった。

宇宙戦闘機「ガトル」はMSが開発される前より宇宙用の主力戦闘機として使用されていた。機体正面の左右には5連装ミサイルランチャーを装備し、ふたつあるコクピットは射出装置として単独飛行が可能だった。また、対艦攻撃用のミサイルを機体両舷に2発づつ装備することもできた。宇宙突撃艇である「ジッコ」は、船首に7連装ミサイルランチャーを装備し、艦隊戦でガトルと共に攻撃の突破口を開くため先陣を切って活躍した。「スキウレ」はMS用拠点防衛の移動砲座である。ビッグロと同タイプの大型メガ粒子砲を装備しており長距離砲撃による強力な支援攻撃が可能であった。



スキウレ



ジッコ

ガトル

ドダイ
(シン機戦型機)

ドダイ

ドップ



ホバートラック

陸上戦力

連邦軍の陸上戦力でジオンのMSに対抗することは難しかった。対等に戦うためには自軍のMS開発を待つより他に方法はなかったのである。「ビクトレー」は、陸上戦艦と呼ばれていた大型陸戦戦艦の中でも最大規模を誇る地上兵器であった。推進力にホバークラフトを採用しているためあらゆる地形に対応し、移動司令部として運用されていた。



G1式戦車

地球連邦軍兵器

E.F.F.S.F. WEAPON

通常兵器



↑大規模な作戦においては必ずと言ってよいほど戦場に姿をあらわしたビクトレーは作戦司令部として機能していた。

「G1式戦車」は宇宙世紀0061年に制式採用された連邦軍の主力戦車であったが、旧式のため火力が低く、MSには全く歯が立たなかった。「ホバートラック」は、通信面のサポートとバッシュボンナーによる索敵で、側面からMSを支援するため開発された。また、当時の地上部隊では各MS小隊に支援戦闘車両を随行させるのが慣例となっていた。

航空戦力



ミテア改

戦前の連邦軍の主戦力は航空機であった。そのため連邦軍には数多くの機体が存在する。

大型輸送機「ミテア」は、輸送目的に最も多く使用されていた機体である。腹部に着脱可能な大型のコンテナを装着して、5基のローターで上昇、6基のジェットエンジンを推進力として飛行した。主に各基地や前線への補給物資の輸送に従事し、一年戦争後期には航続距離が向上した「ミテア改」を開発、戦後も使用されている。防空用の「T-1Nコッド」は運動性能が高く、高高度での



T-1N コッド

ゲルナグ

フライマン

F.F.F. T-1N コッド

ミットレー

戦闘を得意とする空間戦闘能力の高い機体だった。しかし、陸上で戦うMSが戦場の主役となったため、その価値は失われてしまう。だが、その性能の高さから、この機体をベースにコアファイターが開発されている。軍事基地など防衛拠点用に開発されたのが「ファンファン」である。2基のファンによるホバーリングにより自在に移動でき、命中率の高い有線式ミサイルを装備。正確には航空戦力ではなく、陸上戦力にあたる小型ホバークラフトであった。連絡用高速ジェット機である「コッシュ」には、高性能リーダーとソナーが組み込まれ、哨戒機として使われている。航空機による対MS戦で最も戦果を上げたのが、主力攻撃機である「フライマンタ」と、爆撃機である「アプ・ロック」である。フライマンタは爆弾搭載量が多く、対地攻撃に適していたが空戦能力は低く、戦闘機による護衛が必要不可欠であった。デブ・ロックは鉱山基地や森林に潜むMSに対し空爆を行う機体として投入されている。航空機の中でも正確には海上戦力にあたるのが「ドン・エスカルゴ」である。長い航続距離と優れた索敵能力を誇るこの機体は、ジオン潜水艦を発見し対艦ミサイルや魚雷で攻撃を行った。

宇宙戦力

宇宙戦闘機は、戦場の主役という立場をMSによって奪われたが、そのなかにも優秀な機体は存在した。「トリアーエス」は空軍と宇宙軍

によって開発された汎用戦闘機で、大気圏内外の両方での運用が行えた。同様に「セイバーフィッシュ」も多用途戦闘機で、大気圏内外での使用が可能であった。一年戦争の初戦では主力として使用され、その機動力で唯一MSに対抗することができた。宇宙戦用のミサイル突撃艇である「バブリク」は、腹部に抱えた戦艦クラスのミサイルでの対艦攻撃を主任務とした。また、ビーム攪乱幕を形成する特殊ミサイルを搭載することも可能であった。「コアファイター」はRXシリーズのコクピット兼脱出システムとして開発された小型戦闘機である。宇宙、大気圏内

FF-X7
コアファイター

の両方で運用を可能とするために、小型熱核ジェット・ロケットエンジンを使用し、これはMS収納時にジエネレータとしても機能した。武装は25ミリ機関砲と内蔵式のペンシルミサイルで、垂直離着陸能力も有している万能戦闘機であった。「Gアーマー」はガンダムの支援用増加装甲システムであるGパーツにガンダムを収容した爆撃形態で、ガンダムの長距離移動と装甲の強化を目的に開発されている。GメカAパーツとガンダムAパーツ及びコアファイターによって構成される



G-Armor



G-Attack



G-Force

FF-S3
セイバーフィッシュFF-4
トリアーエス

デンショ

ファンファン

ミザフ

重戦車は「Gブル」と呼ばれ、GメカAパーツとガンダムAパーツのみのイージタイプも存在した。また、GメカBパーツとガンダムBパーツおよびコアファイターによって構成される支援戦闘機形態は「Gスカイ」と呼ばれている。このGスカイもGブル同様、GメカBパーツとコアファイターによるイージタイプが存在する。また、GメカのABパーツだけで構成される高速戦闘機は「Gファイター」と呼ばれ、大口徑ビ-

FFA-08-BST
コアブースター

Gファイター



バスターライナー

ムキャノン2門とミサイルランチャー2基を装備し、並の戦闘機を凌駕する性能を持ち合わせている。コアファイターの航続距離延長と攻撃力増強のために開発されたのが「コアブースター」である。強力なメガ粒子砲を2門装備。コアファイター単体に比べ、スピード、機動性、攻撃力において遥かに上回る性能を持たせることに成功している。「バスターライナー」はMS用の移動砲台というべき機動兵器で、大出力のメガ粒子砲を装備していた。

戦後には宇宙航空機自体、開発されるのが少なくなってしまう。しかし、ガンダム試作1号機に搭載された「コアファイターII」や、Gアーミーのコンセプトを受け継いだガンダムMK-IIの強化ユニット「Gデューフェンサー」など、一年戦争時に開発された戦闘機は、発展型の開発が引き続き行われていった。

宇宙ボット

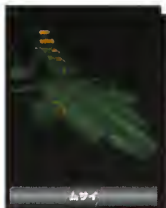
連邦軍の量産型MSが完成するまでの間、ジオンのMSに対抗するためその場しのぎに開発されたのが「ボール」である。この機体は軍だけでなく民間でも使用されていた。一般作業用スペースボットSP-W03をベースに、実戦に耐えうるための装甲や武装が施されたもので、標準武装こそガンタンの120ミリキャノンを流用装備しているものの戦闘能力は低く、連邦軍パイロットからの評判も良くなかった。しかし、生産コストの低さから量産が決定し、大戦中期には大量生産され、ジムの配備後は支援メカとして使用された。また、試験的に生産された「先行量産型ボール」は武装や装備が異なり、180ミリキャノン、ワイヤーランチャー、大型ミニキュレターが装備されていた。

RB-79K
先行量産型ボールRB-79
ボールFFA-060
GデューフェンサーFFA-XB-FB
コアファイターII (特設仕様)FFA-XB
コアファイターII

ババロサ

宇宙艦船

ジオン軍のほとんどの宇宙艦艇は、当初からMSの運用を考慮に入れて建造されていた。そしてこれが初戦時におけるジオン軍の勝利に大きく影響している。連邦軍に数の上で圧倒的に劣るジオン軍では、各艦にそれぞれMSの搭載能力と砲撃戦能力を持たせ、高い巡航能力を誇る宇宙艦艇が開発されていたのである。補給艦「バプア」と重巡洋艦「チベ」は、ジオンが共和国を名乗っていた時代に建造された艦艇である。この時代にはMSが開発されておらず、そのためバプアとチベはMS搭載機能を有していなかった。輸送艦バプアの形状は双胴船型で、片方だけで巡洋艦1隻分の補給を行うことができた。チベは3連装メガ粒子砲2門とミサイル発射口12門を持



ムサイ

ジオン艦船

NEON BATTLESHIP

ち、砲撃戦を得意とした艦である。

MS開発後は改修が施され、MS搭載能力を持ったチベが主流となり、一年戦争中は艦隊の旗艦クラスとして用いられている。このチベを再設計する形で建造されたのが「ティペ」で、この艦は砲撃能力を削ってまでMS搭載量が増加されており、本格的にMSが生産され始めると同時にMSの搭載量を最優先とした艦艇が建造されていく。ジオン宇宙軍の中心を成す軽巡洋艦「ムサイ」には、艦橋下部にMSを搭載させるための格納庫が設けられていた。2連装メガ粒子砲3門と大型ミサイルを主武装とし、艦首部には「コムサイ」が



コムサイ

備え付けてあった。大気圏突入能力のないムサイは、大気圏突入カプセルであるコムサイを地上と宇宙との連絡艇として使用している。また、大型カタパルトやブースターを使用することで、コムサイは地上と周回軌道を往復することもでき、その内部にはMSの搭載も可能だった。ちなみに、このムサイを改修した「ファンメル」という艦は、赤い彗星として名を馳せたシャア・アズナブルの乗艦である。旗艦型軽巡洋艦として指揮設備が施されたこの艦は、強力な通信機能を備えていた。このほかに、ムサイには生産時期によって改良が施された艦艇が存在する。



ファルメル

ムサイ(初期型)
(コムサイ分離中)

ムサイ(中期型)

ファンメル
(コムサイ分離中)ムサイ
(コムサイ分離中)

バプア



ザンジバル



↑一年戦争においてシオン軍で最も活躍した艦船がムサイ級MS一個小隊の搭載が可能で 艦船以上の戦闘能力を誇った

「ムサイ後期生産型」では、主砲である2連装メガ粒子砲を後部と艦艇部に追加装備することで死角がなくなり、コムサイも「コムサイII」と名称が変更された。これより後に生産された「ムサイ最終生産型」では、MS搭載量を増やすために艦自体を



↑ザンジバルは対艦戦闘およびMSを使った戦闘にも対応している。これは連邦軍における強襲揚陸艦と同じ設計思想である

大型化するよう再設計がなされている。宇宙のみに戦闘が限定されていたルウム戦役までは、チベ級とムサイ級が主力艦艇であった。しかし、ジオンが地球侵攻を開始したルウム戦役以降は、宇宙と地上の両方で航行可能な艦艇が必要とされる。機動巡洋艦「ザンジバル」はそのために開発された宇宙戦闘艦であった。大気圏突入を可能にするため、その船体はリフティング・ボディ形態に設計されており、ブースターを装着することで大気圏外への離脱も可能であった。また、チベやムサイと同様に武装に改良を施した「ザンジバル改良型」も存在する。

大型宇宙艦艇

ジオン軍の艦艇はそのほとんどが巡洋艦であるが、そのほかにも戦艦型と空母型が存在する。

「グワジン」は原則的にザビ家の者、もしくはそれに準じる者のみが艦の責任者として許される、ジオンが誇る大型戦艦である。並の宇宙艦艇を運べる火力を備えており、その巨大な船体には20数機ものMSが搭載可能であった。さらに、船体後部に取り付けた8個の燃料タンクで、本国であるサイド3から小惑星帯までを補給なしで航行できるという驚異の航行能力を秘めていた。船首にジオンの紋章が刻まれたグワジン級一番艦、グレート・デギンは、ジオン公国の公主デギン・ソド・ザビの専用艦として使用されている。ギレン・ザビ総帥以下、ドスル・ザビ中将、キシリア・ザビ少



グレート

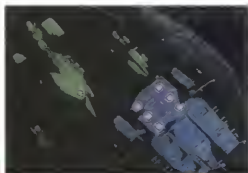


ザンジバルの発展型

コムサイ
(ムサイ最終型)ムサイ最終型
(コムサイ発展型)

ムサイ最終型

コムサイII



：多数のMSを搭載できるほかMAの搭載も可能だった。その反面で機動力が低かったため、移動要塞として扱われていた



↑ジオン艦隊の旗艦として開発されたクワジン級。非常に高性能だがコストが高く、わずかな数しか配備できなかった



潜水艦の開発技術を持たなかったジオンが潜水艦を開発することができたのは、キャリフォルニアの連邦海軍基地をほぼ無傷のまま制圧したためである。この基地にあった潜水艦を稼働可能な状態で接収し、その技術を解析することでジオンの潜水艦は開発されていく。

「ユーコン」は捕獲した連邦軍のミサイル潜水艦を改造して再生させた艦である。ミサイルサイロの一部がMS格納庫へと改装され、潜水艦隊の中核を成す戦闘型潜水艦として戦線に投入されている。「マッドアングラー」は、キャリフォルニア基地において連邦軍が完成途中で放棄した大型潜水母艦を改造した艦艇である。内部にMS6機とMA1機を搭載することが可能で、ジオン潜水艦隊の旗艦として運用された。



潜水艦

将にも一隻つつグワジン級が与えられているが、ザビ家の者以外にも元親衛隊のエンジニア・デラーズのように、その功績を讃えてグワジン級が下賜される場合もあった。またグワジン級を乗艦とすることは、ジオンの人間にとっては大変名誉なことであった。グワジン級は一年戦争が終結した後、アグシズに逃げ込んだ技術者たちの手によって開発は続けた。そして、グワジンをさらに超えるMS搭載数と火力を備えた「グワザン」が建造されている。一年戦争末期に開発された超巨大空母「ドロス」は、連邦とジオンの両軍を通じて最も巨大な艦艇であり、1000

機を超えるMSを搭載することが可能であった。もはや艦艇というよりも要塞といった趣で、たった1艦で1個艦隊に匹敵するほどの戦力を持つと言われている。船体前面には7星のMSカタバルトデッキを持ち、MSの展開能力は極めて高い。内部には各施設も充実しており、MSのメンテナンスや補給、改装といったさまざまな作業を行うことが可能だった。ドロス級は「ドロス」。「ドロフ」の2艦のみが建造され、ア・バオア・クー攻防戦へと投入されたが、両艦とも撃沈されている。一年戦争以降、ドロスのようなMS空母は建造されていない。

EARTH BATTLESHIP

艦船

連邦艦艇



ペガサス

宇宙艦船

連邦は地球圏の治安維持を目的に宇宙軍を設立し、巡洋艦「サラミス」と戦艦「マゼラン」を建造した。しかし、史上最大の艦隊戦と言われたルウム戦役において、連邦軍艦隊はジオンのMS隊に大敗し、連邦軍の宇宙戦力は激減してしまふ。そこで、失われた宇宙艦艇を再建造させるためにピンソン計画を発動させ、大艦巨砲主義の反省からMSの搭載能力を持つ「サラミス（後期生産型）」と「マゼラン（後期生産型）」を建造した。また、ルウム戦役の際に撃沈を免れたサラミスやマゼランへは、武装面を中心に改良が施され



マゼラン



パーミンガム

サラミス
(前期生産型)

「サラミス改」や「マゼラン改」へと改修された。また、ルウム戦役以降にも大艦巨砲主義をそのまま受け継いだ「パーミンガム」が建造され就役している。また、輸送艦として「クロンプス」戦後には「クロンプス改」も建造されている。

ペガサス級

連邦はV作戦によってMSを開発しているが、このV作戦にはMSを運用できる新造艦を建造するという目的もあった。そこで建造されたのが強襲揚陸艦「ペガサス」級である。前部左右のカタバルトデッキにはMSを1個小隊（3機）づつ、計6機を搭載することができるよう設計されている。また、船体の中央や後部フライトデッキには、大気圏内用MS輸送機であるガンベリイ1機と移動用のランチ2隻、さらに汎用小戦艦機コアファイター6機を搭載することができた。後部左右には推進器である熱核ロケット/ジェットエンジンを搭載しており、高い推力を得ることが可能だった。船体構造は完全にブロック化されており、被爆時に誘爆の恐れがある場合には、速やかに分離させて被害を最小限に抑えるようになっていた。武装は2連装主砲1門、メガ粒子砲2門、対空機銃、ミサイルなどを装備している。



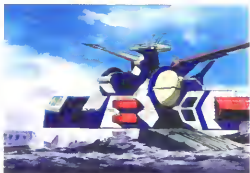
マゼラン改

サラミス改

クロンプス

マゼラン
(後期生産型)

サラミス



↑WBは数々の激戦を経てシャッフローへと帰還する。その後はティターンズ艦隊所属の第13独立部隊へと編入された

また、宇宙空間での航行のほかに、ミノフスキー・クラフトによる大気圏突入や離脱、そして大気圏内での航行も可能であった。航続距離や火力、MSの搭載数などから敵陣深く攻撃できるように設計されており、1艦であらゆる任務が遂行できた。

サイド7にて実働データを取っていたRXシリーズの回収が目的でジャブローを出航したのが「WB（ホワイトベース）」である。また、ジオン軍ではその形状から「木馬」というコードネームで呼称している。「グレイファントム」はベガサス級の5番艦として就役した艦であったが、ベガサス級は試作運用艦である



アルビオン

ため数多くの試みが盛り込まれ、同型でも形状の異なる部分を多く持っていた。戦後に建造されたベガサス級は、7番艦「アルビオン」である。ガンダム開発計画の1環として建造されたこの艦では、新型ガンダムのテスト運用の母艦として機能することになっていた。また、建造の際にはホワイトベースを始め、ベガサス級の実戦データがフィードバックされ、外見やさまざまな各種装備も再設計され、現実にはほぼ新造艦と呼べるほどの改良が施されている。特にMSや戦闘機の運用に関しては、発艦システムや格納庫のレイアウトなど、以降に開発される連邦艦艇の設計に大きな影響を与えている。他のベガサス級同様に、ミノフスキー・クラフトにより大気圏突入能力及び大気圏内の航行が可能で、連邦の戦闘艦としては初めて新技術のレーザー推進システムを搭載した艦であった



↑ジオンの降下作戦では数多くのHL Vが地上へと降下し、その後は資材や兵員、そしてMSの輸送のために利用された

「HLV」は連邦とジオンの両軍において使用された、大気圏突入・離脱用カプセルである。60名もの兵員を収容することができ、MSや戦闘車両の搭載も可能であった。



HLV

HLV



U型機体

M型機体

グレイファントム

ホワイトベース

コロンス級

機動戦士ガンダム キレンの野望

ジオンの系譜



角川ゲームコレクション

機動戦士ガンダム

キレンの野望

ジオンの系譜
攻略サイドブック



2000年3月31日初版発行

●発行人 青木義一郎
●発行所 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
営業 03-3238-8530
編集 03-3238-8533
振替 00130-9-185208

●編集 執筆 櫻本節子（角川書店）
梶野秀介（角川書店）
岩井 誠（オーバーツ）
坂井由人
坂井源人
新井博之

●協力 サンライズ
バンダイ

●装幀・デザイン 高木信義

●DTP・アシスト 森 民隆（St.ZERO）

●印刷・製本 株式会社 廣済堂

●落丁・乱丁本はご面倒でも小社営業部受付センター誤者
係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいた
します。

©劇団エージェンシー・サンライズ
©バンダイ 2000

Printed in JAPAN
禁無断転載・複製
ISBN4-04-707045-9 C0076

Kadokawa Game Collection



機動戦士ガンダム

ギレンの野望

ジオンの系譜

攻略サイドブック



MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

Conquest Side Book



Kadokawa
Game
Collection

機動戦士ガンダム
ギンシャムの野望
ジオン
の系譜
攻略サイドブック

●角川書店



Kadokawa Game Collection

機動戦士ガンダム

ギレンの野望

ジオンの系譜

攻略サイドブック

宇宙世紀のIFを読み解け!

攻略を超えた情報量!! 究極の『ジオンの系譜』戦史解説書 登場!!

Kadokawa Game Collection

機動戦士ガンダム ギレンの野望～ジオンの系譜～攻略サイドブック



9784047070455



1920076012006

ISBN4-04-707045-9

C0076 ¥1200E

定価：本体1200円(税別)

角川書店

MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

Conquest Side Book



アニメムービーパート完全公開!エピソード徹底解説!!

アニメムービーパート完全公開!エピソード徹底解説!!

アニメムービーパート完全公開!エピソード徹底解説!!

アニメムービーパート完全公開!エピソード徹底解説!!

Kadokawa
Game
Collection

機動戦士ガンダム
キレシンの野望

シン
オ
ン
の
系
譜
攻
略
サ
イ
ド
ブ
ッ
ク

角
書
店



Kadokawa Game Collection

機動戦士ガンダム

ギレンの野望

ジオンの系譜

攻略サイドブック



9784047070455



1920076012006

ISBN4-04-707045-9

C0076 ¥1200E

定価：本体1200円(税別)

角川書店

MOBILE SUIT GUNDAM
GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

Conquest Side Book



Kadokawa
Game
Collection

機動戦士ガンダム
シリーズの
野望

シン・オメガ
の系譜
攻略ガイド
ブック

角川書店